

1300迄 (2243件)

1251年-05:30|インド| |||<即位>後期パーンデヤ朝国王ジャタヴァルマン・スンダラ・パーンデヤ1世(〜1268年)
1251年-05:30|インド| |||<即位>パーンデヤ朝君主「Jatavarman Sundara Pandyan1世」(〜1268年)
1251年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルダ・ウルス・ハン「オルダ」
1251年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルダ・ウルス・ハン「コンギラン」(〜1280年死去)
1251年-02:00|トルコ| |||<即位>メンジューク(デイフリー)君主「Melik Salih」(〜1277年)
1251年-01:00|ドイツ| |||<死去>オルデンブルク伯「オット1世」
1251年-01:00|フランス| |||<就任>オセール伯「Alix」(〜1290年死去)
1251年-01:00|ポーランド| |||<就任>グウォグフ公「コンラット1世」(〜12740806)
1251年-01:00|フランス| |||<就任>ピゴール伯「Alicie」「Raoul」(〜1256年)
1251年-01:00|フランス| |||<就任>フランドル伯「ギー」(〜13050307死去)
1251年-01:00|フランス| |||<就任>ルテル伯「コーティエ」(〜1262年)
1251年-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公「オットカール2世」フシェミル(〜12780826死去)
1251年-01:00|イタリア| |||<即位>スポレート公「ハルトホルト」(〜1276年)、<復位>「ハルトホルト」(2期目〜1276年)
1251年-01:00|スペイン| |||カスティリア王国、ナスル朝を除いてイスラム小王国をすべて併合
1251年-01:00|フランス| |||パリに高等法院創設
1251年1月24日-08:00|中国| ||大理・道隆13年|<死去>後大理第7代皇帝「孝義帝(段祥興)」
1251年1月24日-08:00|中国| ||大理・道隆13年|<即位>後大理第8代皇帝「天定賢王(段興智)」(〜1253年)
1251年1月25日-09:00|日本| ||建長3年1月2日|<死去>利子内親王(式乾門院)(55歳)守貞親王の皇女、伊勢斎宮
1251年2月9日-01:00|フランス| |||<死去>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「マチュー2世」
1251年2月22日-07:00|ベトナム| ||大越・元豊1年2月|大越・元豊と改元(〜1258年旧2月24日)
1251年3月20日-09:00|日本|和歌山県田辺市|建長3年2月27日|熊野本宮が炎上
1251年5月-06:30|ミャンマー| |||<死去>パガン王朝君主「チャゾー」
1251年5月-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「オサナー」(〜1256.5死去)
1251年6月-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス/イタリア| |||<就任>フランク・ローマ帝国総督「ハイルン公オット2世」(〜12531129没)
1251年6月6日-01:00|フランス/ベルギー| |||<再任>フランドル伯「マルグリット2世」(〜12781229退位)
1251年6月6日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ギヨーム2世」
1251年6月23日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「ストゥルラ・トルダ・ルソン」(〜1252年)
1251年6月24日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フェリ3世」(〜13021231死去)
1251年7月1日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗1年6月11日|<即位>モンゴル帝国第4代皇帝「憲宗モンケ」(〜憲宗9年7月21日1259年8月11日)チンギスの四男トлуйの長男
1251年7月20日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗1年7月|モンケ・ハーンがフビライを中国遠征事業に派遣
1251年9月17日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・高宗39年9月|高麗で大蔵経の版木復刻事業が完成
1251年11月30日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|建長3年10月16日|吉野水分社玉依姫命像(伝持連)できる
1251年12月6日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公「オットカール2世」(〜12761121)
1251年12月6日-01:00|チェコ/オーストリア| |||ボヘミアはオーストリア公国(〜12761121)、シュタイアーマルク(〜1254年)を統治
1251年12月11日-09:00|日本| ||建長3年10月27日|藤原為家続後撰和歌集を撰進
1252年-05:30|インド| |||ヤタヴァルマン朝クリシュナがパランバルールでホイサラ朝を破る
1252年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ウルス・ハン「イェス・モンケ」
1252年-05:00|ウズベキスタン| |||<復位>チャガタイ・ウルス・ハン「カラ・フレグ」(〜同年死去)⇒<即位>「オルカナ」カラ・フレグ およびアルカ
らの正妃(女性)(〜1260年)
1252年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン公「イングヴァル2世」イングヴァレウイチ
1252年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国「ゴロド」公「ヴァシーリー・アレクサンドロウイチ」(〜1255年)
1252年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン大公「オルグ1世」イングヴァレウイチ赤公(〜1258.3死去)
1252年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Nusrat al-Din」(〜1257年)
1252年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「タギーシャー・イブン・サルグルシャー」(〜1272年)
1252年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ポロツク公「タウトウイラス」(〜1263年死去)
1252年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「トマス・ジュスティニアニ」(〜1254年)
1252年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Ganah」(〜1262年)
1252年-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト＝ベルンブルク侯「Bernhard1世」(〜1287年死去)
1252年-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト＝ツェルプスト侯「Siegfried1世」(〜12980325死去)
1252年-01:00|アルバニア| |||<即位>アルバノン公「コーレム」(〜1256年)
1252年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Richard de Grey of Codnor」(3期目〜1254年)
1252年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Magnus Olafsson」(〜12651124死去)
1252年1月-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アンティオキア公「ボエモン5世」
1252年1月-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アンティオキア公「ボエモン6世」(〜1268年)
1252年1月23日-04:00|アルメニア| |||<死去>キリキア・アルメニア王国女王「イザベラ」
1252年1月23日-02:00|トルコ| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「ザベル(イザベラ)」
1252年2月7日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長3年12月26日|鎌倉、三浦了行・千葉久連らが謀反を企て逮捕される
1252年2月12日-09:00|日本| ||建長4年|<任命>周防国守護「長井泰重」(〜不詳)
1252年2月12日-09:00|日本| ||建長4年|<任命>長門国守護「二階堂行忠」(〜建治2(1276年))

1300迄 (2243件)

1252年2月12日-09:00|日本| ||建長4年|<任命>尾張国守護「中条頼平」(~不詳)
1252年2月12日-08:00|中国| ||大理・天定1年|後理国の段興智が天定(-1253年)と改元
1252年2月12日-07:00|ベトナム| ||大越・元豊2年|<即位>チャンパ王「ジャヤ・インドラヴァルマン6世」(~1265年)
1252年3月31日-09:00|日本| ||建長4年2月20日|<廃位>第5代鎌倉将軍「藤原頼嗣」北条時頼により
1252年4月1日-09:00|日本| ||建長4年2月21日|<死去>九条道家(60歳)摂政・関白・左大臣
1252年4月5日-09:00|日本| ||建長4年2月25日|<死去>常陸佐竹氏4代目当主「佐竹義重」67才/長義が継ぐ
1252年4月11日-09:00|日本| ||建長4年3月|<任命>遠江国守護「北条朝直」(~不明)
1252年5月10日-09:00|日本| ||建長4年4月1日|<任命>鎌倉第6代将軍「宗尊親王」後嵯峨上皇の皇子
1252年5月30日-01:00|スペイン/フランス| ||<死去>レオン国王・カスティーリャ国王「フェルナンド3世聖王」兼マール伯「Ferdinand1世」
1252年5月30日-01:00|フランス| ||<就任>マール伯「Ferdinand2世」(~1260年)
1252年5月30日-01:00|スペイン| ||<即位>レオン国王・カスティーリャ国王「アルフォンソ10世賢王」(~12840404死去)
1252年6月9日-01:00|ドイツ| ||<死去>ブラウンシュヴァイク=リュネブルク公「オットー1世」
1252年6月9日-01:00|ドイツ| ||<即位>ブラウンシュヴァイク=リュネブルク公「アルブレヒト1世」オットー1世の息子、ウオルフェンビュッテル侯領を継承(⇒1269年ブラウンシュヴァイク公~12790815死去);「ヨハン」アルブレヒト1世の弟、リュネブルク侯領を継承(~1269年)
1252年6月21日 00:00|アイスランド| ||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「白人詩人オラフール ソート・ダルソン」(2回目~1253年)
1252年6月29日-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<死去>デンマーク王・シュレースヴィヒ公「アーベル」戦死
1252年6月29日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王代行「クリストファー1世ウアルデマルセン」ウアルデマー2世とベレンガリア・デ・ポルトガルの三男(⇒12. 25、王~12590529没)
1252年7月15日-09:00|日本| ||建長4年6月8日|<死去>観子内親王(宣陽門院)(72歳)後白河天皇の皇女
1252年7月24日-04:00|ロシア| ||<即位>ウラジーミル大公「聖アレクサンドル1世・ネフスキー」(~12631114死去)
1252年7月24日-04:00|ロシア| ||<即位>スズダリ公「アントレイ・ヤロスラヴィチ」(~1264年)
1252年7月29日-02:00|リトアニア| ||メメル伯、プロイセンのドイツ騎士団によって設立
1252年9月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長4年8月17日|鎌倉・長谷大仏が木像から金銅像に鋳直して完成
1252年11月3日-09:00|日本| ||建長4年9月30日|幕府諸国に沽酒の禁制を下す
1252年11月4日-09:00|日本| ||建長4年10月|湯浅宗業, 説話集「十訓抄」成る
1252年11月6日-09:00|日本| ||建長4年10月3日|<就任>摂政「鷹司兼平」
1252年11月26日-01:00|フランス| ||<死去>フランス王国摂政「ブランシュ・ド・カスティーユ」(フランス王ルイ9世の母)パリで(1188~、64歳)
1253年-04:00|ロシア| ||<即位>プスコフ公「ヤロスラフ・ヤロスラヴィチ」(~1256年)
1253年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リガニア騎士団団長代行「エバーハルト・フォン・ザイン」(~1254年)
1253年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ラニエル・ゼン」(~1268年)
1253年-01:00|イタリア| ||<就任>ミラノ・シニョレ「マンフレディ・ランチア」(~1256年)
1253年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<即位>シュレースヴィヒ公「ウアルデマー3世」(~12570809死去)
1253年1月18日-02:00|キプロス| ||<死去>キプロス王国国王「アンリ1世肥満王」35歳
1253年1月18日-02:00|キプロス| ||<就任>キプロス王国摂政「ブルサンス・デ・アンティキア」(~12610922死去)
1253年1月18日-02:00|キプロス| ||<即位>キプロス王国国王「ユーク2世」(~12671205死去)
1253年1月31日-09:00|日本| ||建長5年|<任命>肥後国守護「北条時章」(~文永9(1272年))
1253年1月31日-07:00|ベトナム| ||大越・元豊3年|大越・チャン・タイ・トン(陳太宗)帝が国子監を建立、全国の儒学者を集め、四書五経を講じさせる
1253年1月31日-03:30|イラン/モンゴル| ||元・憲宗3年1月|モンゴル帝国のフラグ軍がイラン遠征に出発
1253年1月31日-08:00|中国| ||宋・寶祐1年1月1日|南宋の理宗が宝祐(-1258年)と改元
1253年4月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「オド・スカリ」(「アントレア・スパーヒ」)
1253年5月26日-09:00|日本|千葉県鴨川市|建長5年4月28日|日蓮が清澄寺で日蓮宗を開き、法華経の布教を開始
1253年6月3日 00:00|イギリス| ||<死去>ウリック女伯「マーガレット・ド・ボーモント」
1253年6月3日 00:00|イギリス| ||<就任>ウリック伯「ウィリアム・モテューイ」先代の従兄弟(~12680108死去)
1253年6月11日-01:00|イタリア/フランス| ||<死去>サヴォイア伯「アメーオ4世」
1253年6月11日-01:00|イタリア/フランス| ||<就任>サヴォイア伯「ボニファチオ」(~1263年死去)
1253年6月12日-01:00|イタリア| ||<死去>モンフェラート侯「ボニファチオ2世」
1253年6月12日-01:00|イタリア| ||<就任>モンフェラート侯「グリエルモ7世」ボニファチオ2世の子(~12920206)
1253年6月20日 00:00|アイスランド| ||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「テイトゥール・エイナルソン」(~1258年)
1253年6月24日-01:00|フランス/イタリア| ||<就任>サヴォイア伯「ボニファチオ」(~12630607死去), 「トマーズ2世」(~12590207死去)
1253年7月6日-02:00|リトアニア| ||<即位>リトアニア大公「ミンダウガス」⇒リトアニア王(~12630912甥のトレニオに暗殺される)
1253年7月8日-01:00|スペイン/フランス| ||<死去>ナヴァル王「テオバルト1世」兼シャンパニュ伯「ティボ-4世」52歳
1253年7月8日-01:00|スペイン/フランス| ||<即位>ナヴァル王「テオバルト2世」兼シャンパニュ伯「ティボ-5世若年王」テオバルト1世とマルグリット・ド・ブルボンの男子(~12701204死去32歳)
1253年7月22日-01:00|イタリア| ||<死去>チロル伯「Albert4世」
1253年7月22日-01:00|イタリア| ||<就任>チロル伯「Meinhard1世」(~12580722死去)
1253年9月21日-01:00|チェコ| ||<死去>ボヘミア王「ウァーツラフ1世隻眼王」
1253年9月21日-01:00|チェコ| ||<即位>ボヘミア王代行「オカル2世大王」ウァーツラフ1世の次男(オーストリア公「オットカール2世プロシムル」(⇒12611225、王~12780826死去))

1300迄 (2243件)

1253年9月22日-09:00|日本| ||建長5年8月28日|<死去>道元(54)日本曹洞宗宗祖「正法眼蔵」
1253年9月24日-08:00|中国/モンゴル| ||憲宗3年9月|モンゴル帝国のフレグ軍がチベット・雲南の遠征に出発
1253年10月-03:00|サジアラビア| ||<死去>メッカ・シャリフ「アブー・サード・ハサン・ブン・アリー・ブン・カタダ」ジヤンマズ・ブン・ハサンによ
って殺された
1253年10月-03:00|サジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「ジヤンマズ・ブン・ハサン・ブン・カタダ」(~12540220)
1253年10月-03:00|サジアラビア| ||<退位>メッカ・アミール「Abu Numayy Muhammad ibn Abi Sa'd」
1253年10月10日-01:00|ドイツ/イタリア| ||コンラート4世がナポリを征服し、シチリアの反乱を鎮圧
1253年10月24日-09:00|日本| ||建長5年10月1日|幕府奴婢雑人の法を定む
1253年11月29日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス/イタリア| ||<死去>ハインリッヒ公・ライン宮中伯・フランク・ローマ帝国総督「オットー2世」4
7歳
1253年11月29日-01:00|ドイツ| ||<即位>下ハインリッヒ公「ハインリッヒ13世」オットー2世の次男(~12900203死去)
1253年11月29日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||<即位>上ハインリッヒ公・ライン宮中伯「ルートヴィヒ2世」オットー2世の長男(~12940202
死去)
1253年12月-02:00|ラトヴィア| ||<死去>リグランド公「ニコラス・フォン・サウエン」
1253年12月17日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長5年11月25日|北条時頼、蘭溪道隆を開山として福山建長興國
禪寺(建長寺)創建<臨済宗建長寺派大本山>
1253年12月22日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長5年12月|この月鎌倉大火、人が多く焼死
1254年-05:30|インド| ||<建国>レインプール国
1254年-05:30|インド| ||<即位>ホイヤ朝国王ナラシンハ3世「ソメーシュヴァラの長子」(~1292年)(カナヌール王統)ラマナタ「ソメーシュ
ヴァラの次子」(~1295年)
1254年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ジョヴァンニ・ダ・カレ」(~1255年)
1254年-02:00|エストニア/デンマーク| ||<就任>デンマーク・エストニア総督「サクリ」(~1257年)
1254年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リグランド騎士団団長「アノ・フォン・ザンガー・ハウゼン」(~1256年)
1254年-02:00|ラトヴィア| ||<就任>リグランド公「アルブレヒト2世スエビル」(~12550120)
1254年-02:00|エジプト| ||<復位>ハリー朝スルタン「Izz-ad-Din Aybak」(~1257年)
1254年-01:00|ドイツ| ||<就任>フェルデツツ伯「Gerlach5世」(~1260年)
1254年-01:00|オーストリア| ||<即位>シュターアマル公「ヘーラ4世」(~1258年)
1254年-01:00|ドイツ| ||ラント平和維持のため、ライン都市同盟が結成
1254年1月2日-08:00|中国| ||大理・天定2年12月12日|<廃位>後大理第8代皇帝「天定賢王(段興智)」モンゴルのウリヤ
ン・カグイに敗れて捕らえられ降伏
1254年1月17日-01:00|フランス/シリア・アラブ| ||ルイ9世がアイユーブ朝スルタンと休戦協定を締結
1254年1月17日-01:00|フランス/モンゴル| ||ルイ9世の使者フランス修道会ルックがモンケ・ハーンに拝謁
1254年1月30日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長6年1月10日|鎌倉大火、焼死者多数
1254年2月12日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建長6年1月23日|三十三間堂の本尊(湛慶作、千手観音菩薩像)
造立
1254年2月20日-03:00|サジアラビア| ||<即位>メッカ・アミール「ラージー・ブン・カタダ・ブン・イドリース・アル＝ハサーニー」(7回目~4月廃
位)
1254年3月9日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建長6年2月19日|法住寺火災
1254年3月28日 00:00|イギリス| ||<死去>ダーク・バー伯「William de Ferrers」
1254年3月28日 00:00|イギリス| ||<就任>ダーク・バー伯「Robert de Ferrers」(~1279年死去)
1254年4月-03:00|サジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「カーニム・ブン・ラージー」(~11月、廃位)
1254年4月-03:00|サジアラビア| ||<廃位>メッカ・アミール「ラージー・ブン・カタダ・ブン・イドリース・アル＝ハサーニー」
1254年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・アルデルビのタッデオ」
1254年4月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー・島・ガーンジー・島主「エドワード王子」(~1272112
0)
1254年4月19日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・憲宗4年;高麗・高宗42年夏|(夏)モンゴルが高麗を攻める
1254年4月26日 00:00|イギリス| ||イングランド政府が、課税に関して史上初の全国州代表集會を招集
1254年5月18日-09:00|日本| ||建長6年5月1日|幕府が人質の法を制定し、人質を禁止
1254年5月21日-01:00|ドイツ/スイス/イタリア/パレスチナ/フランス| ||<死去>ドイツ王・ブルグント王「コンラート4世」兼シュヴァーベン大公「
コンラート3世」兼シチリア王「コッラート」兼エルサレム国王「コンラート2世」26歳
1254年5月21日-01:00|ドイツ/スイス/イタリア| ||<即位>シチリア王「コッラート・イノ」兼シュヴァーベン大公「コンラート・イン」兼エルサレム国王「コ
ンラート3世」コンラート2世とエリザベト・フォン・バイエルンの息子(~12681029死去16歳)
1254年6月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド判事「リチャード・ド・ラ・ロシェル」(1回目~1256年6月)
1254年10月11日-02:00|トルコ| ||トルコ・エルジンヤン西で地震、死者1万5千人
1254年11月-03:00|サジアラビア| ||<廃位>メッカ・シャリフ「カーニム・ブン・ラージー」
1254年11月-03:00|サジアラビア| ||<復位>メッカ・シャリフ「アブー・ヌマイム・ハンマド・ブン・アビー・サード」、「イドリース・ブン・カタダ」(~125
50106廃位)
1254年11月3日-02:00|トルコ| ||<死去>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス3世ドゥーカス・ヴァタツェス」
1254年11月3日-02:00|ギリシャ| ||<死去>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス3世ドゥーカス・ヴァタツェス」
1254年11月3日-02:00|トルコ| ||<即位>ニカイア帝国(ラカリス朝・東ローマの亡命政権)皇帝「テオドロス2世ラカリス」ヨハネス3世ドゥー
カス・ヴァタツェスとイレネー・ラカリスの長男(~12580818死去)
1254年11月3日-02:00|ギリシャ| ||<即位>ニカイア帝国皇帝「テオドロス2世ラカリス」(~12580818、死去)

1300迄 (2243件)

1254年12月7日-01:00|バチカン| |||<死去>第180代ローマ教皇「インノケンティウス4世」
1254年12月12日-01:00|バチカン| |||<就任>第181代ローマ教皇「アレクサンデル4世」(~12610525死去)
1255年-05:30|インド| |||<建国>サト国
1255年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Chandrabhanu」(~1263年)
1255年-05:30|インド| |||<即位>ジャマラ王国国王「Jayavarman2世」(~1274年)
1255年-05:30|スリランカ| |||シハラ王朝が、ホロンナルを完全放棄。首都は、これ以降、ヤハ・フワ、ホロンナル、クルネーガラ、ガンホラ、コッテと変遷
1255年-05:00|ガザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「ハトウ」
1255年-05:00|ガザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「サルタク」ハトウの長男(~1257年死去)
1255年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ヤロスラフ・ヤロスラヴィチ」(~同年)⇒<再任>「ヴァシーリ・アレクサンドロヴィチ」(~1257年)
1255年-03:30|イラン| |||<死去>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam 'Ala al-Din Muhammad (Muhammad3世)」
1255年-03:30|イラン| |||<即位>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam Rukn al-Din Khurshah」(~1256年死去)
1255年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「アンジエロ・モシーニ」(~1259年)
1255年-01:00|フランス| |||<就任>ヌール領主「ゴージェ3世・ド・ヴァルベオン」(~1270年)
1255年-01:00|ドイツ/ポーランド/ロシア| |||プロセンでケーニヒスベルグ(現カリニングラード)が建設される
1255年 00:00|マリ| |||<死去>マリ帝国マンサ「スンジャタ・ケイタ」
1255年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「トウアロ」(~1275年)
1255年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「マンサ・ウリ・ケイタ」(~1270年)
1255年 00:00|イギリス| |||スコットランド国王アレクザンダー3世は親政に乗り出し、摂政のジョン・ベリヤルらを追放
1255年 00:00|ポルトガル| |||ポルトガル王国の首都がコインブラからリスボンに移った
1255年1月1日-09:00|日本| |||建長6年11月21日<死去>三河守護「足利義氏」
1255年1月3日-09:00|日本| |||建長6年11月23日<幕府>武士の狼藉・人身売買を停止
1255年1月6日-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「フサイン・イブン・アリ・イブン・ヒルタス・ムハリス・アルディン」(~12550306)
1255年1月6日-03:00|サウジアラビア| |||<廃位>メッカ・シャリフ「アブー・ヌマイ・ムハンマド・ブン・アビー・サード」、「イドリス・ブン・カタダ」
1255年1月11日-09:00|日本| |||建長6年12月2日<就任>関白:鷹司兼平(~弘長元年4月29日)
1255年1月20日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「アルブレヒト2世」(~1273年)
1255年2月9日-08:00|中国| |||元・憲宗5年<即位>天山ウイグル王国「イクト・オグルチ・テギン(玉古倫赤斤)」サランティイの弟(~1265年)
1255年3月-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<死去>ミフラーニド朝マリーク「Shams al-Din 'Ali ibn Mas'ud」
1255年3月6日-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「イドリス・ブン・カタダ」(~1256年、一時退位)、「アブー・ヌマイ・ムハンマド・ブン・アビー・サード」(~1270年11月)
1255年3月19日-09:00|日本| |||建長7年2月10日<死去>雅成親王(56歳)後鳥羽天皇の皇子
1255年3月21日-09:00|日本|奈良県奈良市|建長7年2月12日|興福寺僧徒が東大寺房舎を焼く
1255年3月30日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長7年2月21日|執権北条時頼が大壇那となって数千人の浄財と勧進によって巨大な鐘が建長寺に吊り下げられる
1255年7月6日-09:00|日本|京都府京都市東山区|建長7年6月|九条道家の祈願による東福寺伽藍が完成/東大寺と興福寺から一字ずつとって寺名にした
1255年7月7日-05:45|ネパール| |||<死去>マ王国「アブハヤ・マラ」地震により
1255年7月7日-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Jayadeva・マラ」(~1260年)
1255年7月7日-05:45|ネパール| |||ネパールのカトマンズで大地震。カトマンズ盆地の人口の1/3(10万人以上)が死亡
1255年9月29日-01:00|イタリア| |||<死去>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「モンテフェルトラノ2世・ダ・モンテフェルトロ」
1255年9月29日-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「ゲイト・ダ・モンテフェルトロ(老伯)」(~1285年死去)
1255年12月22日-09:00|日本|愛知県岡崎市|建長7年11月22日|三河国滝山寺法華堂の落慶供養が行われた
1256年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ラタウ1世」(~1258年)
1256年-04:00|ロシア| |||<即位>プロスコフ公「スギヤトスラフ・ヤロスラヴィチ」(~1266年)
1256年-04:00|アルメニア/イラン| |||アルメニアはイル＝ハナート(ペルシャ)の一部(~1353年)
1256年-03:30|イラン| |||<死去>ニザリ・イスマイリ国君主「Imam Rukn al-Din Khurshah」
1256年-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝大書記「Sayf al-Din Bitikchi」(~1263年)
1256年-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「フレク」建国(~12650208死去)
1256年-03:00|サウジアラビア| |||<復位>メッカ・シャリフ「イドリス・ブン・カタダ」共同統治(~1268年)
1256年-03:00|イラク/モンゴル| |||モンゴルのフラーグ軍がイスマイル派のアラムト砦を陥落
1256年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||スタクはベネチア支配下(~1274年)
1256年-01:00|アルバニア/ギリシャ| |||<就任>ギリシャのアルバニア司令官「コンスタンティノス・シャウアロン」(~1258年)
1256年-01:00|ベルギー| |||<就任>ナミュール伯「アンリ3世」アンリ1世の外孫(~1264年)ルクセンブルク伯
1256年-01:00|フランス| |||<就任>ピゴール伯「Esquivat」(~1283年死去)
1256年-01:00|アルバニア/ギリシャ| |||アルバニアをビザンチン(ビザ)が占領(~1258年)
1256年-01:00|スペイン| |||カスティリヤ王アルフォンソ10世が「七部法典」を編纂
1256年 00:00|イギリス| |||<死去>2代キャリック伯「ニール」
1256年 00:00|イギリス| |||<就任>3代キャリック伯「マージョリー」先代の長女(~1292年死去)
1256年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ダニエル・ド・モントギメリー」(~1257年)

1300迄 (2243件)

1256年1月4日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<死去>ケルテン公「ヘーレンハルト」
1256年1月4日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公「ウルリッヒ3世」(~12691027死去)
1256年1月28日-01:00|ドイツ/オランダ/イタリア/フランス/スイス| |||<死去>ドイツ王・イタリア王・ブルグント対立王「ヴィルヘルム・フォン・ホーント」兼ホーント伯「ウィルム2世」
1256年1月28日-01:00|オランダ| |||<死去>ホーント伯「ウィルム2世」
1256年1月28日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<就任>神聖ローマ帝国宰相「マインツ大司教ダウとキルブルクのゲルハルト・ヴィルトゲラフ」(~12570113)
1256年1月28日-01:00|オランダ| |||<就任>ホーント伯「フロリス5世」ゼーラント伯(~12960627死去)
1256年1月29日-09:00|日本| ||建長8年|<任命>武蔵国守護「北条氏」(~不明)
1256年1月29日-08:00|中国/モンゴル/トルコ| ||元・憲宗6年|モンゴル軍がふたたびセルジューク・トルコ軍を破る
1256年5月-06:30|ミャンマー| |||<死去>パガン王朝君主「オウサナー」
1256年5月6日-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「ナラティ・ハパティ」(~元に降伏した1287年をもって事実上滅亡~12870701死去)
1256年5月12日-01:00|フランス| |||<死去>シャトル伯「Matilda」
1256年5月12日-01:00|フランス| |||<就任>シャトル伯「John1世」(~12800505死去)
1256年5月23日-09:00|日本| ||建長8年4月27日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条時茂(極楽寺流常盤氏)」(~文永7(1270)年1月27日)
1256年6月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「アラン・デ・ラ・スー・シェ、スー・シェ卿」(~1259年3月)
1256年6月13日-09:00|日本| ||建長8年5月19日|<死去>湛慶(84歳)仏師
1256年7月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミハイル2世アセン」
1256年7月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「カリマン・アセン2世」(~9月死去)
1256年7月9日-09:00|日本|京都府京都市|建長8年6月16日|祇園社僧徒と清水寺僧徒が争い、六波羅探題が鎮撫
1256年8月4日-09:00|日本|岐阜県美濃市|建長8年7月13日|尾張国の僧果願、美濃国大師堂に泰澄坐像を寄進
1256年8月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長8年7月17日|北条時頼、鎌倉に最明寺を建立
1256年8月27日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建長8年8月6日|鎌倉大風洪水、山崩れで死者多数
1256年9月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「カリマン・アセン2世」
1256年9月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミツォ・アセン」(~1257年)
1256年9月1日-09:00|日本| ||建長8年8月11日|<死去>「藤原(九条)頼経」(鎌倉幕府4代将軍)[1218年01月16日生~](享年38)
1256年10月14日-09:00|日本| ||建長8年9月25日|<死去>「藤原(九条)頼嗣」(鎌倉幕府5代将軍)[1239年11月21日生~](享年16)
1256年10月24日-09:00|日本| ||康元1年10月5日|建長から康元に改元
1256年10月24日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|康元1年10月5日|鎌倉建仁寺が再度の炎上
1256年12月10日-09:00|日本| ||康元1年11月22日|<就任>6代鎌倉幕府執権「北條長時」(~文永1年8月11日)
1256年12月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|康元1年12月11日|鎌倉勝長寿院、弥勒堂、五仏堂ことごとく被災
1257年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Baab Mashur Malamo」(~1277年)
1257年-05:30|インド| |||<建国>イタル国
1257年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ジョチ・ウルス・ハン「サルタク」
1257年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「ウラグチ」ハトウの子(~同年死去)⇒「ベルク」ジョチの三男、ハトウの弟(~1266年死去)
1257年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「アレクサンドル・ヤロスラヴィチ」(~1259年)
1257年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Takla」(~1259年)
1257年-02:00|トルコ| |||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイバート2世」
1257年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴォニア騎士団団長「フルハルト・フォン・ホルンハウゼン」(~12600713死去)
1257年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「コンスタンチン・アセン・イ・ティフ」(~1277年9月死去)、「ロシスラフ・ミハイロヴィチ」(ウイティンで反乱中~1262年死去)
1257年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Kerimeddin Karaman Bey」(~1261年死去)
1257年-02:00|エジプト| |||<即位>バーリ朝スルタン「Al-Mansur Ali」(~1259年)
1257年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイハスロ2世」(2回目~1259年)
1257年-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー王国国王(シュル家)マクス6世改法王(父ホーコンの存命中は共同統治~1280年)
1257年-01:00|イタリア| |||<即位>ミラノのシニョール(デッラ・トルレ家)マルティノ・デッラ・トルレ(~1259年)
1257年-01:00|アルバニア/イタリア/ギリシャ| |||シリア島がアルバニアの沿岸部を占領し、ドゥラキウム/ドゥラツツォ/ドゥラレスに本部を置く
1257年-01:00|ニジェール/チュニジア| |||ハフス朝にカスィム・ホルヌー王からの使節が到来
1257年1月-07:00|ベトナム| |||モンゴル軍がベトナムの首都大羅城を占領
1257年1月13日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・イタリア王「リヒャルト・フォン・コーンウォール」イングランド王ジョン1世の子、コーンウォール伯(~12720404没)
1257年1月17日-08:00|中国/インド/モンゴル| ||元・憲宗7年|モンゴル軍がパシジャフに侵入するがバルハン軍が撃退
1257年1月17日-03:30|イラン/モンゴル| |||キプチャク・ハン国がサライに遷都
1257年2月25日-09:00|日本| ||康元2年2月10日|太政官庁焼失、朝所(参議以上の人が会議や会食をした建物)の外皆悉く焼失
1257年3月15日-09:00|日本| ||康元2年2月28日|五条大宮殿焼失

1300迄 (2243件)

1257年3月15日-09:00|日本| ||康元2年2月28日|山城国壬生寺焼失
1257年3月15日-09:00|日本|京都府京都市|康元2年2月28日|院御所五条大宮殿炎上、壬生寺など類焼
1257年3月31日-09:00|日本| ||正嘉1年3月14日|康元から正嘉に改元
1257年4月1日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/フランス| ||<即位>神聖ローマ帝国対立皇帝「アルフォンス」カスティリヤ王フィリップの孫(~12751022請求取り下げ)
1257年4月10日-02:00|エジプト/シリア/アラブ| ||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ムイッス・アイバク」暗殺される
1257年4月15日-02:00|エジプト/シリア/アラブ| ||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・アリー」(~1259. 11廃位)
1257年5月5日-01:00|ノルウェー| ||<死去>ノルウェー王「ハコン5世ハコンソン若王」
1257年7月29日-01:00|フランス| ||<死去>オセル伯「Mahault1世」兼オセル伯「Matilda1世」
1257年7月29日-01:00|フランス| ||<就任>オセル女伯「Mahaut」兼オセル伯「Matilda2世」(~1262年死去);オセル伯「Odo」Mahautと結婚(~1251年)兼オセル伯「Odo」(~1262年退位)
1257年8月9日-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<死去>シュレーズビヒ公「ヴァルデマー3世」
1257年8月15日-09:00|日本| ||正嘉1年7月5日|<死去>源在子(承明門院)(87歳)後鳥羽天皇の妃
1257年9月10日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗7年8月|モンゴル帝国のモンケ・ハーンが中国遠征に出発
1257年10月2日 11:00|日本| ||正嘉1年8月23日|<正嘉元年鎌倉地震>20時ごろ、相模湾内を震源とし関東地方南部を襲ったマグニチュード7〜7.5と推定される大地震/鎌倉では神社・仏閣すべてに被害があり、山は崩壊し家屋は倒潰/築地(土塀)はことごとく破損し、液状化現象か、所々で地面が裂けて水がわき出る
1257年11月8日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・憲宗7年:大越・元豊7年10月|モンゴル軍ウリヤンカイが、大越の首都大羅城を占領
1257年12月24日-01:00|オランダ| ||<再任>エノー伯「マルグリット1世」(~12800210死去)
1257年12月24日-01:00|オランダ| ||<死去>エノー伯「ジャン1世」
1258年-06:30|ミャンマー| ||<即位>アラカン国王「ソウ・ルー」(~1261年)
1258年-05:00|モルデイグ| ||<即位>ティムゲ朝スルタン「Hudhei」(~1264年)
1258年-03:00|サウジアラビア| ||<即位>メッカ・シャリフ「ハサン・ブン・カタダ」アブ・マヤが不在の間にメッカを乗っ取りイドリスを投獄し、6日間都市を保持し、アブ・マヤが戻ったときに撤退
1258年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「アコス・エルニ」(~1261年)
1258年-01:00|オーストリア| ||<即位>シュターアマル公「イシュトヴァーン5世」(~1260年)
1258年-01:00|アルバニア/ギリシャ| ||アルバニアはビロスの一部(~12720221)
1258年-01:00|イタリア| ||ヴェネツィア共和国ジェノヴァ共和国と激突。以後4度にわたる戦役に
1258年 00:00|モロッコ| ||<死去>マリーン朝スルタン「アブー・ヤフヤー・アブー・バクル」
1258年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド 対立上王「ブライアン・ガ・アン・ド・ウイン」(~12600514没)
1258年 00:00|モロッコ| ||<即位>マリーン朝スルタン「ウマル」(~1259年)
1258年 00:00|イギリス| ||イングリランドでバロンの反乱
1258年1月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正嘉1年12月24日|幕府が將軍護衛役にあたる廂衆を設置
1258年1月30日-03:00|イラク/モンゴル| ||モンゴル軍がバグダードに対する総攻撃を行い、城の東門から城内に入る/バグダードのガワの軍1万は脱出を試みるが撃破される
1258年1月30日-07:00|ベトナム| ||大越・元豊7年12月25日|<譲位>陳朝(大越) 皇帝「太宗」
1258年1月30日-07:00|ベトナム| ||大越・元豊7年12月25日|<即位>陳朝(大越) 皇帝「聖宗」(~12781108(宝符6年10月22日)譲位)
1258年2月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正嘉1年12月29日|幕府格子番を設置
1258年2月5日-09:00|日本| ||正嘉2年|<任命>淡路国守護「長沼宗泰」(~1283年. 次に宗秀~1299年)
1258年2月5日-09:00|日本|神奈川県横浜市|正嘉2年|北条実時、称名寺創建<真言律宗別格本山>
1258年2月10日-03:00|イラク/モンゴル| ||モンゴル軍のバグダード攻撃により、第37代ガワのムスタシムを投降させ、おびただしい財宝を略奪
1258年2月20日-03:00|イェメン| ||<死去>ラッシー朝イマム「アルマデ・イ・アフマド・ビン・アルフセイン」
1258年2月20日-03:00|イェメン| ||<即位>ラッシー朝イマム「アルハッサン・ビン・ワハス」(~1260年~1285. 2死去)
1258年2月21日-03:00|イラク| ||<死去>バグダード・アッバース朝ガワ「ムスタシム」処刑された
1258年2月21日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正嘉2年1月17日|鎌倉寿福寺及び若宮宝蔵・同別当坊等焼失
1258年2月21日-08:00|中国/イラク/モンゴル| ||元・憲宗8年1月17日:バズラ暦656年サファル月15日|モンゴル軍に捕らえられていたガワ、ムスタシムとその皇太子が処刑される/ムスタシム45歳(誕生:1212/03)/アッバース朝は滅亡する
1258年3月-04:00|ロシア| ||<死去>リャザン大公「オレグ1世イングヴァルグイチ赤公」
1258年3月-04:00|ロシア| ||<即位>リャザン大公「ロマン3世オレグイチ聖人」(~1270年死去)
1258年3月7日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・憲宗8年2月|大越、モンゴルに朝貢
1258年3月30日-07:00|ベトナム| ||大越・紹隆1年2月24日|大越・2代「聖宗」紹隆と改元(-1272)
1258年4月6日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・高宗46年3月|高麗で王政復古派が崔宜を殺し政権を奪回
1258年5月5日-09:00|日本|京都府京都市西京区|正嘉2年4月|大炊事御門殿焼亡
1258年5月11日-01:00|フランス/スペイン| ||ルイ9世が、アゴン王ハイメ1世と国境画定のコルベール条約を締結し国境画定
1258年5月28日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス王ルイ9世、イギリス王ヘンリー3世と「パリ条約」を結ぶ/イギリスにフランス北西部のノルマンディー、メヌ、アンジュー、ポワトゥーを放棄させる/フランス南西部のアキテーヌでは、それまでフランス王が実効支配していたフランス中部のリモージュ、フランス南部のオセール、フランス南西部の「ペリグー司教区」内の直轄領をイギリスに返還
1258年6月1日-09:00|日本| ||正嘉2年4月28日|日蓮が「法華宗」を開く
1258年7月3日-09:00|日本|奈良県奈良市|正嘉2年6月|唐招提寺の釈迦如来像が製作される

1300迄 (2243件)

1258年7月5日 00:00|チン礼諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージ-島守護者「Drouet de Barentin」(3期目~1260年)

1258年7月22日-01:00|イタリア| |||<死去>メル伯「Meinhard1世」

1258年7月22日-01:00|イタリア| |||<就任>メル伯「Meinhard2世」(~12951101死去)、「Albert」(~1271年)

1258年8月1日-09:00|日本| ||正嘉2年7月<死去>善慶(62歳)仏師

1258年8月10日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「マンフレディ」(~12660226死去)

1258年8月18日-02:00|トルコ| |||<死去>ニカイア帝国(ラスカリス朝・東ローマの亡命政権) 皇帝「テオドロス2世ラスカリス」

1258年8月18日-02:00|ギリシャ| |||<死去>ニカイア帝国皇帝「テオドロス2世ラスカリス」

1258年8月18日-02:00|トルコ| |||<即位>ニカイア帝国(ラスカリス朝・東ローマの亡命政権) 皇帝「ヨハネス4世ラスカリス」テオドロス2世ラスカリスの子(~12611225退位~1305年)

1258年8月18日-02:00|ギリシャ| |||<即位>ニカイア帝国皇帝「ヨハネス4世ラスカリス」(~12611225廃位)

1258年10月-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団「ゲイアン・ユグ・ド・レベ」(~12770401)

1258年11月12日 01:00|日本| 神奈川県鎌倉市|正嘉2年10月16日|<正嘉2年鎌倉大洪水>巳刻(午前10時ごろ)以降、降り続いた大雨によって河川が氾らんし大洪水に襲われ、家屋の流失や死亡者が多数のぼった

1258年11月27日-09:00|日本| ||正嘉2年11月<死去>藤原知家(77歳)中宮亮、歌人

1258年12月26日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・憲宗8年;高麗・高宗46年12月|高麗・北部の和州以北をモンゴルに占領され双城総管府が置かれた

1259年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「トミリー・アレクサンドロヴィチ」(~1263年)

1259年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリ王「ティグイット1世」(~1293年)

1259年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Shams al-Din Alp Arghun」(~1274年)

1259年-03:00|イラク| |||<死去>ザンギ朝モスル・アミール「バドルッディーン・ルール」

1259年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエ公「ジョヴァンニ・ベレーニョ」(1回目~1261年)

1259年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ヤコブ・ラメッソン」(~同年)

1259年-01:00|アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタンとタリマフ・パン「ホドゴリエのブトコ」(~同年)

1259年-01:00|フランス| |||<退位>ルマンティエ公「アンリ3世」パリ条約により公位放棄

1259年-01:00|アルバニア/イタリア| |||ブトリントをシチリア王国(ナポリ)が統治(~1274年)

1259年-01:00|ポーランド| |||ホレスワフ5世がモンゴル軍による侵攻を防げずハンガリーに亡命

1259年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「グラスゴー司教ウィリアム・ウィシャート」(~1273年)

1259年 00:00|モロッコ| |||<即位>マリーン朝スルタン「アブー・ユースフ・ヤアケブ」(~12860320死去)

1259年 00:00|モロッコ/サハラ| |||ハウス朝ムスタンスイルがメッカのシャリーフからカリフと認定

1259年1月-01:00|フランス| |||<死去>オメル女伯・タマルタン伯「Mathilde」

1259年1月1日-02:00|トルコ| |||<即位>にゲ帝国皇帝「ミカエル8世パレオロゴス」アントニオ・ストウカス・コムネノス・パレオロゴスとアレクシオス3世アンゲロスの孫娘テオドラ・アンゲリナ・パレオキナの子(12610815退位~12821211死去)

1259年1月25日-09:00|日本| ||正嘉3年|<交替>琉球王「義本」退位⇒「英祖」が即位

1259年1月25日-09:00|朝鮮| ||高麗・高宗47年|<死去>高麗王「高宗」

1259年1月25日-09:00|朝鮮| ||高麗・高宗47年|<即位>24代高麗王「元宗」世太子(~1274年)

1259年1月25日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||高麗・高宗47年;元・憲宗9年|高麗、太子イ典を蒙古に遣わしモンゴルに降伏服属

1259年1月25日-08:00|中国| ||宋・開慶1年1月1日|南宋の理宗が開慶と改元

1259年3月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「スティーブン・ド・ロンクス」卿(~1260年10月没)

1259年3月5日-09:00|日本| ||正嘉3年2月10日|幕府が、飢饉で苦しむ流民の山野河海への立ち入りを認め、地頭たちに貧民救済を命じる法令を出す

1259年3月15日-09:00|日本| ||正嘉3年2月20日|<任命>上総国守護「足利頼氏」(~不詳、次に、家時が就任)

1259年3月23日-09:00|日本| 京都府京都市中京区|正嘉3年2月28日|壬生地蔵堂竣工

1259年4月20日-09:00|日本| ||正元1年3月26日|正嘉から正元に改元

1259年4月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘルツ伯「アドルフ7世」

1259年4月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘルツ伯「アドルフ8世」(~12960928死去)

1259年5月27日-09:00|日本| ||正元1年5月4日|<死去>近衛兼経(50歳)摂政・関白・太政大臣

1259年5月29日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「クリストファ1世」

1259年5月29日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク摂政「マルガレータ・サンビリア」(~1266年)

1259年5月29日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「エリック5世」クリストファ1世とトチーフ公女マルガレータ・サンビリアの長男(~12861122死去)

1259年6月14日-09:00|日本| 京都府京都市|正元1年5月22日|閑院内裏焼失

1259年6月20日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「ケイル・ソーラクソン」(~1263年)

1259年7月21日-09:00|朝鮮| ||高麗・高宗47年6月30日|<死去>高麗王「高宗」

1259年8月11日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗9年7月21日|<死去>モンゴル帝国第4代皇帝「憲宗モンケ」/年52

1259年8月11日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗9年7月21日|<即位>モンゴル帝国第5代皇帝「アリクブケ」(~1264年8月21日降伏)トлуйの六男

1259年9月8日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「マルティノ・デッラ・トル」(~12631120死去)

1259年10月13日 00:00|イギリス| |||ウェストミンスター条項で、イングランド諸侯の国政参加が規定される

1259年11月-02:00|エジプト| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ムサッファル・クトゥズ」(~12601024暗殺される)

1259年11月-02:00|エジプト| |||<廃位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・アリー」

1300迄 (2243件)

1259年11月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「アルルト2世」
1259年12月4日-01:00|フランス/イギリス| |||パリ条約が結ばれ、ルイ9世がフランク王国と和解
1259年12月25日-01:00|チェコ| |||ボヘミアはシュタイアマルクを統治
1259年12月26日-09:00|日本| ||正元1年11月12日|<死去>宇都宮頼綱(88歳) 武将、歌人
1260年-05:30|インド| |||<建国>ラティ国
1260年-05:30|インド| |||ヤタヴァ朝クリシュナがカンチーを攻略
1260年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン「アルク」チャガタイの子バイタルの子(〜1265年死去)
1260年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャー朝国王「Akhsitan2世」
1260年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャー朝国王「Farukhzad2世」(〜1282年死去)
1260年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ムスチスラフリ公「ミハイル・ロスチスラヴィチ」(〜1278年)
1260年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝ダマスカス・アミール「アン・ナースイル・ユースフ」
1260年-02:00|トルコ| |||<即位>アルトゥク朝スルタン「カラ・アルスラン・アルムサッファル」(〜1292年)
1260年-02:00|シリア・アラブ| |||<復位>アイユーブ朝(ホムス)アミール「Al-Ashraf Muzaffar al-Din Musa」(〜1263年死去)
1260年-01:00|フランス/イギリス| |||<死去>オマル伯「William de Forz」
1260年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>クレフェ伯「デュートリヒ5世」
1260年-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯「John1世」(〜13020711死去)
1260年-01:00|フランス/イギリス| |||<就任>オマル伯「Thomas de Forz」(〜1269年死去)
1260年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「デュートリヒ6世」(〜1275年死去)
1260年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<就任>シュレースヴィヒ公「エリク1世」(〜12720527死去)
1260年-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「ハインリヒ2世」(〜12860426死去)
1260年-01:00|ドイツ| |||<就任>フェルデツツ伯「Agnes」(〜1277年)
1260年-01:00|ドイツ| |||<就任>リュッケン公「グーイスラフ2世」(〜1302年)
1260年-01:00|オーストリア| |||<即位>シュターアマルク公「オタル2世」対立公(〜12780826)
1260年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島総督「Fogall McHascatt」
1260年1月9日-09:00|日本| ||正元1年11月26日|<譲位>89代「後深草天皇」
1260年1月9日-09:00|日本| ||正元1年11月26日|<踐祚>90代「龜山天皇」/12月28日即位
1260年2月13日-09:00|日本|沖縄県|正元2年|<即位>琉球国王「英祖」(〜12990831(大徳3年8月5日)死去)
1260年2月13日-08:00|中国/モンゴル/シリア・アラブ| ||元・憲宗10年1月|モンゴル軍、アレクサを攻略
1260年2月13日-09:00|日本|熊本県宇土市|正元2年1月1日|寒巖義尹、如来院を建立
1260年2月13日-08:00|中国| ||宋・景定1年1月1日|南宋の理宗趙昀が景定(〜1264年)と改元
1260年3月1日-08:00|中国/モンゴル/シリア・アラブ| ||元・憲宗10年1月18日|モンゴル軍がダマスカス略奪
1260年5月5日-08:00|中国/モンゴル| ||元・憲宗10年3月24日|<即位>モンゴル帝国第6代皇帝「世祖クビライ」トルコの四男、開平府で即位(〜至元31年1月22日1294年2月18日)アリクベと帝位を争う
1260年5月14日 00:00|アイルランド| |||<死去>アイルランド 対立上王「フラヤン・カサ・アントウイン」
1260年5月23日-09:00|日本|京都府京都市|正元2年4月12日|大炊事御門殿焼亡
1260年5月24日-09:00|日本| ||文応1年4月13日|正元から文応に改元
1260年6月1日-09:00|朝鮮| ||高麗・元宗1年4月21日|<即位>高麗王「元宗(忠敬王)」(〜12740723(至元11年6月18日)死去)
1260年6月29日-08:00|中国/モンゴル| ||元・中統1年5月19日|元の世祖が中統(〜1263年)と建元
1260年7月-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Jayabhimba Deva」(〜1271年)
1260年8月24日-09:00|日本| ||文応1年7月16日|日蓮が幕府の政治を糾弾内容の自著「立正安国論」を北条時頼に献上
1260年9月3日-02:00|エジプト/中国/モンゴル/シリア・アラブ| ||元・中統1年7月26日|エジプトのマムルーク軍がガレリアのアインジャールトで蒙古軍を粉砕し、回教シリアの外へ追い出す
1260年9月4日-01:00|イタリア| |||トスカのギベリン派(皇帝派)が、フィレンツェのゲェル派(教皇派)を破る(モンテハルティの戦い)
1260年9月10日-02:00|シリア・アラブ/エジプト| |||バイル率いるマムルーク軍がダマスカスを占領
1260年9月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・中統1年8月17日|高麗、蒙古からの通知により中統に改元
1260年10月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド 判事「スティーブン・ト・ロンクス卿」
1260年10月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「キル領主ウィリアム・ト・デイン」(〜1261年7月没)
1260年10月3日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文応1年8月27日|鎌倉の僧徒が蜂起して日蓮の松葉谷草庵を焼く
1260年10月7日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「アルブレヒト1世」遺領はザクセン＝ヴァイテンベルクとザクセン＝ラウエンブルクに分割
1260年10月7日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ヴァイテンベルク公「アルブレヒト2世」(〜12980825)
1260年10月24日-02:00|エジプト| |||<死去>バフリー・マムルーク朝スルタン「ムサッファル・クトゥス」アイン・ジャールトの戦いからの帰還途中、バイルに暗殺される
1260年10月24日-02:00|エジプト| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「サーヒル・バイル」(〜12770701死去54歳)
1260年10月24日 00:00|チャンネル諸島/フランス/イギリス| |||イングランドは、カルタゴ島に対するケタス司教の権利を回復
1260年11月5日-08:00|中国/モンゴル| ||元・中統1年10月|モンゴル帝国が中統元宝交鈔(紙幣)を発行
1260年11月8日-01:00|リヒテンシュタイン/スイス| |||リヒテンシュタインはサルガンの一部(〜13420503)
1261年-07:00|タイ| |||<即位>ゴエン・ヤン王「マンラーイ」(⇒1292年ランナー王国マンラーイ朝国王〜1311年死去)
1261年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ウザナ1世」(〜1269年)
1261年-05:30|インド| |||<即位>ヤタヴァ朝君主「マハーデヴァ」クリシュナの弟(〜1270年)
1261年-03:30|イラン/アフガニスタン| |||<即位>ミフラーニド朝マリーク「Nasir al-Din Muhammad」(〜1318年死去)

1300迄 (2243件)

1261年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「ヤーヤ・ヒン・ムハンマド・アズ・シラジ」(~1262年~1296年死去)
1261年-02:00|トルコ| |||<死去>カラマニ朝ベイ「Kerimeddin Karaman Bey」
1261年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ジャコモ・トルフィノ」(~1262年)
1261年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ハート・サーク」(~1263年)
1261年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァウ騎士団団長「ゲオルク・フォン・アイヒシュテット」(~同年)⇒「ヴェルナー・フォン・フ
ライトハウゼン」(~1263年2月)
1261年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Semseddin1世」(~1277年殺害される)
1261年-02:00|ウクライナ/ロシア/ベラルーシ| |||<即位>チェルニヒウ公「アントン・レイ・フェヴ・オロ・ウイチ」(~1263年)
1261年-02:00|トルコ| |||<即位>ラティナ・ベイ「Mehmed・ベイ」(~1262年)
1261年-02:00|ギリシャ| |||<即位>ロードス島専制君主「イオニス・トウ・カス・パ・ライオロス」(~1274年没)
1261年-01:00|ドイツ| |||<死去>ニュルンベルク城伯「コンラート1世」
1261年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ローランド・ラート」(~1267年)
1261年-01:00|ドイツ| |||<就任>ニュルンベルク城伯「フリートリヒ3世」(~12970814死去)
1261年-01:00|ドイツ| |||<領地変更>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン伯「ヨハ1世」⇒ホルシュタイン＝キール伯(~12630420死去);「ゲルハ
ルト1世」⇒シャウエンブルク伯・ホルシュタイン＝イツホー伯(~12901221死去)
1261年 00:00|イギリス| |||スコットランド国ヘブリス諸島の奪還に成功
1261年 02:00|グリーンランド/ノルウェー| |||グリーンランドはノルウェー宗主国下
1261年1月7日-09:00|日本|京都府京都市|文応1年12月5日|京都大火/五条室町より出火、東は河原、北は四条まで
焼亡
1261年2月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文応2年|叡尊の弟子の忍性が鎌倉にはいり極楽寺を開く
1261年2月1日-01:00|フランス/イラン/モンゴル| |||イル・ハン国フラグの使者がパリに到達、対エジプトで同盟を要請
1261年2月8日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<死去>ブラバント公「アンリ3世」
1261年2月8日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<即位>ブラバント公「アンリ4世」(~1267年)
1261年3月13日-02:00|ギリシャ| |||ジェノヴァ人がニケーアのギリシア皇帝ミハイル・パレオロスと同盟する(ニムパイオン条約)
1261年3月22日-09:00|日本| ||弘長1年2月20日|「弘長」に改元
1261年4月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘長1年3月13日|幕府政所・公文所・問注所焼失
1261年5月25日-01:00|パチカン| |||<死去>第181代ローマ教皇「アレクサンデル4世」
1261年5月29日-09:00|日本| ||弘長1年4月29日|<就任>関白:二条良実(~文永2年閏4月18日)
1261年6月11日-09:00|日本|静岡県伊東市|弘長1年5月12日|日蓮が、幕府により伊豆国伊東に配流になる
1261年6月13日-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝カリフ「ムスタンスィル2世」(~11. 28. モンゴル軍に襲撃されて殺され
た)
1261年7月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド判事「キル領主ウィリアム・ド・ティーン」
1261年7月20日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘長1年6月22日|故三浦泰村の弟僧良賢が謀反を企て亀谷石切谷で
捕らえられた
1261年7月24日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||ミハイル・パレオロスの下でエトリス専制侯国・ブルガリアなどからなる反カイリ連合軍
を破りコンスタンティノブルを占領
1261年7月25日-02:00|トルコ| |||ミハイル・パレオロスが守備が手薄になっていたコンスタンティノポリスを奪回、ラテン帝国が滅亡
1261年8月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイン・ヘンリク・コセ・フィア・ヘンリク・ネペリ・ヘター」(~1267年1月)
1261年8月8日-09:00|日本|奈良県奈良市|弘長1年7月11日|宋人尹行吉笠塔婆(般若寺)を建立
1261年8月15日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ(ビザンチン)帝国皇帝(パレオロス朝)「ミハイル8世パレオロス」アントノコス・ド・ウ
カス・コムネノス・パレオロスとアレクシオス3世アンゲロスの孫娘テオドラ・アンゲリナ・パレオキナの子(~12821211死去)息子アントノコスを共
同統治者とする
1261年8月24日 00:00|イギリス| |||<死去>ソールズベリー女伯「エラ・オブ・ソールズベリー」
1261年8月24日 00:00|イギリス| |||<就任>ソールズベリー女伯「マーガレット・ロンゲベ」(~1310年)
1261年8月29日-01:00|パチカン| |||<就任>第182代ローマ教皇「ウルバヌス4世」(~12641002死去)
1261年9月2日-02:00|キプロス| |||<死去>キプロス王国摂政「フレイザン・デ・アンティオキア」
1261年9月2日-02:00|キプロス| |||<就任>キプロス王国摂政「ユーク(ユーゴ)・デ・アンティオキア」(~12671205)
1261年10月26日-08:00|モンゴル| ||元・中統2年10月|アリク・ブカガシムノルでフレライ軍に大敗
1261年11月25日-02:00|トルコ| |||<廃位>カイリ帝国(ラスカリス朝・東ローマの亡命政権)皇帝「ヨハネス4世ラスカリス」(~1305年死去
)
1261年11月28日-02:00|エジプト| |||<死去>カイロ・アッバース朝カリフ「ムスタンスィル2世」モンゴル軍に襲撃されて殺された
1261年11月28日-02:00|エジプト| |||<即位>カイロ・アッバース朝第2代カリフ「ハキム1世」(~13020119)
1261年12月25日-02:00|ギリシャ| |||<廃位>カイリ帝国皇帝「ヨハネス4世ラスカリス」
1262年-05:30|インド| |||<建国>タランポール国
1262年-05:30|インド| |||<即位>カカティヤ朝国王「ルド・ラマ・デーヴァー」(~1296年)
1262年-05:30|インド| |||バーンデリア朝ジャター・グアルマンがホイスラ朝を破る
1262年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グイテフスク公「コンスタンチン」(~1263年)
1262年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「アルマンスール・アルハッサン・ヒン・バドール・アッティーン」アルハティ・ヤーヤの従兄弟の息子
子(~1271年死去)
1262年-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「ロスチスラフ・ミハイロウイチ」(グイティンで反乱中)
1262年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ニコロ・サヴィガリ」(~1263年)
1262年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ナクス公「マルコ2世」(~1303年)

1300迄 (2243件)

1262年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Giram-Gaz'i」(~1263年)
1262年-02:00|トルコ| |||<即位>ラディク・ベイ「Ali・ベイ」(~1305年)
1262年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島でチオルツツェ兄弟率いる反ウエツィア蜂起(~1265年)
1262年-02:00|エジプト/ロシア| |||マムルーク朝ハバハルスがキプチャク・ハン国に使者を派遣
1262年-01:00|フランス| |||<死去>マヘール女伯「Mahaut」兼ヌヴェール伯「Matilda2世」
1262年-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Mathieu de Trie」(~1272年死去)
1262年-01:00|フランス| |||<就任>ヌヴェール伯「Yolande2世」(~12800602死去)
1262年-01:00|フランス| |||<就任>ルテル伯「マテ5世」(~1272年死去)
1262年-01:00|ポーランド| |||<即位>ベレムイシュリ公「Bela Rostislavich」(~1272年)
1262年-01:00|フランス| |||<退位>ヌヴェール伯「Odo」
1262年-01:00|ポーランド| |||ポメルニェ=ベルガルトはポメルニェ=ダンツィヒに併合
1262年 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 対立法話者「ソーバートル ソラリソン」(~1264年)
1262年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島守護者「Gilbert Talbot卿」「Thomas Boulton」(~1267年)
1262年 00:00|アイスランド/ノルウェー| |||アイスランドがノルウェーの事実上の植民地となる
1262年1月 00:00|アイスランド/イギリス| |||<就任>アイスランド 判事「リチャード・ト・ラ・ロシェル」(2回目~12641206)
1262年2月20日-04:00|ロシア/モンゴル| |||元・中統3年2月|李壇の乱、山東の漢人勢力がモンゴルに反乱
1262年4月-03:30|イラン/シリア・アラブ| |||イル・ハン国フラグがシリア遠征を再開するがハバハルスが撃退
1262年6月 00:00|アイスランド/ノルウェー| |||アイスランド・ノルウェー連合(1268年までアイスランドのヤルドム[伯爵領]として)
1262年6月11日-09:00|日本| ||弘長2年5月23日|幕府が六波羅に罪人拘禁法を定めさせる
1262年6月23日-01:00|ポーランド| |||<死去>マゾフシェ(フウツク)公「シモギト1世」
1262年6月23日-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ(フウツク)公「Prejleslawaj」寡婦(1264年)、「ホレスワ2世」公国を統一(~13130420死去)共同統治
1262年7月18日-09:00|日本|福岡県太宰府市|弘長2年7月1日|奈良僧徒の訴えにより大江頼重を太宰府に流す
1262年9月13日 00:00|イギリス| |||<死去>デヴオン伯「Baldwin de Redvers」
1262年9月13日 00:00|イギリス| |||<就任>デヴオン伯「Isabel de Redvers」(~12931110死去)
1262年10月5日-09:00|日本| ||弘長2年8月21日|<死去>曦子内親王(仙華門院)(39歳)土御門天皇の皇女、伊勢斎宮、後嵯峨天皇准母・皇后宮
1263年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Savakanmaindan」(~1277年)
1263年-05:30|インド| |||<即位>ホイヤラ朝国王「ナラシハ3世」ソーメシュワアラの長子(~1292年)
1263年-04:00|ロシア/ベラルーシ/ウクライナ| |||<即位>第37代チェルニヒウ公大「ロマン・ミハイロウイチ」(~1288年)
1263年-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝行政長官「Shams al-Din Juvayni」(~12841016)
1263年-03:00|ベラルーシ| |||<死去>ボロック公「タウトヴィス」
1263年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝(ホムス)アミール「Al-Ashraf Muzaffar al-Din Musa」
1263年-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「ギ-1世」
1263年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ウエツィアのカンティア公「マルコ・ダントーロ」(~1265年)
1263年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「ジャン1世」(~1280年死去)
1263年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Dil-Gamis」(~1278年)
1263年-02:00|イスラエル/エジプト| |||イスラエルはエジプトのマムルーク・サルタン国の一部(~15160824)
1263年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「クリスのステファン」(~1266年)
1263年-01:00|ポーランド| |||<即位>ベレムイシュリ公「Lev Daniilovich」(~1269年)
1263年1月6日-09:00|日本|三重県伊勢市|弘長2年11月25日|伊勢神宮寺焼失
1263年1月9日-09:00|日本|京都府京都市中京区|弘長2年11月28日|<死去>親鸞が三条富小路にある弟尋有の善法坊で/90歳(誕生:承安3(1173)0401)浄土真宗の開祖
1263年2月-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リガニア騎士団団長「コンラート・フォン・マンデルン」(~1266年)
1263年2月10日-08:00|中国| ||宋・景定4年|この年、賈似道、公田法を実施
1263年3月-02:00|トルコ| |||<死去>トレビゾント 帝国第4代皇帝「マヌエル1世」
1263年3月-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾント 帝国第5代皇帝「アントーニコス2世」(~1266年死去)
1263年4月-02:00|エジプト/パレスチナ| |||ハバハルスがエルサレム王国のアクレ攻略にかかるが落とせず
1263年4月1日-09:00|日本| ||弘長3年2月22日|「日蓮」流罪赦免鎌倉に帰る
1263年4月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>ルシュタイン=キール伯「ヨハン1世」
1263年4月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>ルシュタイン=キール伯「ヨハン2世 隻眼伯」(~1316年)、「アドルフ5世 ホーラニア」(~1273年)共同統治
1263年5月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ラースロー・ハーン(=ラディスラス)」(1回目~1264年)
1263年6月7日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「ホーニファチオ」
1263年6月7日-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「ピエトロ2世」(~12680515死去)
1263年6月16日-08:00|中国/モンゴル| |||元・中統4年5月9日|開平府を上都とする
1263年6月22日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「ソレイフル・フライム ケイルソン」(1回目~12670624)
1263年8月6日-09:00|日本| ||弘長3年7月|<任命>摂津・若狭国守護「北条時茂」(~不詳)
1263年8月6日-09:00|日本|愛知県半田市|弘長3年7月|僧円覚、尾張国常楽寺の阿弥陀如来像を造立
1263年9月12日-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア王「ミンダウガス」甥のトレニオタに暗殺された

1300迄 (2243件)

1263年9月12日-02:00|リトニア| |||<即位>リトニア大公「トリニオ」ミンダウガスの甥(〜1264年暗殺される)

1263年9月30日-09:00|日本| ||弘長3年8月27日|<伊豆〜相模湾近海大風雨>申の刻(16時ごろ)以降、風雨が烈しくなり、夜に入り暴風が伊豆から相模湾近海かけて吹いた/伊豆の海では九州から米などの年貢を運んできた運搬船61艘が遭難し波に漂った/鎌倉由比ヶ浜では、着岸していた船舶が多く水没し、乗組員の多くが死亡、海岸に打ち寄せられた遺体は数え切れないほどだった

1263年10月3日-01:00|ノルウェー/イギリス| |||スコットランド王アレクサンダー3世が、ノルウェー王ホーコン4世との戦いに勝利

1263年10月13日-09:00|日本| ||弘長3年9月10日|幕府切銭を禁ず

1263年11月13日-04:00|ロシア| |||<即位>モスクワ公「ダニール・アレクサンドロヴィチ」ウラジミールの傀儡として建国(〜13030305死去)

1263年11月14日-04:00|ロシア/ウクライナ| |||<死去>ウラジミール大公、ペレヤスラヴリ・ザレスキー公「アレクサンドル・ネフスキー」病死

1263年11月14日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール大公「トヴェリ公ヤロスラフ・ヤロスラヴィチ」(〜12720916、没)

1263年11月14日-04:00|ロシア| |||<即位>ペレヤスラヴリ・ザレスキー公「トミリー・アレクサンドロヴィチ」(〜1294年死去)

1263年11月14日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「ヤロスラフ4世」(〜1271年死去)

1263年11月20日-01:00|イタリア| |||<死去>ミラノ・シニョレ「マルティノ・デッラ・トルレ」

1263年11月20日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「フィリッポ・デッラ・トルレ」(〜12651224)

1263年12月 00:00|イギリス| |||<死去>4代オックスフォード伯「ヒュー・ド・ウァー」

1263年12月 00:00|イギリス| |||<就任>5代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウァー」先代の子(〜1265年剥奪〜1267年回復〜1296年死去)

1263年12月16日-01:00|ノルウェー| |||<死去>ノルウェー王「ホーコン4世ハコンソン・デンストラ大王」

1263年12月16日-01:00|ノルウェー| |||即位>ノルウェー王「マグヌス6世ハコンソン・ラガボール」(〜12800509没)

1263年12月24日-09:00|日本| ||弘長3年11月22日|<死去>「北条時頼」(鎌倉幕府5代執権)[1227年05月14日生〜](享年36)

1264年-05:30|インド| |||<死去>東ガーンガ朝国王「ナランハ1世」

1264年-05:30|インド| |||<即位>東ガーンガ朝国王「ハース・デーヴァ1世」(〜1279年)

1264年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティムゲ朝スルタン「Aima」(〜1266年)

1264年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ヤロスラフ・ヤロスラヴィチ」(〜1272年)

1264年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ユリー・アントレヴィチ」(〜1279年)

1264年-04:00|ロシア| |||<即位>ペレヤスラヴリ・ザレスキー公「トミリー・アレクサンドロヴィチ」(⇒1277年兼ウラジミール大公〜1294年死去)

1264年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グイェフスキ公「イジャスラフ・ブリャチスラヴィチ」(〜1264年)

1264年-03:00|タンザニア| |||<即位>キルワ・スルタン「Ali ibn Dawud」(〜1280年)

1264年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ボロツク公「Gerdine」(〜1267年)

1264年-02:00|リトニア| |||<死去>リトニア大公「トリニオ」暗殺される

1264年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロス・グット・ケルト」(〜1270年6月)

1264年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ガリチ公「レフ・ダニロヴィチ」(〜1301年死去)

1264年-02:00|リトニア| |||<即位>リトニア大公「ウァイシュヴィルガス」ミンダウガスの子(〜1267年退位〜12681209殺害される)

1264年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ルーツク公「ムチスラフ・ダニロヴィチ」(〜1292年)

1264年-01:00|イタリア| |||<就任>フェーラ侯・エステ辺境伯「オベッツォ2世」(⇒1288年フェーラ・モテナレッジョ侯・エステ辺境伯〜12930120死去)

1264年-01:00|ポーランド| |||<即位>チェルスク公「コンラト2世」(〜12940624死去)

1264年 00:00|イギリス| |||<就任>8代チェスター伯「シモン・ド・モンフォール」6代レスター伯(〜12650804死去)

1264年 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「ジョン・フィッツアラン」(〜1267年死去)

1264年 00:00|イギリス| |||<就任>アルスター伯「ウォルター・ド・バウ」(〜12710728死去)

1264年1月31日-09:00|日本| ||弘長4年|<任命>備前国守護「長井泰重」(〜不詳)

1264年1月31日-09:00|日本| ||弘長4年|この年、唐鏡(藤原茂範)できる

1264年1月31日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| ||元・中統5年|モンゴルが樺太のアイを征討。樺太は中国の属国(元王朝下)となりKuyiと名付けられた(〜1368年頃)

1264年2月2日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>上バイン公・ライン宮中伯「ルートヴィヒ2世」

1264年2月16日-01:00|イタリア| |||<死去>フェーラ侯「アッツォ7世」

1264年2月16日-01:00|イタリア| |||<就任>フェーラ侯「オベッツォ2世」(⇒1288年兼モテナ侯⇒1289年兼レッジョ侯〜12930213死去)

1264年3月27日-09:00|日本| ||文永1年2月28日|弘長から文永に改元

1264年4月8日-01:00|ドイツ| |||<死去>スポンハイム・クロイツハ伯「Simon1世」

1264年4月21日-09:00|日本|滋賀県大津市|文永1年3月23日|延暦寺僧徒蜂起し、同寺講堂・戒壇院など堂塔に放火

1264年4月25日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ウィンチェスター伯「ロジャード・クインシー」

1264年4月28日-08:00|中国/モンゴル| ||元・中統5年4月1日|元が中書省を立てる

1264年5月13日 00:00|イギリス| |||リュイスの戦い。国王ヘンリー3世とレスター伯シモン・ド・モンフォール率いる改革派貴族が軍事衝突、改革派貴族が勝つ/ヘンリー3世と王弟、皇太子が捕虜となる

1264年5月17日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<死去>ボヘミアン・デミン公「ヴァルティスラフ3世」

1264年5月28日-09:00|日本|滋賀県大津市|文永1年5月2日|延暦寺僧徒が、園城寺の戒壇建立を怒り、園城寺を焼く

1264年6月18日-09:00|日本|岡山県|文永1年5月23日|<死去>頼仁親王(64歳)後鳥羽天皇の皇子。配流先の備前で

1300迄 (2243件)

死去

1264年8月-02:00|エジプト/イラン/シリア・アラブ | ||イラン国とマムルーク朝がヒムで攻防戦、マムルークが退ける
1264年8月21日-08:00|中国/モンゴル | ||元・中統5年7月28日|<降伏>モンゴル帝国第5代皇帝「アリクブケ」ヒライに降伏
1264年8月23日-08:00|中国/モンゴル | ||元・至元1年8月|モンゴルが燕京へ遷都し、中都と改称
1264年9月2日-09:00|日本 | ||文永1年8月11日|<辞任>6代鎌倉幕府執権「北条長時」
1264年9月2日-09:00|日本 | ||文永1年8月11日|<就任>7代鎌倉幕府執権「北条政村」(~文永5. 3. 5)
1264年9月7日-08:00|中国/モンゴル | ||元・至元1年8月16日|元の世祖クビライが至元(-1294年)と改元
1264年9月12日-09:00|日本 | ||文永1年8月21日|<死去>「北条長時」(鎌倉幕府6代執権)[1230年02月27日生~](享年34)
1264年9月20日-09:00|日本 | ||文永1年8月29日|<死去>藤原重子(修明門院)(83歳)後鳥羽天皇の妃
1264年10月1日-09:00|日本 | ||文永1年9月10日|<死去>藤原家良(73歳)内大臣、歌人
1264年10月2日-01:00|パチン | ||<死去>第182代ローマ教皇「ウルバヌス4世」
1264年10月28日-09:00|韓国/朝鮮 | ||高麗・至元1年10月7日|高麗、蒙古からの通知により至元と改元
1264年10月30日-09:00|日本 | ||文永1年10月9日|<任命>六波羅探題南方「北条時輔(得宗家)」(~文永9(1272)年2月15日、二月騒動で北方の北条義宗に討たれる)
1264年11月15日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永1年10月25日|鎌倉幕府が越訴奉行設置
1264年11月16日-08:00|中国 | ||宋・景定5年10月26日|<死去>南宋第5代皇帝「理宗」/年61
1264年11月16日-08:00|中国 | ||宋・景定5年10月26日|<即位>南宋第6代皇帝「度宗」(~咸淳10年7月9日1274年8月12日)
1264年12月28日-09:00|日本 | ||文永1年12月9日|瓊玉和歌集できる
1265年-05:00|ウスベキスタン | ||<死去>チャグタイ・ウルス・ハン「アルグ」
1265年-04:00|オマーン/イラン | ||スファールをペルシャが占領(~1271年)
1265年-02:00|トルコ | ||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「カルチ・アルスラン4世」
1265年-02:00|ギリシャ/イタリア | ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「アントニオ・ゼーノ」(~1269年)
1265年-02:00|トルコ | ||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイスロ-3世」(~1284年死去)
1265年-02:00|エジプト | ||マムルーク朝のバイルスが大カーディ職を設ける
1265年-01:00|ドイツ | ||<就任>スポンハイム・クロイツハ伯「John1世」(~12900128死去)
1265年-01:00|ドイツ | ||<就任>テュリンゲン方伯「アルブレヒト2世」マイセン辺境伯(~1294年)
1265年-01:00|フランス | ||<就任>ヌグエール伯「John Tristan」(~12700803死去)
1265年 00:00|イギリス | ||<剥奪>5代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウァー」(~1267年回復~1296年死去)
1265年1月19日-09:00|日本 | ||文永2年|<隠居>薩摩国守護「島津忠時」(次に久経、忠宗、貞久と続く~貞治2・正平18(1363)年7月3日死去)
1265年1月19日-09:00|日本 | ||文永2年|<任命>信濃国守護「北条義宗」(~不明)
1265年1月19日-09:00|日本|三重県亀山市|文永2年|関実忠が亀山の若山に亀山城築城
1265年1月19日-08:00|中国 | ||元・至元2年|<即位>天山ウイグル王国ディクト「マムカ・チギン(馬木剌的斤)」カグルチの子(~1266年)
1265年1月19日-08:00|中国 | ||宋・咸淳1年1月1日|南宋の度宗が咸淳(-1274年)と改元
1265年1月20日 00:00|イギリス | ||ウェストミンスター宮殿でシモン・ド・モンフォール主導の貴族代表者会合開催(最初の英国会)
1265年1月24日-09:00|日本|山梨県|文永2年1月6日|<死去>甲斐・安芸守護「武田信政」(70歳)⇒嫡子「武田信時」が継ぐ
1265年2月5日-01:00|パチン | ||<就任>第183代ローマ教皇「クレメンス4世」(~12681129死去)
1265年2月8日-03:30|イラン | ||<死去>イルハン朝君主「フレグ」
1265年2月25日-01:00|ドイツ | ||<死去>ヴェルテンベルク伯「ウルリヒ1世」
1265年2月25日-01:00|ドイツ | ||<就任>ヴェルテンベルク伯「ウルリヒ2世」(12790918死去)
1265年2月27日-02:00|エジプト | ||マムルーク朝の皇帝バイルスがフランス人からカイラを奪う
1265年2月28日-09:00|日本|福岡県福岡市東区|文永2年2月11日|筑前国筥崎八幡宮が炎上
1265年3月 00:00|アイルランド/イギリス | ||<就任>アイルランド判事代行「ダブリン大司教フルコ・デ・サントフォード」(~5月)
1265年3月19日-09:00|日本|広島県廿日市市|文永2年3月|周防国清綱作の太刀(宮島厳島神社蔵)成る
1265年3月23日-09:00|日本 | ||文永2年3月5日|幕府が、商業地域を7カ所と定め、それ以外の商業を禁止
1265年4月26日-02:00|エジプト | ||マムルーク朝の皇帝バイルスがフランス人からアルフを奪う
1265年4月30日-09:00|日本 | ||文永2年4月13日|朝廷が、延暦寺僧徒の武装や博打を禁止
1265年5月 00:00|アイルランド/イギリス | ||<就任>アイルランド判事代行「ロジャー・ワズパイル卿」(~7月)
1265年6月3日-09:00|日本 | ||文永2年閏4月18日|<就任>関白:一条実経(~文永4年12月9日)
1265年6月15日-03:30|イラン | ||<即位>イルハン朝第2代国王「アバカフレグ」の子(~12820401死去)
1265年7月 00:00|アイルランド/イギリス | ||<就任>アイルランド判事代行「ミス司教ヒュー・デ・クモン」(~1267年2月)
1265年7月4日-09:00|日本 | ||文永2年5月20日|<死去>藤原為継(60歳/画家、歌人、中務大輔)
1265年8月4日 00:00|イギリス | ||<死去>6代レスター伯・8代チェスター伯「シモン・ド・モンフォール」イヴァン・シャムの戦いでイングランド皇太子エドワードに敗死
1265年10月15日-09:00|日本|福井県小浜市|文永2年9月5日|遠敷郡明通寺が院主頼禅により再建され、本堂供養が行われる
1265年10月25日 00:00|イギリス | ||<就任>初代レスター伯「エドマント(クラウパック)」ヘンリー3世の次男(⇒12670630兼初代ランカスター伯~12960605死去)

1300迄 (2243件)

1265年11月24日 00:00|マン島| |||<死去>マソ王「Magnus Olafsson」
1265年11月24日 00:00|マン島| |||マン島はスコットランドの領地 (~1290. 2)
1265年12月24日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「ナポレオーネ・デッラ・トル」 (~12770121捕えられる)
1266年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ジヨチ・ウルス・ハン「ハルク」
1266年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジヨチ・ウルス・ハン「モンケ・テムル」バトウの子トガンの子 (~1280年)
1266年-05:00|モルデイヴ| |||<即位>ティームゲ朝スルタン「Hali 1世」 (~1268年)
1266年-04:00|ロシア| |||<即位>フスコフ公「ダウマンタス」 (~1290517死去)
1266年-02:00|トルコ| |||<死去>トレビゾント帝国第5代皇帝「アントロニコス2世」
1266年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ウーゲン・ハリスン」 (~同年)
1266年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ヤコフ(ヤコフ)・スヴェトスラフ」(ウイティンで反乱中~1273年)
1266年-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾント帝国第6代皇帝「ゲオルギオス」 (~1280年廃位)
1266年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||ジェノヴァ共和国がカファ統治 (~1296年)
1266年-01:00|ドイツ| |||<死去>スポンハイム・シュタルケンブルク伯「John 1世」
1266年-01:00|ドイツ| |||<就任>スポンハイム・シュタルケンブルク伯「Henry 1世」 (~12890801死去)
1266年-01:00|ポーランド| |||<就任>ポメラニェンシュヴェツ公「ムシュエ2世」 (~1270年~12941229死去)
1266年 00:00|モロッコ| |||<死去>ムワッヒド朝アミール「ウマル・ムルタダー」
1266年 00:00|マン島| |||<就任>マン島執行吏「Godfrey MacManus」
1266年 00:00|モロッコ| |||<即位>ムワッヒド朝アミール「イドリス・ワシク(イドリス2世)」 (~1269年死去)
1266年1月5日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王・ナポリ王「カルロ1世」アンジュ伯シャルル(1282年シチリアを失った~12850107死去)首都をパレルモからナポリに移した
1266年1月11日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポメラニェンシュヴェツ公「シフエント・ウク2世」
1266年1月11日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポメラニェンシュヴェツ公「ウアルティスラフ2世」 (~1270年~12710509死去、ダンツィヒはポメラニェン公国に統合)
1266年1月21日-09:00|日本| ||文永2年12月14日|今晩彗星東方に見ゆ/18日彗星2尺余/27日夕彗星西方室宿に見ゆ
1266年1月22日-09:00|日本| ||文永2年12月15日|<死去>藤原信実(89歳/画家、歌人、左京権大夫)
1266年2月2日-09:00|日本| ||文永2年12月26日|「続古今和歌集」(藤原為家らが撰進)全20巻1915首
1266年2月7日-09:00|日本| ||文永3年|<任命>武蔵国守護「北条時宗」 (~1272年)
1266年2月7日-08:00|中国| ||元・至元3年|<即位>天山ウイグル王国「イクト・ハサル・チギン(火赤哈兒的斤)」マムラクの子 (~1276年)
1266年2月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元3年|モンゴル帝国でハイドウの乱が勃発
1266年2月7日-07:00|ベトナム| ||大越・紹隆9年|<即位>チャンハ王「インドラヴァルマン5世」 (~1287年)
1266年2月7日-09:00|日本| ||文永3年1月1日|西方に彗星見ゆ
1266年2月18日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルタン「ナシルッディーン・マフムド・シャー」
1266年2月18日-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝第9代スルタン「キヤースッディーン・ハルハーン」 (~1287年死去)
1266年2月26日-01:00|イタリア| |||<死去>シチリア王「マフレデー」戦死
1266年2月26日-01:00|フランス/イタリア| |||シチリア国王マフレートとフランス王の末弟シャルル・ダンジュがイタリア南部のベネヴェントで会戦/戦いはその日のうちに終わり、シャルルが圧勝
1266年3月-05:00|ウズベキスタン| |||<復位>チャグタイ・ウルス・ハン「ムバーラク・シャー」 (~9月)
1266年3月 00:00|イギリス| |||<死去>リンカーン女伯「マーガレット・ド・クインシー」
1266年4月4日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯「ヨハン1世」
1266年4月4日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルクシュテットマル辺境伯「ヨハン2世」 (~12810910死去)、「コンラート」 (~1304年死去)、「オット4世」 (~13081127死去)、「ハインリヒ1世」 (⇒13170326ブランデンブルク辺境伯~13180214死去)ヨハン1世の息子たちの共同統治
1266年4月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永3年3月6日|幕府引付衆を廃し問注所に命じ評定衆をして聴断せしむ
1266年5月14日-09:00|日本| ||文永3年4月8日|<死去>飛鳥井教定. 腫物のため(57歳/左兵衛督、歌人)
1266年5月18日-09:00|日本| ||文永3年4月12日|<死去>覚仁法親王(69歳)後鳥羽天皇の皇子
1266年6月2日-09:00|日本|京都府京都市東山区|文永3年4月27日|蓮華王院再建
1266年7月2日-01:00|ノルウェー/イギリス/マン島| |||ノルウェー王マグヌス7世が、パース条約を結んでブリティッシュ諸島とマン島のスコットランド帰属を認める
1266年7月25日-02:00|エジプト/レバノン| |||マムルーク朝の皇帝バハルスがフランク人からサファドを奪う
1266年8月4日-09:00|日本| ||文永3年7月3日|<解任>鎌倉第6代将軍「宗尊親王」北条時宗により/同日中に鎌倉を出発し、7月20日に京の六波羅探題に到着
1266年8月21日-09:00|日本| ||文永3年7月20日|吾妻鏡記述終る
1266年8月25日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永3年7月24日|<就任>鎌倉第7代将軍「惟康親王」 (~12890914)
1266年9月-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャグタイ・ウルス・ハン「ムラク」モイトウケンの子イェストウアの子 (~1271年死去)
1266年10月18日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永3年9月19日|鎌倉鶴岡八幡宮の裸形弁才天像できる
1266年10月19日-09:00|日本|滋賀県大津市|文永3年9月20日|興福寺僧徒が蜂起
1266年10月31日 00:00|イギリス| |||ケルワースの協定が結ばれ、インフランド王と貴族の和解が成立
1266年11月22日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴーニュ伯「ユグ・ド・シャロン」

1300迄 (2243件)

1267年-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・スルタン国スルタン「ラジヤ・サン・タウル」(~1339年)
1267年-08:00|インドネシア| |||<即位>サト・ラ・パ・サイ王国初代スルタン「マリクル・サレ」(~1297年)
1267年-05:30|スリランカ| |||<即位>ダンバデニヤ王国国王「Vi jayabahu4世」Panditha Parakrama Bahu2世の長男(~1270.10死去)
1267年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ボロツク公「イジヤスラフ3世」(~1270年)
1267年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグ・オニア騎士団団長「オットー・フォン・ラウターベルク」(~12700216死去)
1267年-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「シュヴァルナス」(~1269年死去)
1267年-02:00|リトアニア| |||<退位>リトアニア大公「ヴァイシュヴァイルガス」(~12681209殺害される)
1267年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ヘンリク2世 ヘーデル・クシェギ」(1度目(~1270年)
1267年-01:00|ドイツ| |||<就任>フランクシュヴァイク＝ヴォルフエンビュッテル侯「アルブレヒト1世」フランクシュヴァイク＝リューネブルク公オットー1世の長男(⇒1269年、弟のヨハンの領土を分割、ヨハンはリューネブルク侯領を、アルブレヒト1世はヴォルフエンビュッテル侯領を領有~12790815死去)
1267年-01:00|ベルギー/オランダ| |||<即位>ブラバント公「ジャン1世勝利公」(~12940503死去)
1267年-01:00|パキスタン/イラン/モンゴル| |||イルハン国がローマ教皇に使者を派遣し、同盟提携を要請
1267年 00:00|イギリス| |||<回復>5代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウァー」(~1296年死去)
1267年 00:00|イギリス| |||<死去>アランデル伯「ジョン・フィッツアラン」
1267年 00:00|イギリス| |||<就任>アランデル伯「ジョン・フィッツアラン」(~12720318死去)
1267年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー島守護者「Guillaume de Barentin」(~1269年)
1267年1月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ロシク・フィア・ケメー」(1回目~12700501)
1267年2月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「バリー卿デビッド・ド・バリー」(~1269年2月)
1267年2月16日 00:00|ポルトガル| |||アルカルガエはカステリャとレオンによってポルトガルに割譲
1267年2月21日-09:00|日本| ||文永4年1月26日|馬とその治療の秘法を扱った『馬医草紙』ができる
1267年5月2日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元4年4月7日|元が金の中都(北京)の東北に宮城を新築し、遷都
1267年5月27日-01:00|アルメニア/イタリヤ| |||アルメニアに対する領有権主張が条約によりビザンチン帝国からシリア島(「ナポリ」)に割譲される/シリアの領域は、シリア島「ナポリ」の支配下でエジプトから正式に分離
1267年6月11日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニュー伯「フィリップ・ド・サヴォワ」アデライードの2番目の夫、サヴォワ伯(~12790308退位~12850816死去)
1267年6月24日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「ヨン・ゲルジヤ・エイナルソン」(1回目~12680622)
1267年6月30日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ランカスター伯「エドマント(クワチバック)」初代レスター伯(~12960605死去)
1267年9月23日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニアン伯「ベアトリス」
1267年9月29日 00:00|イギリス| |||イングランド王ヘンリー3世が、北ウェールズの首長ルウェリンに「プリンス・オブ・ウェールズ」の称号を認める(モンゴメリ条約)
1267年10月9日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク辺境伯「オットー3世」
1267年10月9日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<就任>ブランデンブルク＝ザルツヴァーデル辺境伯「ヨハン3世」(~1268年死去)、「オットー5世」(~1298年死去)、「オットー6世」(~1286年退任)、「アルブレヒト3世」(~13001204死去)オットー3世の息子たちの共同統治
1267年10月12日-09:00|朝鮮/日本/韓国| ||高麗・至元4年9月23日|高麗が元朝の圧力に負けて潘阜を使者として日本に向かわせる
1267年11月18日 00:00|イギリス| |||ヘンリー3世が、ウェストミンスター条項の多くを認め、内乱が終結する(モルバウ法令)
1267年12月5日-02:00|キプロス| |||<死去>キプロス王国国王「ユーク2世」
1267年12月5日-02:00|キプロス| |||<即位>キプロス王国国王「ユーク3世」(⇒1268年兼エルサレム王~12840324死去)
1267年12月14日-01:00|ポーランド| |||<即位>クワダ・イイノワロツワ公ジエミヌク「クワダ公カミシユ1世の次男」(~1271年)
1267年12月25日-09:00|日本| ||文永4年12月9日|<就任>関白:近衛基平(~文永5年11月19日)
1267年12月31日-09:00|日本| ||文永4年12月15日|幕府:御家人が所領を売却すること、抵当にすることを禁じる
1268年-08:00|インドネシア| |||<即位>シンガサリ王国国王「クルタナガラ」(~1292年死去)
1268年-05:30|インド| |||<即位>パルティヤ朝君主「マラヴァルマン・クラシエカ1世」(~1308年)
1268年-05:30|インド| |||ホイスラ朝、ケシャヴァ寺院を建立
1268年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティームケ朝スルタン「Keimi」(~1269年)
1268年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「イドリス・ブン・カタタ・バハール＝デイン」(~1270年12月)
1268年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エジプト専制公「ミハイル2世コムネノストウカス」
1268年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エジプト専制公「ニクフォロス1世コムネノストウカス」(~1297年死去)
1268年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア君主「ヨハネス1世トウカス」(~1289年死去)
1268年-01:00|アントラ| |||<死去>ウルジェイ伯「Alvaro el Castella」
1268年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク＝ザルツヴァーデル辺境伯「ヨハン3世」
1268年-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国「ジョー(元首)」「ロレンツォ・ティエポロ」(~1275年)
1268年-01:00|ベルギー| |||<就任>シニ伯「Louis5世」(~1299年)
1268年-01:00|ベルギー| |||<就任>ナミュール伯「ギー1世」アンリ3世の女婿(~1297年)
1268年-01:00|アントラ| |||<即位>ウルジェイ伯「Ermengol10世」(~1314年死去)
1268年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王「コンチョバル・ナスイダ・イネ・オブ・リアン」
1268年 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド伯「ジャン1世」(~同年)⇒「ジャン2世」フランク公(~13051118死去)
1268年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「フライアン・ルアド・オブ・リアン」コンチョバル・ナスイダ・イネ・オブ・リアンの息子(~1276年

1300迄 (2243件)

)

1268年 00:00|モロッコ| ||モロッコをマリーン朝が支配(~1465年)
1268年1月8日 00:00|イギリス| ||<死去>ウリック伯「ウィリアム・モデュー」
1268年1月8日 00:00|イギリス| ||<就任>ウリック伯「ウィリアム・ド・ビーチャム」先代の甥(~1298年死去)
1268年1月16日-09:00|日本| ||文永5年<任命>讃岐国守護「北条有時」(~不詳、以降北条氏~1331年)
1268年1月16日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永5年|この年、鎌倉極楽寺十大弟子像できる
1268年1月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元の至元5年|元のフビライが南宋討伐戦を開始
1268年1月16日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元5年|カイドゥ(カドゥイの孫)挙兵
1268年1月16日-09:00|日本/モンゴル/朝鮮/中国| ||元・至元5年1月|高麗よりモンゴル帝国の第二回使節が通交を求めて来日。幕府返書せず
1268年1月29日 07:00|日本|京都府京都市|文永5年1月14日<京都文永5年の大火>申刻(16時ごろ)、四条坊門の西洞院大路付近の家から出火/東は鴨川の河原まで延焼、北は二条の街まで、南は五条坊門小路まで延焼/六角堂(頂宝寺)や後に足利將軍の邸宅となる三条坊門の屋敷が焼失
1268年2月13日-09:00|日本|愛媛県松山市|文永5年1月29日|凝然、越智郡円明寺で「八宗綱要」を著す
1268年3月7日-02:00|エジプト/イスラエル| ||マムルーク朝の皇帝バハールがフランク人からヤッファを奪う
1268年3月18日-09:00|日本|京都府京都市中京区|文永5年2月4日|仏師興慶により宝蔵寺木造釈迦如来立像が造られる
1268年4月15日-02:00|エジプト| ||マムルーク朝の皇帝バハールがフランク人からボーフールを奪う
1268年4月18日-09:00|日本| ||文永5年3月5日<就任>8代鎌倉幕府執権「北條時宗」(~弘安7年4月4日)
1268年4月18日-09:00|日本| ||文永5年3月5日<退任>7代鎌倉幕府執権「北条政村」
1268年5月15日-01:00|イタリア/フランス| ||<死去>サヴォイア伯「ピエトロ2世」
1268年5月15日-01:00|イタリア/フランス| ||<就任>サヴォイア伯「フリッポ1世」(~12850816死去)
1268年5月15日 00:00|イギリス| ||<死去>リッチモンド伯「ピエトロ2世」
1268年5月21日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| ||マムルーク朝のムルタンとなったバハールはアンティオキアを占領しアンティオキア公国は完全に滅亡
1268年6月22日 00:00|アイルランド| ||<就任>アイルランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「ソーレイル・フライム ケイルソン」(2回目~12690621)
1268年7月16日-09:00|日本|京都府京都市左京区|文永5年6月5日|法勝寺九重塔に落雷炎上
1268年8月23日-01:00|フランス/ドイツ/イタリア| ||シチリア王「シャルル・ダ・アンジュー」、タリャコツォの戦いでエルサレム国王「コンラート3世」を破る
1268年10月29日-02:00|パレスチナ| ||<即位>エルサレム国王「ユダ」アンティオキア公子アンリとキプロス王女イザベラの息子(~12840324死去49歳)
1268年10月29日-01:00|イタリア| ||<死去>グエロナ辺境伯「Frederick1世」
1268年10月29日-01:00|オーストリア| ||<死去>オーストリア・シュタイアーマルク公兼バーテン＝バーテン辺境伯・グエロナ辺境伯「フリートリヒ1世」
1268年10月29日-01:00|イタリア/パレスチナ/ドイツ/スイス| ||<死去>シチリア王「コッラド・インノケンティウス」兼シュヴァーベン大公「コンラート・イン」兼エルサレム国王「コンラート3世」16歳/処刑される
1268年10月29日-01:00|ドイツ| ||<就任>バーテン＝バーテン辺境伯「ルドルフ1世」(~12881119死去)
1268年11月29日-01:00|パチン| ||<死去>第183代ローマ教皇「クレメンス4世」
1268年12月24日-09:00|日本|京都府京都市|文永5年11月19日<死去>関白「近衛基平」痢病のため(23歳、左大臣)
1269年-06:30|ミャンマー| ||<即位>アラカン国王「ソウモン1世」(~1273年)
1269年-05:00|モルデイグ| ||<即位>ティームグ朝スルタン「Audha」(~1278年)
1269年-04:00|アルメニア| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レオ2世」(~1289年死去)
1269年-04:00|アルメニア| ||<退位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム1世」
1269年-02:00|リトアニア| ||<死去>リトアニア大公「シュヴァルナス」
1269年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ピエトロ・バトイル」(~1271年)
1269年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ガリチニ公「ウラジミール・ウアシコヴィチ」(~1288年)
1269年-02:00|エジプト| ||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Dilmarrah」(~1283年)
1269年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ペルス公「ユーレイ・リグオーヴィチ」(~1301年)
1269年-02:00|リトアニア| ||<即位>リトアニア大公「トライデニス」(~1282年春殺害される)
1269年-01:00|フランス/イギリス| ||<死去>オマル伯「Thomas de Forz」
1269年-01:00|スペイン| ||<就任>アンブリアス伯「Hugh5世」(~1277年)
1269年-01:00|フランス| ||<就任>ヴァロア伯「Jean-Tristan」(~12700803死去)
1269年-01:00|フランス/イギリス| ||<就任>オマル女伯「Aveline de Forz」(~12741110死去)
1269年-01:00|ドイツ| ||<就任>ブラウンシュヴァイク＝ホルツェンベルグ侯「アルブレヒト1世」ブラウンシュヴァイク＝リューネブルク公オットー1世の長男(~1279年)
1269年-01:00|ドイツ| ||<就任>リューネブルク侯「ヨハン」ブラウンシュヴァイク＝ホルツェンベルグ公オットー1世の次男(~12771213死去)
1269年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ガーンジー島守護者「Hugh de Trubleville」(~1270年)
1269年1月13日-09:00|日本|京都府京都市|文永5年12月10日<就任>関白「鷹司基忠」(~文永10年5月5日)
1269年2月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド判事「ロバート・デ・ウフォード」(1回目~1271年11月)
1269年2月3日-09:00|日本| ||文永6年|この年、西智聖観音像(ホスト美術館)できる
1269年2月3日-09:00|日本| ||文永6年|この年、牧谿の竜虎図できる

1300迄 (2243件)

1269年2月3日-09:00|日本|熊本県宇土市|文永6年|寒巖義尹, 三日村(現花園町)に三日如来寺を建立
1269年2月12日-09:00|日本|京都府京都市|文永6年1月10日|延暦寺僧徒らが神輿を奉じて入京し、六波羅探題の
兵と衝突する/延暦寺衆徒は神輿を放置して退却
1269年3月17日-08:00|中国/モンゴル|元・至元6年2月13日|新製蒙古字を天下に頒行
1269年4月3日-09:00|日本|文永6年3月1日|<死去>綜子内親王(月華門院)(23歳)後嵯峨天皇の皇女、歌人
1269年4月27日-09:00|日本|奈良県奈良市|文永6年3月25日|律宗の叡尊が忍性奈良坂の般若寺にてハンセン病患者救
済施設を設置
1269年5月4日-09:00|日本|文永6年4月2日|僧仙覚「万葉集抄」を撰する
1269年5月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永6年4月27日|幕府問注所を罷め五方引付衆を置く
1269年6月21日 00:00|アイスランド|<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「ヨングェルジャ・エイナルソン」(2回目~
12710619)
1269年8月 00:00|モロッコ|マリノ朝がマラケシュを攻略し、ムワッヒド朝を滅ぼす
1269年8月29日-09:00|日本|愛媛県八幡浜市|文永6年8月1日|左兵衛尉平能忠、大仏師興阿に宇和郡能忠寺の阿弥
陀三尊立像を造らせる
1269年9月 00:00|モロッコ|<死去>ムワッヒド朝アミール「イト・リース・ワーシク(イト・リース2世)」
1269年10月-01:00|チュニジア/フランス|チュニジアのハフス朝カリフがフランス王ルイ9世に使者を派遣
1269年10月27日-01:00|オーストリア/スロベニア|<死去>ケルテン公・カルニオラ辺境伯「ウルリッヒ3世」
1269年10月27日-01:00|オーストリア/スロベニア|<即位>ケルテン公・カルニオラ辺境伯「オットカール2世」(~1276年)
1269年10月27日-01:00|チェコ|ボヘミアはカリンシアを統治
1270年-07:00|タイ|<死去>スコタイ王朝国王「シーインタラ・ティット」
1270年-07:00|タイ|<即位>スコタイ王朝国王「パーンムアン」(~1279年死去)
1270年-05:30|インド|<建国>カッチ国
1270年-05:30|インド|<即位>ヤーダヴァ朝君主「アーマナ」(~1271年)
1270年-04:00|ジョージア|<死去>グルジア国王「ダビデ7世」
1270年-04:00|ロシア|<死去>リャザン大公「ロマノ3世オレゴウイイチ聖人」
1270年-04:00|ジョージア|<即位>グルジア国王「デメトリオス2世」(~12890312死去)
1270年-04:00|ロシア|<即位>ポロツク公「ヤロスラフ・ロマノウイチ」(~1294年)
1270年-04:00|ロシア|<即位>リャザン大公「フォートル1世ロマノウイチ」(~1294年死去)
1270年-03:00|ベラルーシ|<即位>グイテプスク公「ミハイル・コンスタンチノウイチ」(~1280年)
1270年-03:00|ベラルーシ|<即位>ボロツク公「コンスタンチン」(~1290年)
1270年-02:00|エストニア/デンマーク|<就任>デンマーク・エストニア総督「シグェリス」(~同年)
1270年-01:00|ドイツ|<死去>オルデンブルク伯「ヨハン1世」
1270年-01:00|ドイツ|<就任>オルデンブルク伯「クリスチャン3世」(~1285年死去)
1270年-01:00|フランス|<就任>シャルトル伯「Charles」(~13251216死去)
1270年-01:00|クロアチア|<就任>スラヴォニア全土のハン「ヨアヒム・グット＝クレト」(~1272年)
1270年-01:00|フランス|<就任>ヌール領主「フィリップ3世・トワイルベオン」(~1274年、ヌール領はフランス王フィリップ3世に売却)
1270年-01:00|ポーランド|<就任>ポズナニ公「ムシュエ2世」(~12941229死去)
1270年 00:00|マリ|<即位>マリ帝国マンサ「マンサ・ワティ・ケイタ」(~1274年)
1270年1月23日-09:00|日本|文永7年|<任命>安芸国守護「武田信時」(~1276年)
1270年1月23日-09:00|韓国/朝鮮|高麗・至元7年|高麗が開京に遷都
1270年1月23日-09:00|日本|奈良県奈良市|文永7年|この年、西大寺金銅舍利塔できる
1270年1月23日-08:00|モンゴル/中国|元・至元7年|<即位>ハイトウ・ウルス・ハーン「ハイトウ・ウ・ハーン」モンゴル帝国が分裂
1270年1月24日-09:00|日本|島根県出雲市|文永7年1月2日|出雲国杵築社焼失
1270年1月24日-09:00|日本|広島県廿日市市|文永7年1月2日|安芸国厳島社焼失
1270年2月16日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ|<就任>リヴォニア騎士団団長「アントン・レナス・フォン・グェストファーレン」摂政(~同年)
=>「グェアルター・フォン・ノルデック」(~1273年)
1270年2月18日-09:00|日本|文永7年1月27日|<死去>摂津・若狭守護・六波羅探題「北条時茂」(31歳)
1270年2月22日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル|元・至元7年;高麗・至元7年2月|モンゴルが高麗の西北領域をとり
、西京に東寧府をおく
1270年3月6日 00:00|アイスランド/イギリス|<就任>アイスランド 判事代行「リチャード・デ・エクセター卿」(~1271年11月)
1270年3月23日-08:00|中国/モンゴル|元・至元7年3月|モンゴル、水軍を設置
1270年4月28日-09:00|日本|愛知県岡崎市|文永7年4月7日|三河国滝山寺山門の落慶供養
1270年5月1日-01:00|ハンガリー|<就任>ハンガリー王国パ拉丁「フィア・モイス」(~1272年6月)
1270年5月3日-01:00|ハンガリー/クロアチア|<死去>ハンガリー国王・クロアチア王「ベーラ4世」
1270年5月11日-09:00|日本|京都府京都市南区|文永7年4月20日|東寺五重塔焼失
1270年5月21日-09:00|日本|滋賀県大津市|文永7年4月30日|延暦寺衆徒が蜂起
1270年5月22日-09:00|韓国/朝鮮|高麗・至元7年5月|高麗の元宗が林惟茂を滅ぼし、武臣の政権が終わる
1270年6月-02:00|ルーマニア|<就任>トランシルヴァニア総督「マテ・ツァーク」(1回目~8月)
1270年6月20日-09:00|韓国/朝鮮|高麗・至元7年6月|高麗でモンゴルの侵略に対抗し、三別抄の乱がおこる
1270年7月18日-01:00|チュニジア|第7回十字軍がカルタゴに上陸し、ハフス朝と和平条約を結び撤退
1270年7月25日-01:00|チュニジア/フランス|ルイ9世がチュニスを占領
1270年8月3日-01:00|フランス|<死去>グェアトリスタン伯「Jean-Tristan」兼スウェーデン伯「John Tristan」

1300迄 (2243件)

1270年8月10日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「イクノ・アムラク」(~12850619死去) 王都をアンカーハルに置く

1270年8月25日-01:00|チュニジア/フランス| |||<死去>フランス王(カペー朝)「ルイ9世聖王」ペストによりチュニスで病死(56歳, 誕生: 12140425)

1270年8月25日-01:00|フランス| |||<即位>フランス王(カペー朝)「フィリップ3世豪胆王」ルイ9世の子(~12851005死去)

1270年9月8日-09:00|日本|京都府京都市|文永7年8月22日|五条内裏焼失

1270年9月23日-09:00|日本|香川県坂出市|文永7年9月7日|清立寺(現, 坂出市)蔵木造阿弥陀如来立像, 造立

1270年10月-05:30|スリランカ| |||<死去>ダンパテニヤ王国国王「Vijayabahu4世」

1270年10月2日-09:00|日本|群馬県沼田市|文永7年9月16日|僧慶賢の発願で仏師快覚、木造十一面観音(柳町三光院所在)を造立

1270年10月7日-03:30|イラン| |||イラン・ネイシャバールで地震(M7.1)、死者1万人

1270年10月21日-02:00|トルコ| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム1世」

1270年10月21日-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「レウオン3世」(~1289年死去)

1270年10月30日-01:00|チュニジア/イタリア| |||ハフス朝のムスタンスルとフランス王フィリップ3世、シチリア王シャルルが講和

1270年11月15日-01:00|イタリア| |||シチリアでシャルとルイ王の艦隊が大嵐に遭遇し壊滅

1270年12月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アフー・ヌマイ・ムハンマト・ブン・アビー・サト・ナジム・アル＝ディン」(~1271年10月廃位)

1270年12月4日-01:00|スペイン/フランス| |||<死去>ナバラ王「テオバルト2世」兼シャンパニュ伯「ティエボ5世若年王」32歳

1270年12月4日-01:00|スペイン/フランス| |||<即位>ナバラ王「エンリケ1世」兼シャンパニュ伯「アンリ3世肥満王」テオバルト1世とマルグリット・ド・ブルボンの男子(~12740622死去30歳)

1271年-05:45|ネパール| |||<即位>マ王国「Jayasimha Malla」(~1274年)

1271年-05:30|スリランカ| |||<即位>ダンパテニヤ王国国王「Bhuvanaikabahu1世」Vijaya Bahu4世の兄弟(~1283年)

1271年-05:30|インド| |||<即位>ヤダヴァ朝君主「ラマチャンドラ」クリシュナの子(~1311年)

1271年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ウルス・ハン「バラク」

1271年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン:ニクベイ[チャガタイの四男サルハンの子](~1272年)

1271年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Ali2世」(~同年死去)⇒「Yazdagird」(~1298年死去)

1271年-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルマンスール・アルハッサン・ビン・ハトー・アッディン」

1271年-02:00|ウクライナ| |||<死去>キエフ大公「ヤロスラフ4世」

1271年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ジョヴァンニ・ベレーニョ」(2度目~1272年)

1271年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「レフ1世」(~1301年死去)

1271年-02:00|ギリシャ| |||<即位>テッサリア尊厳公「ヨハネス1世ドゥーカス」(~1289年)

1271年-01:00|オランダ| |||<就任>ゲルデルン伯「ライナルト1世(レイウト1世)」(~1318年~13261009死去)

1271年-01:00|ポーランド| |||<即位>クヤヴィイノグロツワ公「ボレスワフ・ボボジヌイ」ウイェルコフスカ公ウグデイスワフ・オドニツの次男(~1273年)

1271年-01:00|ポーランド| |||ポーランド公国は再統一

1271年 00:00|イギリス| |||<死去>ストラサン伯「マリス2世」

1271年 00:00|イギリス| |||<就任>ストラサン伯「マリス3世」(~1317年)

1271年 00:00|イギリス| |||<即位>デューハース王「Rhys ap Iorwerth」(~1283年)

1271年1月11日-09:00|日本| ||文永7年11月29日<死去>二条良実(55歳/元関白・左大臣)

1271年1月28日-01:00|イタリア/フィレンツェ| |||フランス王フィリップ3世の妃イザベル・ダラゴン、落馬事故が元でイタリアで死去(1247~、24歳)

1271年2月11日-09:00|日本|愛知県西尾市|文永8年|この年、足利満氏、三河国吉良荘に実相寺を建立し、円爾弁円を住持に招く

1271年2月11日-09:00|日本|長崎県壱岐市|文永8年|箱崎暦応寺[芦辺町]を開く

1271年2月25日-09:00|日本|愛知県豊橋市|文永8年1月15日|安達泰盛、三河国小松原寺に馬頭観音懸仏を寄進

1271年4月8日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||バイバルスが十字軍のクワケ(シバリア城砦)を陥す

1271年5月 00:00|イギリス/パレスチナ| |||第8次十字軍の英王子エドワード隊がアクレに上陸

1271年6月-02:00|エジプト/イスラエル| |||マムルーク朝バイバルスがイスラエル周辺の十字軍の城砦をすべて陥落

1271年6月19日 00:00|アイルランド| |||<就任>アイルランド連邦共和国政府(アルシング) 法話者「ソレイフル・フライム ケイルソン」(3回目~12720624)

1271年6月24日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島守護者「Arnaud Jean de Cuntis」(~12750414)

1271年7月28日 00:00|イギリス| |||<死去>アルスター伯「ウォルター・ド・ハラ」

1271年7月28日 00:00|イギリス| |||<就任>アルスター伯「リチャード・オーグ・ド・ハラ」(~13260729死去)

1271年8月7日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元8年7月1日|フビライ・ハーンが、元の大都に回回司天台を設立し、イスラム天文学による気象観測とイスラム暦の編纂開始を命じる

1271年8月21日-01:00|フランス| |||<死去>ポワティエ伯「Alphonse1世」

1271年8月25日-01:00|フランス| |||<死去>トゥールーズ伯兼ポワティエ辺境伯「ジャンヌ」フランス王領に統合

1271年9月1日-01:00|パチカン| |||<就任>第184代ローマ教皇「グレゴリウス10世」(~12760110死去)

1271年10月-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「ジャンマス・ブン・シーハーイズ・アル＝ディン」、「ガニーム・ブン・イドリス・ブン・ハサン・ブン・カタダ」(~11月廃位)

1271年10月-03:00|サウジアラビア| |||<廃位>メッカ・シャリフ「アフー・ヌマイ・ムハンマト・ブン・アビー・サト・ナジム・アル＝ディン」

1300迄 (2243件)

1271年10月27日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニユ公「ユーク4世」
1271年10月27日-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴニユ公「ロベール2世」(~13060321死去)
1271年11月-03:00|サジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「アブー・ヌマイ・ムハンマド・ブン・アビー・サード・ナジム・アル＝デイン」(~1288年
廃位)
1271年11月-03:00|サジアラビア| |||<廃位>メッカ・シャリフ「ジャンマス・ブン・シーハーイズ・アル＝デイン」、
「カーニム・ブン・イドリス・ブン・ハ
サン・ブン・カタダ」
1271年11月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ジェームズ・ド・オートリー」(~12720623没)
1271年11月13日-09:00|日本|新潟県佐渡市|文永8年10月10日|日蓮が佐渡に流される
1271年12月18日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元8年11月15日|モンゴルが、国号を建てて「大元」と改められた<即位>
元初代皇帝「世祖クビライ」(~至元31年1月22日1294年2月18日)
1272年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャグタイ・ウルス・ハン「フカ・テムル」ブリの子が「キ・セチェン」の子(~1282年死去)
1272年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロト 共和国ノヴゴロト 公「トミリー・アレクサンドロヴィチ」(~1273年)
1272年-03:30|イラン| |||<即位>パダスパニト 朝君主「Fakr-al-Dawla Namavar3世Shah-Ghazi」(~1301年)
1272年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「アラウッダウ・イブン・タギーシャー」(~1275年)
1272年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルマティ・イブラハム・ビン・アフマト・タジ・アッデイン」アルマンスール・アルハッサンの甥(~1276
年~1284年死去)
1272年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティア公「マリノ・ゼーノ」(~1274年)
1272年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ミハイル・アシェン2世」(~1279年2月)
1272年-01:00|フランス| |||<死去>ダマルタン伯「Mathieu de Trie」
1272年-01:00|フランス| |||<死去>ルル伯「マセ5世」
1272年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク＝デルメンホルスト伯「オットー2世」(~1301年)
1272年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「モイス」⇒「ヘンリク2世 ヘーデル・クシキ」(2度目~1274年)
1272年-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Jean2世 de Trie」(~13020711戦死)
1272年-01:00|フランス| |||<就任>ルル伯「ユーク4世」(~1285年死去)
1272年 00:00|イギリス| |||<就任>リンカーン伯「ヘンリー・ド・レイシー」(~1311.2死去)
1272年1月13日-09:00|日本| ||文永8年12月11日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条義宗(極楽寺流赤橋
氏)」(~建治2(1276)年12月4日)
1272年2月-01:00|アルバニア| |||<即位>アルバニア王「Charles1世」シチリア王(~12850107死去)
1272年2月1日-09:00|日本| ||文永9年|<任命>駿河・伊豆国守護「北条時宗」(~1279年、次に時守が就任~不詳)
1272年2月1日-09:00|日本| ||文永9年|<任命>肥後国守護「少貳資能」(~不詳)
1272年2月1日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元9年1月|元朝が尚書省を廃して中書省に統合
1272年2月1日-07:00|ベトナム| ||大越・紹隆15年1月|レ・ヴァン・フク(黎文休)がグエン・フク最初の歴史書「大越史記」(趙佗
時代から朝時代末期までを記した30巻)を皇帝の命により編纂
1272年2月21日-01:00|アルバニア| |||テュラツォはシチリア王のアルバニア王国の一部(~1286年)
1272年2月25日-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シチリアの長官・副将軍「ガッツォ・チナルト」(~1273年5月)
1272年3月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元9年2月3日|中都を大都とする
1272年3月11日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|文永9年2月11日|反得宗勢力である名越時章・教時兄弟が得宗被官
である四方田時綱ら御内人によって誅殺
1272年3月15日-09:00|日本| ||文永9年2月15日|<死去>伯耆国守護・六波羅探題南方「北条時輔(得宗家)」二月騒
動で北方の北条義宗に討たれる/25歳(誕生:宝治2(1248)0528)
1272年3月15日-09:00|日本|鳥取県|文永9年2月15日|<任命>伯耆国守護「蘆名経光」(~1275年)
1272年3月17日-09:00|日本| ||文永9年2月17日|<死去>88代「後嵯峨天皇」53歳(誕生:承久2(1220)0226)
1272年3月18日 00:00|イギリス| |||<死去>アンデル伯「ジョン・フィッツアラン」
1272年4月4日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<死去>トイツ王・イタリア王「ユーンウォール伯リヒャルト・フォン・ユーンウォール」
1272年4月4日-01:00|ドイツ/オーストリア/イタリア/フランス| |||<就任>神聖ローマ帝国宰相「マインツ大司教グエルター・フォン・エップシュタイン」
(~12730929)
1272年5月27日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<死去>シュレースヴィヒ公「エーリク1世」
1272年5月27日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<就任>シュレースヴィヒ公「マルガレーター」(~12821229死去)
1272年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「ロシク・フィア・ケメー」(2回目~11.27)
1272年6月5日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ3世、トゥールーズ伯領の相続に異を唱えた「フォア伯」討伐のため遠征し
、フランス西部のフォアを占領し「フォア伯」を降伏させる
1272年6月23日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド 判事「ジェームズ・ド・オートリー」
1272年6月23日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事代行「ジョン・ド・ムシェグロ卿」(~8月)
1272年6月24日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「ストゥルラ・フデ・イ・ソーダルソン」(~12
770625)
1272年7月28日-01:00|イタリア| |||<即位>マントヴァのカーターノ・デル・ポ・ポロ「ピナモンテ・ボナホルシ」(~12910909)
1272年8月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「オファリー卿モリス・フィッツジェラルド」(~1273年4月)
1272年8月6日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王「イシュトヴァーン5世」兼クロアチア王「ステファン5世」
1272年8月6日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<就任>ハンガリー王国摂政「エルジベート」(~12770523)
1272年8月6日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「ラースロー4世」イシュトヴァーン5世の息子(~12900710没
)
1272年8月21日-09:00|日本| ||文永9年7月26日|<死去>常陸佐竹氏5代目当主「佐竹長義」66才/義胤が継ぐ

1300迄 (2243件)

1272年9月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロシュ・ゲレギ」(1回目~1273年5月)
1272年9月2日-09:00|日本| ||文永9年8月9日|<死去>洞院佶子(京極院)(28歳) 亀山天皇の皇后
1272年9月16日-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール大公「トウエリ公ヤロスラフ・ヤロスラヴィチ」
1272年9月16日-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「コストロマ公ウァシーリ・ヤロスラヴィチ」(~1276年1月没)
1272年11月10日-01:00|フランス/イギリス| |||<死去>オールド女伯「Aveline de Forz」
1272年11月16日 00:00|イギリス/フランス| |||<死去>イングランド王「ヘンリー3世」兼アキテーヌ公「アンリ2世」65歳(誕生:12071001)
1272年11月20日 00:00|イギリス/フランス| |||<即位>イングランド王「エドワード1世長脛王」兼アキテーヌ公「エドワード1世」ヘンリー3世とエリザベス・バゴウアンズの男子(~13070707死去68歳)
1272年11月22日-09:00|日本|京都府京都市東山区|文永9年11月|親鸞の娘覚信尼が、10年前に没した親鸞の遺骨を移して、吉水の北辺に仏閣を建てた(西本願寺の創始)
1272年11月27日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「ロント・フィア・トモス・ネペリ・ラット」(2回目~1273年11月)
1273年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ナンキャン」(~1277年)
1273年-04:00|ロシア| |||<就任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「ウァシーリ・ヤロスラヴィチ」(~1276年)
1273年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「John1世」Alixと結婚(~1290年)
1273年-01:00|フランス| |||<就任>ヌヴェール伯「Robert3世」(~12800602退位)
1273年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホシュタイン=キール伯「ヨハ2世隻眼伯」ホシュタイン=キールを分割(~1316年ヨハ3世とゲルハルト4世により廃された)
1273年-01:00|ドイツ| |||<就任>ホシュタイン=ゼーゲベルク伯「アドルフ5世ホーメニオン」ホシュタイン=キールを分割(~13081111死去)
1273年-01:00|ポーランド| |||<即位>カザン・イノヴォワ公「レシク1世」カザン公ガミシク1世の息子(~1278年)
1273年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Henry2世」(~1289年)
1273年-01:00|スペイン| ||カスティリヤ王国でメスタ(牧畜業者組合)が設立
1273年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「セントアンドリュース司教ウィリアム・フレザー」(~1279年)
1273年 00:00|モロッコ| |||タンジールはモロッコの一部
1273年1月21日-09:00|日本| ||文永10年|<任命>彦岐国守護「武藤資能」(~不詳)
1273年1月21日-07:00|ベトナム| ||大越・宝符1年|大越・宝符と改元(-1278)
1273年1月22日-01:00|スペイン| |||<死去>ガラタ王国スルタン「ムハマト1世」
1273年1月22日-01:00|スペイン| |||<即位>ガラタ王国(ナスル朝)アミール「ムハマト2世」(~13020408死去)
1273年1月29日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元10年1月9日|モンゴルが樊城(湖北)を破る
1273年2月22日-01:00|ベルギー| |||<死去>アーノルド伯「Arnold2世」
1273年2月22日-01:00|ベルギー| |||<就任>アーノルド伯「John1世」ルース伯(~1278年死去)
1273年3月1日-09:00|日本|京都府京都市右京区|文永10年2月11日|嵯峨法華堂造営供養
1273年3月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元10年2月24日|南宋の襄陽(湖北)がモンゴルに降る
1273年4月19日-08:00|中国/韓国/朝鮮/モンゴル| ||元・至元10年;高麗・至元10年4月|高麗と元の連合軍の攻撃を受け、耽羅の三別抄が全滅
1273年5月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ヤノス・クシキ」(~6月)
1273年5月-02:00|エジプト/パレスチナ| ||マムルーク朝のバイルスとアクレが休戦条約を締結
1273年5月-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シチリアの長官・副将軍「アンセルメ・デ・カーン」(~1274年3月死去)
1273年5月22日-09:00|日本| ||文永10年5月5日|<就任>関白:九条忠家
1273年6月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロシュ・ゲレギ」(2回目~1274年9月)
1273年6月13日-09:00|日本| ||文永10年5月27日|<死去>「北条政村」鎌倉幕府7代執権[1205年06月22日生~](享年67)
1273年9月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジェフリー・ド・ジョイングイル」(~1276年7月)
1273年9月14日-09:00|日本| ||文永10年8月2日|<死去>礼子内親王(嘉陽門院)(74歳) 後鳥羽天皇の皇女
1273年9月29日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/スイス| |||<即位>ドイツ王・イタリア王・ブルグント王「ハプスブルク伯ルドルフ1世」(~12910715没)
1273年10月-02:00|トルコ| |||<死去>ラテン帝国皇帝「ボートゥアン2世」43歳
1273年10月-02:00|トルコ| |||<即位>ラテン帝国皇帝「フィリップ1世」ボートゥアン2世の息子(~12831215死去)
1273年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「テネス・フィア・ジェルジ・ネペリ・ペチ」(1回目~12740927)
1273年11月22日-09:00|日本|京都府京都市|文永10年10月12日|京都大火/六条坊門壬生より失火、向八条坊門、東河原、長講堂・六条殿など焼亡
1273年11月30日-09:00|日本|京都府京都市|文永10年10月20日|万里小路内裏焼失
1274年-05:45|ネパール| |||<即位>マラ国王「Ananta Malla」(~1310年)
1274年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Yusuf Shah1世」(~1288年)
1274年-02:00|ギリシャ| |||<死去>ロードス島専制君主「イオアニス・トウカス・パライオロガス」
1274年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「マリノ・モロニー」(~1276年)
1274年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグア騎士団団長「エルンスト・フォン・ラッツェブルク」(~12790305死去)
1274年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||スタクはジェノヴァが支配(~1287年)
1274年-02:00|ブルガリア/モンゴル| |||ブルガリアにモンゴルが侵攻(~1300年)
1274年-01:00|コアラチ| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「テネス・ペーク」(~1275年)
1274年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>ユリヒ伯「ウイヘルム5世」(ウイヘルム4世と共同統治)(~1278年)
1274年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「エンギエンのヨネ」(~1281年)

1300迄 (2243件)

1274年-01:00|ベルギー| ||<退任>リージュ公「ヘンリー・ド・ゲルダース」
1274年-01:00|ジブチ/モロッコ| ||ジブチはマリーン朝のモロッコの一部
1274年-01:00|フランス| ||ヌール領はフランス王フィリップ 3世に売却
1274年-01:00|アルバニア/トルコ| ||ブトリントをビザンチンが占領 (~1278年)
1274年 00:00|マリ| ||<即位>マリ帝国マンサ「マンサ・ハリファ・ケイタ」 (~1275年暗殺される)
1274年3月-01:00|アルバニア/イタリア| ||<死去>アルバニア王国シリアの長官・副将軍「アンセルメ・デ・カン」
1274年3月-01:00|アルバニア/イタリア| ||<就任>アルバニア王国シリアの長官・副将軍代行「ヨハネス・デ・フシコ」 (~5月)
1274年3月6日-09:00|日本| ||文永11年1月26日<就任>摂政: 九条忠家 (~文永11年6月20日)
1274年3月6日-09:00|日本| ||文永11年1月26日<譲位>90代「亀山天皇」上皇となる => 踐祚> 世仁親王
1274年3月7日-01:00|イタリア| ||<死去>イタリアのスコラ哲学者・神学者「トマス・アクィナス」/「神学大全」
1274年3月17日-09:00|日本| ||文永11年2月8日|一遍が超一・超二・念仏房の3人の同行とともに伊予の自宅を旅立つ/時宗を開く
1274年3月23日-09:00|日本| ||文永11年2月14日|佐渡に流されていた日蓮が幕府に赦免され鎌倉へ帰る
1274年5月-01:00|アルバニア/イタリア| ||<就任>アルバニア王国シリアの長官・副将軍「カルロ・ネ・デ・トウジ・アコ」 (~1275年10月)
1274年5月4日-09:00|日本| ||文永11年3月26日<即位>91代「後宇多天皇」世仁親王 (~12871021)
1274年5月17日-02:00|ラトビア/エストニア| ||<就任>リガ大司教・ウラント公「ヨハネス1世フォン・リュネン」 (~1285年死去)
1274年6月17日-09:00|日本| 山梨県南巨摩郡身延町|文永11年5月12日|日蓮甲斐国で身延山久遠寺を開く
1274年6月24日-01:00|フランス| ||フランス王フィリップ 3世、神聖ローマ帝国領「ブラバント公」の娘マリ・ド・ブラバントと結婚
1274年7月22日-01:00|スペイン/フランス| ||<死去>ナバラ王「エンリケ1世肥満王」兼ジャン・ド・ヌー伯「アンリ3世」30歳
1274年7月22日-01:00|スペイン/フランス| ||<即位>ナバラ王「ファ1世」兼ジャン・ド・ヌー伯「ジャンヌ」エンリケ1世 (アンリ3世) とブランシュ・タルトワの女子 (~13050404死去34歳)
1274年7月23日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元11年6月18日<死去>第24代高麗王「元宗 (忠敬王)」病死
1274年7月24日-09:00|日本| ||文永11年6月20日<就任>摂政: 一条家経 (~建治元年10月21日)
1274年7月24日-09:00|朝鮮| ||高麗・至元11年6月19日<即位>第25代高麗王「忠烈王」 (~12980302退位)
1274年8月6日-01:00|ポーランド| ||<就任>グダグ公「ヘンリ3世」 (~13091203死去)
1274年8月12日-08:00|中国| ||宋・咸淳10年7月9日<死去>南宋第6代皇帝「度宗」/年33
1274年8月12日-08:00|中国| ||宋・咸淳10年7月9日<即位>南宋第7代皇帝「恭帝」 (~1276年2月4日) 謝太后摂政
1274年8月13日-09:00|日本| 広島県尾道市|文永11年7月10日|絹本仏涅槃図 (尾道浄土寺蔵) 成る
1274年8月19日 00:00|イギリス| ||エドワード 1世がドーヴァーに上陸し、ウェストミンスター寺院で戴冠
1274年9月-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「マテ・チーク」 (2回目 ~1275年7月)
1274年9月2日-09:00|日本| ||文永11年8月1日<死去>「宗尊親王」鎌倉幕府6代将軍 [1242年11月22日生 ~] (享年31)
1274年9月27日-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「ロンド・フィア・ド・モス・ネベリ・ラット」 (~1275年6月)
1274年11月 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ジャージー・島守護者「Jean Wyger (王立委員会)」 (~1275年)
1274年11月4日-09:00|日本/中国/モンゴル| 長崎県対馬市|文永11年; 元・至元11年10月5日|蒙古・高麗の軍船団は対馬を襲った/対馬守護代宗助国は一族ごとく討死 (対馬の戦い、文永の役の始り)
1274年11月13日-09:00|日本/中国/モンゴル| 長崎県壱岐市|文永11年; 元・至元11年10月14日|壱岐守護代平景隆が100余騎で応戦するも、樋詰城で戦死
1274年11月14日-09:00|日本/中国/モンゴル| 長崎県壱岐市|文永11年; 元・至元11年10月15日|蒙古軍船は壱岐を落とす
1274年11月16日-09:00|日本/中国/モンゴル| ||文永11年; 元・至元11年10月17日| (16日) 元軍は肥前沿岸の松浦郡および平戸島・鷹島・能古島の松浦党の領地に襲来/鷹島に襲来した元軍は島民を虐殺/松浦党の肥前の御家人・佐志房・佐志直 (嫡男)・佐志留 (二男)・佐志勇 (三男) 父子や同国御家人・石志兼・石志二郎父子らが応戦したものの松浦党の基地は壊滅. この戦闘で佐志房および息子の直・留・勇はみな戦死
1274年11月19日-09:00|日本/中国/モンゴル| ||文永11年; 元・至元11年10月20日|元軍は博多湾のうちの早良郡に襲来/朝8時頃の開戦で戦闘が終結したのが夕暮れの18時頃<赤坂の戦い (筑前国)>早良郡から上陸した元軍は、早良郡の百道原より約3km東の赤坂を占領し陣を布いた/一方、日本軍は総大将・少貳景資の下、博多の息の浜に集結し、そこで元軍を迎撃しようとして待ち受けていたが、肥後の御家人・菊池武房の軍勢が赤坂の松林のなかに陣を布いた元軍を襲撃し上陸地点の早良郡のうちにある亀原へと元軍を敗走させた:<鳥飼潟の戦い (筑前国)>亀原一帯に陣を布いていた元軍に竹崎季長が先駆けを、軍も亀原から鳥飼潟に向けて前進し鳥飼潟の塩屋の松の下で竹崎季長主従と衝突/竹崎季長主従は元軍の矢を受けて竹崎季長、三井資長、若党以下三騎が負傷するなど危機的状況に陥ったが、後続の肥前の御家人・白石通泰率いる100余騎が到着し元軍に突撃を敢行したため元軍は亀原山の陣地へと引き退いた/早良郡へと馳せ向かった福田兼重ら日本軍は鳥飼潟で元軍と遭遇して衝突、豊後の御家人・都甲惟親奮戦により、元軍は鳥飼潟において日本軍に敗れ同じく早良郡のうちにある百道原へと敗走:<百道原・姪浜の戦い>鳥飼潟の戦いで敗れた元軍を追って日本軍は百道原まで追撃/福田兼重は百道原において大勢の元軍の中に馳せ入り元軍と矢戦となり鎧の胸板・草摺などに三本の矢を受けて負傷/豊後の御家人・日田永基らが奮戦し元軍を破りさらに百道原の西の姪浜の戦いの両所で1日に2度元軍を大いに破った
1274年11月20日-09:00|日本/中国/モンゴル| ||文永11年; 元・至元11年10月21日|蒙古軍船は夜半に入り博多湾を襲った風雨により激浪にもまれ多くの軍船が難破沈没/戦死者も含めて死亡者は1万3500人
1274年12月30日-09:00|日本| 愛知県岡崎市|文永11年12月|僧栄盛、仏師春快に慈恵坐像を造立させ、三河国真福寺に納める

1300迄 (2243件)

1275年-05:30|インド| |||ベンガル地方で奴隷王朝に対する反乱が勃発
1275年-03:30|イラン| |||<即位>ヤスト・アタベク朝スルタン「ユースフシャー・イブン・タキ・シャー」(~1297年)
1275年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「エイラート・フォン・オーベルヒ」(~12790305死去)
1275年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>クレフェ伯「ティートリヒ6世」
1275年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ヤコポ・コンタリニ」(~1280年)
1275年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「ヨハン2世」(~1301年)
1275年-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「ティートリヒ7世」(~1305年死去)
1275年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「ガツカのニコラス」(~同年)
1275年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「イヴァン・ヘデル・クシキ」(~同年)⇒「タマス・ホント・パズマニ」(~1276年)
1275年 00:00|マリ| |||<死去>マリ帝国マンサ「マンサ・ハリファ・ケイタ」暗殺される
1275年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「セン・コハロ」(~1295年)
1275年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Abu Bakr」(~1285年)
1275年 00:00|モロッコ/スペイン| |||マリ朝がカスティリヤ王国へ遠征
1275年 00:00|モロッコ| |||マリ朝がムワッヒト朝の旧都ティンマツルを占領
1275年1月29日-09:00|日本| |||建治2年|<任命>越前国守護「足利満氏」(~不詳)
1275年1月29日-09:00|日本| |||建治2年|<任命>伯耆国守護「三浦頼連」(~1285年、次に北条時益~1333年)
1275年1月29日-09:00|日本| 神奈川県横浜市金沢区|文永12年|北条実時が金沢文庫を造る(武蔵国久良岐郡六浦
庄金沢邸宅内)
1275年1月29日-08:00|中国| |||宋・徳祐1年1月1日|南宋の恭帝が徳祐(-1276年)と改元
1275年2月27日-08:00|中国| |||宋・徳祐1年2月|南宋の文天祥が義勇軍を組織し、元軍に抵抗
1275年3月2日-09:00|日本| |||文永12年2月4日|幕府が、鎮西の御家人に異国船来襲に備えて異国警固番役を命
じる
1275年3月9日-09:00|日本| |||文永12年2月11日|<死去>近衛長子(58歳)近衛家実の娘、後堀河天皇の中宮
1275年3月29日-09:00|日本| 京都府京都市右京区|文永12年3月|神護寺愛染明王像(康円)できる
1275年4月20日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|文永12年3月23日|極楽寺焼失
1275年5月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ3世、フランス中部のオルアンで「オルアン条約」を結ぶ/「ジャン・ド・ヌーヴ」伯爵「ジャンヌ」が成
人するまで、諸領は「フランス王国」が管理する
1275年5月22日-09:00|日本| |||建治1年4月25日|文永から建治に改元
1275年5月27日-09:00|日本| |||建治1年5月1日|<死去>歌人「藤原為家」78歳(誕生:建久9(1198)年)/「続古今和歌
集」の選者
1275年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・ヘンリク・ネペリ・ヘダー」(1回目~11月)
1275年7月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ラズロー・ハーン」(2回目~12月)
1275年7月3日-09:00|日本| |||建治1年6月9日|<死去>九条忠家(47歳/摂政・関白、右大臣)
1275年7月22日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「マグヌス3世」(~12901218死去50歳)
1275年7月22日-01:00|スウェーデン| |||<退位>スウェーデン王国国王「ウァルデマル1世」(~13021226死去63歳)
1275年7月29日-09:00|日本| |||建治1年7月6日|<任命>越中・越前国守護「名越公時」(~1284年、次に時有が就任~1
333年)
1275年9月7日-09:00|日本| |||建治1年8月16日|<死去>下総国守護「千葉頼胤」
1275年9月24日 00:00|イギリス| |||<死去>エセックス伯「ハフリー・ド・ブーン」
1275年9月24日 00:00|イギリス| |||<就任>エセックス伯「ハフリー・ド・ブーン」(~1297.3)
1275年9月27日-09:00|日本/中国/モンゴル| |||建治1年;元・至元12年9月7日|鎌倉幕府執権・北條時宗が、入貢を要
求した元の使者5人を斬殺
1275年10月-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シリアの長官・副将軍「ギルモ・ベルナルディ」(1回目~1277年10
月)
1275年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ピーター・フィア・マテ・ネペリ・サーク」(1回目~1276年6月)
1275年11月10日-09:00|日本| |||建治1年10月21日|<再任>摂政:鷹司兼平
1275年11月25日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島副守護者「Raoul de Broughton」(~127
6年)
1275年11月25日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島・ガーンジー島主「Othon de Grandison卿
」(~1328.5死去)
1275年12月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ウグリン・サーク」(~1276年8月)
1276年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「トミリー・アレクサンドロヴィチ」(~1281年)
1276年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルムタキ・アルムター・ビン・ヤーヤ・ビン・アルムルタダ」(~12980623死去)
1276年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ピエトロ・ゼーノ」(~1277年)
1276年-02:00|エジプト/トルコ| |||マムルーク朝バイルス、スビア遠征軍を送り属国化;アフリカに出兵し、カイロに入城
1276年-01:00|スロベニア| |||<就任>カルニオラ辺境伯「Rudolph」(~12860201)
1276年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「イヴァン・ヘデル・クシキ」(2度目~1277年)
1276年-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公「ルドルフ1世」ドイツ王(~12860201)
1276年-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<即位>ゼータ大公「エラ(ヘルツェグ・エリナ)」(~13140208死去)
1276年-01:00|オーストリア/ドイツ/スロベニア| |||皇帝ルドルフ1世はボヘミア王・ケルテン公オカ2世に対し帝国アハト刑に処し帝国
内におけるあらゆる権利を剥奪、直轄統治(~1286年)
1276年 00:00|イギリス| |||<死去>5代マー伯「ウィリアム」

1300迄 (2243件)

1276年 00:00|イギリス| |||<就任>6代マー伯「ドムナル1世」(~1301年)
1276年 00:00|アイルランド| |||<即位>トモント王「トイルヘルバッハ・モール・オー・ブリアン」外「ゲ・カエル・ウイス・オー・ブリアン」の息子(~1306年没)
1276年1月-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「コストロマ公ウァシリ・ヤロスラヴィチ」
1276年1月-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「ペレヤスラフ・ザ・レスキー公トミリー・アレクサンドロヴィチ」(1回目~1281年)
1276年1月10日-01:00|バチカン| |||<死去>第184代ローマ教皇「グレゴリウス10世」享年66
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年|<任命>播磨国守護「北条時宗」(~1281年、次に兼時が就任~1284年)
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年|<任命>肥後国守護「安達泰盛」(~弘安8(1285)年)
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年|<任命>肥前国守護「少貳経資」(~1281年、次に、時定、定宗が就任~1294年)
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年|<任命>備中国守護「北条氏」(~1279年)
1276年1月18日-08:00|中国| ||元・至元13年|<即位>天山ウイグル王国「バグダド・ハシム・ハシム(紐林的斤)」ハシムの子(~1318年)
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年1月|<任命>周防国守護「北条宗頼」(~1279年、次に兼時、師時、忠時、実政、時仲、時村、熙時、時仲、時直と続く)~1333年)
1276年1月18日-09:00|日本| ||建治2年1月|<任命>長門国守護(⇒長門探題)「北条宗頼」(~弘安2(1279)年)
1276年1月21日-01:00|バチカン| |||<就任>第185代ローマ教皇「インノケンティウス5世」(~6. 22)
1276年2月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元13年:宋・徳祐2年1月18日|<廃位>南宋第7代皇帝「恭帝」元軍に降伏し首都臨安が陥落
1276年2月13日-09:00|日本|愛媛県大洲市|建治2年|如法寺木造地藏菩薩立像が興慶により造られる
1276年2月13日-09:00|日本|香川県三豊市|建治2年|大興寺(現. 山本町)蔵木造天台大師坐像、願主勝覚によって造立
1276年3月 00:00|モロッコ| |||マリーン朝「アブ・ユースフ」がフェスに西郊に新都を建設
1276年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラティス・ミクロシュ・ハンリク・ネペリ・ヘーダー」(2回目~1277年7月)
1276年6月14日-08:00|中国/モンゴル| ||宋・景炎1年5月1日|<即位>南宋第8代皇帝「端宗」(~景炎3年4月15日1278年5月8日)宋の遺臣陸秀夫等が擁して元軍に抵抗/景炎と改元
1276年6月30日-09:00|日本|滋賀県|建治2年5月17日|<死去>近江守護「佐々木泰綱」(64歳)
1276年7月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 判事「ロバート・ウフォード」(2回目~1281年12月)
1276年7月11日-01:00|バチカン| |||<就任>第186代ローマ教皇「ハドリアヌス5世」(~8. 18死去)
1276年7月21日-09:00|日本| ||建治2年6月9日|<死去>藤原光俊(真観)(74歳)歌人
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<死去>アラゴン国王「サルターニャ伯「ハイメ1世」兼マヨルカ王「バルセロナ伯「ジャウメ1世征服王」68歳
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<死去>マヨルカ王「ジャウメ1世」
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<就任>サルターニャ伯「ハイメ2世」(~13110529死去)
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯「ペドロ2世大王」(~12851111死去)
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<即位>アラゴン王「ペドロ3世」兼バルセロナ伯「ペドロ2世大王」ハイメ1世とヒェロニム・デ・ウングリアの息子(~12851102死去45歳)
1276年7月27日-01:00|スペイン| |||<即位>マヨルカ王「ジャウメ2世」(~13110529死去)
1276年7月27日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領「ジャージー」島副守護者「Philippe Burnel」(~1278年)
1276年8月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「M・アテ・サーク」(3回目~1277年10月)
1276年8月18日-01:00|バチカン| |||<死去>第186代ローマ教皇「ハドリアヌス5世」
1276年9月1日-09:00|日本| ||建治2年7月22日|二条為氏が勅によって「続拾遺和歌集」を選ぶ
1276年9月8日-01:00|バチカン| |||<就任>第187代ローマ教皇「ヨハネス21世」(~12770520死去)
1276年10月-01:00|セルビア| |||<即位>第6代セルビア王「ステファン・ドラグティン」ステファン・ウロシュ1世の長子(~1282年. 1316年死去)
1276年10月-01:00|セルビア| |||<退位>第5代セルビア王(ネマニッチ朝)「ステファン・ウロシュ1世」(~12770501死去)
1276年11月8日-09:00|日本|群馬県館林市|建治2年10月|寂慧良暁上野国館林に善道寺を創建
1276年11月8日-09:00|日本|千葉県鴨川市|建治2年10月|日蓮の弟子の日家が日蓮の生家跡に高光山日蓮誕生寺を創建
1276年11月12日 00:00|イギリス| |||第1次ウェールズ戦争が起こる
1276年11月30日-09:00|日本| ||建治2年10月23日|<死去>北条実時/53歳(誕生:元仁1(1224)年)/金沢文庫を創設した
1276年11月30日-09:00|日本| ||建治2年10月23日|<任命>豊前国守護「北条(金沢)実政」(~不詳)
1277年-08:00|インドネシア| |||<即位>ポルトガル王「ポイト」(~1284年)
1277年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ミンピル」(~1280年)
1277年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャファナ王国国王「Kulasekara Ginkaiariyan」(~1284年死去)
1277年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>カト朝マリク「Rukn-uddin ibn Sham-suddin Muhammad」(~1295年)
1277年-04:00|ロシア| |||<死去>ロストフ公「ボリス・ウァシリコヴィチ」
1277年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「グレゴリ・ウァシリコヴィチ」(~1278年死去)
1277年-03:30|イラン| |||<即位>オームス王「Serf ed-Din Nusrat」(~1290年)
1277年-02:00|トルコ| |||<死去>カラマ朝「セメズeddin1世」殺害される

1300迄 (2243件)

1277年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「マリノ・グラーティニコ」(1回目~1280年)
1277年-02:00|トルコ| |||<即位>カラマニ朝ベイ「Güneri Bey」(~1300年死去)
1277年-01:00|チュニシア/アルジェリア| |||<死去>ハフス朝アミール「アフー=アフド・ウッラー・ムハンマド・アル=ムスタンシル」
1277年-01:00|スペイン| |||<就任>アソリアス伯「Ponce 5世」(~1313年死去)
1277年-01:00|フランス| |||<就任>オーベールニュ伯「ギヨーム11世」(~1279年)
1277年-01:00|ドイツ| |||<就任>フェルデナツ伯「Henry」(~1298年)
1277年-01:00|チュニシア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「ヤフヤー2世アル・ワシク」(~1279年)
1277年-01:00|イタリア| |||シチリア王シャル・ダン・ジョーがエルサレム王位を要求。シャル・ダン・ジョーがアッコを奪う
1277年 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Philippe l' Eveque卿」(~1289年死去)
1277年 00:00|アイルランド| |||<復位>トモント王「フライアン・ルアド・オー・ブリアン」(~同年)⇒(請求者)「ドンチャド・マック・フライアン・ルアド・オー・ブリアン」フライアン・ルアド・オー・ブリアンの息子(~1284年没)
1277年1月21日-01:00|イタリア| |||<解任>ミラノ・シニョレ「ホーレ・ネ・テッラ・トル」捕えられる
1277年1月21日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョレ「オットー・ネ・ヴァイスコンティ」ミラノ大司教(~12950808死去)
1277年2月5日-09:00|日本| ||建治3年|<任命>遠江国守護「北条宣時」(~1286年、次に貞直が就任~1331年)
1277年2月5日-09:00|日本| ||建治3年|<任命>筑後国守護「北条宗政」(~弘安4(1281)年死去)
1277年2月5日-08:00|中国/モンゴル| |||元が泉州・寧波に市舶司を設置
1277年3月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|建治3年2月7日|幕府の公文所が焼失
1277年5月5日-09:00|日本| ||建治3年4月|<任命>隠岐国守護「佐々木宗泰」(以後、時清、清高が就任~1333年)
1277年5月10日 00:00|イギリス| |||ホースをイギリスが占領
1277年5月20日-01:00|バチカン| |||<死去>第187代ローマ教皇「ヨハネス21世」
1277年6月4日-09:00|日本| ||建治3年5月2日|<死去>丹波国守護「北条時盛」(次に時国が就任~弘安7(1284)年10月3日死去)
1277年7月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パタイン「ヒーター・フィア・マテ・ネンペリ・サーク」(2回目~11月)
1277年7月1日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>パフリー・マムルーク朝スルタン「ザーヒル・バィバルス」ダマスカスで/54歳
1277年7月3日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>パフリー・マムルーク朝スルタン「サイト・バラハーン」(~1279. 8)
1277年8月-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ニコラ・ト・ロルク」(~12840312没)
1277年8月14日-09:00|日本|京都府京都市|建治3年7月14日|近衛西洞院左衛門より失火し、六条殿、長講堂を類焼
1277年8月26日-09:00|日本|奈良県奈良市|建治3年7月26日|興福寺金堂、講堂などが雷火で焼ける
1277年9月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「コンスタンチン・アセン・イティフ」
1277年9月-02:00|ブルガリア| |||<就任>第二次ブルガリア帝国摂政「マリア・パライオキーナ」(~1279年2月)
1277年10月-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シチリアの長官・副将軍「ヨハン(ジャン)ド・ヴァー・ケル」(~1279年6月)
1277年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パタイン「デニス・フィア・ジェルジ・ネンペリ・ペチ」(2回目~1278年3月)
1277年10月28日-08:00|モンゴル/ミャンマー| |||元・至元14年10月|元軍がバガン朝を攻撃
1277年11月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロシュ・ボク」(1回目~1278年)
1277年11月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>マルク伯「エンゲルベルト1世」
1277年11月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>マルク伯「エーバーハルト2世」(~1308年死去)
1277年11月25日-01:00|バチカン| |||<就任>第188代ローマ教皇「コラウス3世」(~12800822死去)
1277年12月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>リュネブルク侯「ヨハン」
1277年12月13日-01:00|ドイツ| |||<就任>リュネブルク侯「オットー2世厳格公」(~13300410死去)
1278年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティームグ朝スルタン「ハリ2世」(~1288年)
1278年-04:00|ロシア| |||<死去>スモレンスク公・ロストフ公「ゲレブ・ロスチスラヴィチ」
1278年-04:00|ロシア| |||<即位>第2代ベローゼロ公「ミハイル・ゲレブヴィチ」(~1293年)
1278年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ミハイル・ロスチスラヴィチ」(~1279年)
1278年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「トミリー・ホリツヴィチ」、「コンスタンチン・ホリツヴィチ」(~1286年)
1278年-03:30|イラン| |||<死去>クルト朝マリク「シャムスッディーン・ムハンマド・イブン・アフマーバクル」
1278年-03:30|イラン| |||<即位>クルト朝マリク「ルクヌッディーン・イブン・シャムスッディーン・ムハンマド(シャムスッディーン2世)」(~1295年)
1278年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ムスチスラヴリ公「アレクサンドル・ゲレブヴィチ」(~1281年)
1278年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「フィンタ・アルバ」(~1279年3月)
1278年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ドデカニサル領主「ジョヴァンニ・デ・ロ・カグジョ」(~1282年)
1278年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アカイア公「シャル1世・ダン・ジョー(シチリア・ナポリ王カルロ1世)」(~1285年)
1278年-01:00|ポーランド| |||<再位>クヤヴィイ=イノワロツワフ公ジエミヌ[クヤヴィ公ジエシ1世の次男](~12871224)
1278年-01:00|ベルギー| |||<死去>シー伯「John1世」
1278年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「ヨハン2世」(~1305年)
1278年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチア・ハン「ハヴァロ1世シュビッチ」(~1312年)
1278年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のハン「ミクロシュ・ゲットケレト」(~1279年)
1278年-01:00|アルバニア/ギリシャ| |||ブトリントをエピロス専制公が統治(~1279年)
1278年 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー-島副守護者「Guille de Saint-Remi」(1期目)+「Denis de Tilbury」(~1281年)
1278年 00:00|マン島| |||<就任>マン島執行吏「Maurice Okerfair」(~1282年死去)
1278年1月13日-09:00|日本| ||建治3年12月19日|<任命>六波羅探題南方「北条時国(佐介流)」(~弘安7(1284)年6

1300迄 (2243件)

月20日、罷免され、常陸国へ配流の後に討たれる)
1278年1月13日-09:00|日本| |||建治3年12月19日|幕府六波羅政務の条規を議定
1278年1月16日-09:00|日本| |||建治3年12月22日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条時村(政村流)」(~弘安10(1287)年8月14日)
1278年1月25日-09:00|日本| |||建治4年|<任命>伊勢国守護「北条(金沢)顕時」(~正安3(1301)年、次に貞顕、貞冬と続く~1333年)
1278年1月25日-09:00|韓国/朝鮮| |||高麗・至元15年|高麗・忠烈王が弁髪・胡服令を下す
1278年1月25日-09:00|日本|香川県坂出市|弘安1年|白峯寺十三重塔, 建立
1278年3月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パ・ライン「ヒーター・フィア・マテ・ネペリ・サーク」(3回目~6月)
1278年3月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>ユリヒ伯「ウ・イルヘルム4世」
1278年3月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>ユリヒ伯「ウ・アルム」(~12970820死去)
1278年3月23日-09:00|日本| |||弘安1年2月29日|建治から弘安に改元
1278年5月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イヴァロ(イヴァロ)」共同統治者(強奪者) (~1279年2月)
1278年5月8日-08:00|中国| |||宋・景炎3年4月15日|<死去>南宋第8代皇帝「端宗」/年11
1278年5月10日-08:00|中国| |||宋・景炎3年4月17日|<即位>南宋第9代皇帝「衛王」(~祥興2年2月6日)
1278年5月15日-09:00|日本| |||弘安1年4月22日|<死去>常陸佐竹氏6代目当主「佐竹義胤」52才/行義が継ぐ
1278年5月23日-08:00|中国| |||宋・祥興1年5月1日|南宋・衛王, 祥興と改元
1278年6月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パ・ライン「マテ・フィア・マテ・ネペリ・サーク」(~1280年7月)
1278年6月6日-09:00|日本|滋賀県大津市|弘安1年5月15日|山徒園城寺長吏隆弁の鹿谷坊を焼く
1278年8月 00:00|イギリス| |||スコットランドのアレクサンダー・3世がエドワードに臣従礼を行う
1278年8月13日-09:00|日本|京都府京都市東山区|弘安1年7月24日|京建仁寺焼失
1278年8月15日-09:00|日本|奈良県奈良市|弘安1年7月26日|興福寺諸堂焼失
1278年8月26日-01:00|オーストリア/チロ/ドイツ| |||<死去>ホーヘンシュタイン王・モウグ・イア辺境伯「オカル2世大王」マルビフェルトの戦いでドイツ王ルドルフ1世に大敗を喫し戦死
1278年8月26日-01:00|チロ| |||<就任>ホーヘンシュタイン摂政「オットー5世」(~12830525)
1278年8月26日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公・シュターア・マルク公「ルドルフ1世」ローマ王(~12821227退位~12910715死去73歳)
1278年8月26日-01:00|チロ| |||<即位>ホーヘンシュタイン王「グーテラフ2世」(~13050621死去)ホーランド王
1278年8月26日-01:00|チロ/スロベニア/ハンガリー| |||モウグ・イアはホーヘンシュタインの統治下(~13340101)
1278年9月8日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘルム司教ベレ・ド・ウルトゥス」(~12930112), 「フォア伯爵ロジェ・ペルナル3世」(~13020303死去)
1278年9月8日-09:00|日本|京都府京都市南区|弘安1年8月20日|東寺塔婆を造営
1278年11月8日-07:00|ベトナム| |||大越・宝符6年10月22日|<譲位>陳朝(大越)皇帝「聖宗」
1278年11月8日-07:00|ベトナム| |||大越・宝符6年10月22日|<即位>陳朝(大越)皇帝「仁宗」(~12930416(重興9年3月9日)譲位)
1278年11月28日-09:00|日本|京都府京都市中京区|弘安1年閏10月13日|二条内裏焼失
1278年12月13日-01:00|ホーランド/ドイツ| |||<死去>ボッセル公「ハルム1世善良公」
1278年12月13日-01:00|ホーランド/ドイツ| |||<就任>ボッセル公「ホーギスラフ4世」(⇒12950528ボッセル＝グーオルガスト公~13090219死去)、摂政「マティス・フォン・ブランデンブルク」(~1294年~13161220死去)
1278年12月26日-01:00|ホーランド| |||<死去>レグニツァ公「ホーレスラフ2世禿公」
1278年12月26日-01:00|ホーランド| |||<就任>レグニツァ公「ハンリク5世」(~12960222死去)
1278年12月29日-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「ギー1世」(~13050307死去)マルグリット2世と共同統治
1278年12月29日-01:00|フランス/ベルギー| |||<退任>フランドル伯「マルグリット2世」
1279年-07:00|タイ| |||<死去>スコータイ王朝国王「バーンムアン」
1279年-07:00|タイ| |||<即位>スコータイ王朝国王「ラムカムヘン」(~1298年死去)
1279年-05:30|インド| |||<死去>チョーラ朝国王「ラージェンドラ・チョーラ3世」
1279年-05:30|インド| |||<即位>東ガング朝国王「ナリシハ・デーヴァ2世」(~1306年)
1279年-05:30|インド| |||バーンデイヤ朝マラヴァルマン・クシェーカラ王が林伽朝・チョーラ朝連合軍を破る(チョーラ朝滅亡)
1279年-04:00|ロシア| |||<即位>スズダリ公「ミハイル・アントレーイ」(~1305年)
1279年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「フォートル・ロスラフ・イ」(~1297年)
1279年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>シチリア王国(「パトリ」)がヒェーズ統治(~1282年)
1279年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「オデュート」(~1281年)
1279年-02:00|エジプト| |||<即位>ショワ・サルタン国サルタン「Abdallah」(~1279年)
1279年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ・ンソロ1世サムコンド」(~1312年)
1279年-01:00|フランス| |||<就任>オーベルニュ伯「Robert6世」(~1317年)
1279年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ミクロシュ・ヘーデル・クシェキ」(1度目~1281年)
1279年-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァのシニョレ「ビ・モンテ・ボナコルシ」(~1291年)
1279年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「イブラヒム1世」(~1283年)
1279年-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンでアルス法が成立し、世襲的騎士身分制度が確立
1279年-01:00|イタリア| |||トリエステがヴェネツィア共和国に占領される(~1287年)
1279年-01:00|アルバニア/イタリア| |||ブトリントをシチリア王国(「パトリ」)が統治(~1386年)

1300迄 (2243件)

1279年 00:00|イギリス| |||<死去>ダーク・ヒュー伯「Robert de Ferrers」
1279年 00:00|イギリス| |||<就任>ダーク・ヒュー伯「Edmund "Crouchback"」(~12960605死去)
1279年1月20日-09:00|日本| ||弘安1年12月7日|<就任>関白:鷹司兼平(~弘安10年8月11日)
1279年2月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イヴァン・アシェン3世」(~1280年)
1279年2月13日-09:00|日本| ||弘安2年|<任命>摂津国守護「北条時宗」(~不詳)
1279年2月13日-09:00|日本| ||弘安2年|<任命>武蔵国守護「北条時守」(~不明)
1279年2月13日-09:00|日本| ||弘安2年|<任命>和泉国守護「北条時村」(~1300年)
1279年2月13日-09:00|日本| ||弘安2年|一遍聖人が踊り念仏をはじめ
1279年2月13日-07:00|ベトナム| ||大越・紹宝1年1月|大越・紹宝と改元(-1285年旧9月)
1279年2月16日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル王「アフォンソ3世」
1279年2月16日 00:00|ポルトガル| |||<即位>ポルトガル王「デニス1世農夫王」アフォンソ3世の子(~13250107死去)
1279年3月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イシュトヴァン・テス」(~1280年)
1279年3月5日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァニア騎士団団長「コンラート・フォン・フォイトヴィンゲン」(~1281年)、「ケルバルト・グラーフ・フォン・カッツェルンボーク」摂政(~1280年死去)
1279年3月8日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴーニュ伯「アデライート」
1279年3月8日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴーニュ伯「オトン4世」アデライートとユーク・ド・シャロンの子(~13030326死去) 1295年以降は名目のみ
1279年3月8日-01:00|フランス| |||<退任>ブルゴーニュ伯「フィリップ・ド・サヴォワ」(~12850816死去)
1279年3月16日-01:00|フランス| |||<死去>オマル女伯「Joan of Dammartin」
1279年3月19日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元16年;宋・祥興2年2月6日|<死去>南宋第9代皇帝「衛王」広東沖で南宋の海軍が元軍に敗れ、宰相の陸秀夫に背負われて入水/南宋は150年で滅ぶ
1279年4月7日-09:00|日本|奈良県生駒市|弘安2年2月25日|この年、大和長弓寺本堂できる
1279年4月13日-09:00|日本|京都府京都市右京区|弘安2年3月|嵯峨清凉寺で融通大念仏が行われた(嵯峨大念仏狂言の始まり)
1279年6月-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シリアの長官・副将軍「ヨハン・スコト」(~1282年)
1279年7月4日-09:00|日本| ||弘安2年5月24日|<死去>京極為教(53歳)右兵衛督、歌人去
1279年7月12日-09:00|日本|東京都台東区|弘安2年6月2日|日寂武蔵橋場[鐘ヶ淵]に長昌寺を創す
1279年7月14日-09:00|日本|山口県|弘安2年6月5日|<死去>長門・周防守護、長門探題「北条宗頼」(21歳)
1279年7月15日-09:00|日本|山口県|弘安2年6月5日|<任命>長門探題「北条兼時」(~弘安3年(1280)年)
1279年8月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バリー朝スルタン「バドル・アル＝ディン・サラミシュ」(~1279. 11廃位)
1279年8月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「アーディル・サラミシュ」(~1279. 11)
1279年8月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク＝グオルフェンビュッテル侯「アルブレヒト1世」
1279年8月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク＝グオルフェンビュッテル侯(共同統治)「ハインリヒ1世」アルブレヒト1世の息子(~1291年)、「アルブレヒト2世」ハインリヒ1世の弟(~1291年)、「グーティヘルム1世」アルブレヒト2世の弟(⇒1291年単独統治~12920930死去)
1279年9月6日-09:00|日本/中国/モンゴル| ||元・至元16年;弘安2年7月29日|元の使いの周福らが筑紫に来航し書を届け、幕府がこれを奏上するが朝議がこれを却下する/ついで幕府が周福らを博多で斬殺する
1279年9月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>グーティヘルム伯「ウルリヒ2世」
1279年9月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>グーティヘルム伯「エーバールハルト1世」(~13250605死去)
1279年10月14日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<死去>リンブルフ公「グアルム4世」
1279年10月14日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<就任>リンブルフ公「グエルダールのレイヌート1世」(~1288年)
1279年11月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・カラウン」(~12901110死去)
1279年11月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<廃位>バフリー・マムルーク朝スルタン「アーディル・サラミシュ」
1279年12月7日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド公「ボレスワフ5世フステイトリグ」
1279年12月7日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「レシク2世チルヌイ」コンラート1世の孫息子/ヘンリク2世の女系の孫息子(~12880930死去)
1279年12月25日-09:00|日本| ||弘安2年11月21日|<死去>じょう子内親王(永安門院)(64歳)順徳天皇の皇女
1280年-05:30|インド| |||奴隷王朝のバルハンがベンガルの反乱を鎮圧
1280年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<死去>オルダ・ウルス・ハン「コンギラン」
1280年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン| |||<即位>オルダ・ウルス・ハン「ユニチ」(~1302年死去)
1280年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「トダ・モンケ」トガンの子、モンケ・テムルの弟(~1287年廃位)
1280年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>グイェフスキ公「グアシリコ・ブリアチスラヴィチ」(~1297年)
1280年-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「ジャン1世」
1280年-02:00|トルコ| |||<死去>チョバン朝ベイ「Alp Yurek」
1280年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アンジエロ・ガブリエル」(~1282年)
1280年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ミクロシュ・ボク」(2回目~1281年)
1280年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「ゲオルギ1世テレル」(~1292年)
1280年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「キヨム1世」ジャン1世の兄弟(~1287年死去)
1280年-02:00|トルコ| |||<即位>チョバン朝ベイ「Muzafferuddin Yavlak Arslan」(~1292年)
1280年-02:00|トルコ| |||<即位>トレビゾント帝国第7代皇帝「ヨハネス2世」(~1284年)
1280年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・ダントロ」(~1289年)

1300迄 (2243件)

1280年1月30日-09:00|日本| ||弘安2年12月27日|前権大納言藤原為氏亀山上皇の院宣により続拾遺和歌集20巻を撰進

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>河内国守護「北条久時」(~不詳、以後北条氏一門~1333年)

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>紀伊国守護「北条久時」(~不詳)

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>信濃国守護「北条久時」(~不明)

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>摂津国守護「北条久時」(~不詳)

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>大隈国守護「千葉宗胤」名越家から交代/以降千葉家(~弘安5年までの間)

1280年2月2日-09:00|日本| ||弘安3年|<任命>日向国守護「北条久時」(~不詳、以後北条氏~1333年)

1280年2月10日-01:00|オランダ| ||<死去>エノ伯「マルグ リット1世」

1280年2月10日-01:00|オランダ| ||<就任>エノ伯「ジャン2世」(~13040822死去)

1280年4月 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 判事代行「ウォーターフォード 司教スティーブン・デ・フルバートン」(~1281年5月)

1280年4月14日-09:00|日本|奈良県桜井市|弘安3年3月14日|大和国長谷寺が焼失

1280年5月5日-01:00|フランス| ||<死去>シャルトル伯・ブロー伯「John1世」

1280年5月5日-01:00|フランス| ||<就任>シャルトル伯・ブロー伯「Joan」(~12910119死去)

1280年5月9日-01:00|ノルウェー| ||<死去>ノルウェー王「マグヌス6世ハーコンソン・ラガロッド」

1280年5月9日-01:00|ノルウェー| ||<就任>ノルウェー摂政「インゲビョルク・エリクストッター」(~1283年)

1280年5月9日-01:00|ノルウェー| ||<即位>ノルウェー王「エリク2世マグヌッソン司祭嫌い王」(~12990713没)

1280年6月2日-01:00|フランス| ||<死去>ヌヴェール伯「Yolande2世」

1280年6月2日-01:00|フランス| ||<就任>ヌヴェール伯「Louis1世」(~13220722死去)

1280年6月2日-01:00|フランス| ||<退位>ヌヴェール伯「Robert3世」

1280年7月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「フィラ・フィラ・ダウイト・ネペリ・アバ」(~1281年4月)

1280年7月22日-09:00|日本|奈良県奈良市|弘安3年6月24日|延暦寺僧徒らが園城寺を攻めて守護兵と戦い、北院に放火

1280年8月22日-01:00|バチカン| ||<死去>第188代ローマ教皇「ニコラウス3世」

1280年8月24日-08:00|マレーシア| ||<死去>ケダ・スルタン国スルタン「ムジール・シャー」

1280年8月24日-08:00|マレーシア| ||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「マフムード・シャー1世」(~13210522死去)

1280年10月19日-09:00|日本|福岡県福岡市東区|弘安3年9月24日|筑前国筑崎宮焼失

1280年12月7日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安3年11月14日|鎌倉で火災/鶴岡八幡宮が炎上

1280年12月19日-08:00|中国| ||元・至元17年11月26日|元の天文学者で数学者の郭守敬がフバイ・ハンの命令により編纂していた新しい天文暦表「授時暦」を完成させる

1281年-07:00|ベトナム| ||<即位>バントランガ王「Po Dobatasuar (Ba Diep)」(~1306年)

1281年-07:00|タイ| ||タイのマンライ王がハリブンジャを攻撃し占領

1281年-04:00|ロシア| ||<就任>ノヴゴロド 共和国「ゴゴロド 公「アントン・アレクサンドロヴィチ」」(~1285年)

1281年-03:00|ベラルーシ| ||<即位>ムスカウリ公「ロマン・グレボヴィチ」(~1301年以降)

1281年-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ロランド・ボルサ」(1回目~1283年)

1281年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| ||<就任>リガニア騎士団団長「マンコルト・フォン・シュテルベルク」摂政(~1282年)

1281年-01:00|クロアチア| ||<就任>スラヴォニア全土のバン「ペーター・テニー」(~1283年)

1281年-01:00|スペイン| ||<即位>メルカ・タイファ「Abu ' Umar」(~1287年)

1281年 00:00|イギリス| ||ロンドンでケル出身の商人が合同ハンザを結成

1281年1月5日-09:00|日本| ||弘安3年12月13日|<死去>岩倉宮忠成王(59歳)順徳天皇の皇子

1281年1月22日-09:00|日本| ||弘安4年|<任命>長門守護「北条師時」(~不詳)

1281年2月22日-01:00|バチカン| ||<就任>第189代ローマ教皇「マルティヌス4世」(~12850328死去)

1281年4月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「イワン・コシキ・フィア・ヘンリク・ネペリ・ヘーダー」(1回目~1282年8月)

1281年4月11日-09:00|日本|和歌山県伊都郡高野町|弘安4年3月21日|幕府勸学院を高野山に創立

1281年5月14日-01:00|ポーランド| ||<死去>ホーレ公「ウラディスワフ・ホーロスキ」

1281年5月14日-01:00|ポーランド| ||<就任>ホーレ公「ホルコ1世」(~13130514死去)

1281年6月9日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県対馬市|弘安4年5月21日|<弘安の役(元寇)>(北九州)対馬侵攻>元の東路軍は対馬の世界村大明浦に上陸、日本側の激しい抵抗を受け、郎将/康彦、康師子等が戦死

1281年6月14日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県壱岐市|弘安4年5月26日|<弘安の役(元寇)>(北九州)壱岐侵攻>元の東路軍は壱岐に襲来/壱岐の忽魯勿塔に向かう途中暴風雨に遭遇し兵士113人・水夫36人の行方不明者を出す

1281年6月14日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県壱岐市|弘安4年5月26日|<弘安の役(元寇)>(北九州)壱岐侵攻>瀬戸浦の海戦で、守護代少貳資時が戦死

1281年6月23日-09:00|日本/中国/モンゴル|福岡県福岡市東区|弘安4年6月6日|<弘安の役(元寇)>志賀島の戦い(筑前国)>博多湾沿岸からの上陸を断念した東路軍は陸繋島である志賀島に上陸し占領/夜半日本軍の一部の武士たちが東路軍の軍船に夜襲を行い張成らは軍船から応戦、夜が明けると日本軍は引き揚げていった

1281年6月25日-09:00|日本/中国/モンゴル|福岡県福岡市東区|弘安4年6月8日|<弘安の役(元寇)>志賀島の戦い(筑前国)>午前10時頃、日本軍は軍勢を二手に分け海路と海の中道伝いの陸路の両面から志賀島の東路軍に対して総攻撃を敢行/海の中道を通して陸路から東路軍に攻めいった日本軍に対して張成らは弩兵を率いて軍船から降りて応戦、志賀島の東路軍は日本軍に300人ほどの損害を与えたが日本軍の攻勢に抗しきれず潰走/東路軍の司令官で東征都元帥の洪茶丘は馬を捨てて敗走していたが日本軍の追撃を受け危うく討ち死にする寸前まで追

い込まれた/管軍万戸の王某の軍勢が洪茶丘を追撃していた日本軍の側面に攻撃を仕掛け日本兵を50人ほど打ち取ったため追撃していた日本軍は退き洪茶丘は僅かに逃れることができた/海路から東路軍を攻撃した伊予の御家人・河野通有は元兵の石弓によって負傷しながらも太刀を持って元軍船に斬り込み元軍將校を生け捕るという手柄を立てた/海上からの攻撃には肥後の御家人・竹崎季長や肥前御家人の福田兼重・福田兼光父子らも参加し活躍

1281年6月26日-09:00|日本/中国/モンゴル|福岡県福岡市東区|弘安4年6月9日|<弘安の役(元寇)志賀島の戦い(筑前国)>東路軍の張成らは防御に徹して陣を固め、攻め寄せる日本軍に対抗するなどして奮戦/しかしこの日の戦闘も日本軍が勝利し東路軍は敗戦を重ねた/大敗した東路軍は志賀島を放棄して壱岐島へと後退

1281年7月3日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィアとシリア王シャルが、コンスタンチノールにラン帝国の復活を図ってオウイット同盟を締結

1281年7月12日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県平戸市|弘安4年6月25日|元の江南軍は、平戸に到着し占拠

1281年7月16日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県壱岐市|弘安4年6月29日|<弘安の役(元寇)壱岐島の戦い(壱岐国)>日本軍は壱岐島の東路軍に対して松浦党・彼杵・高木・龍造寺氏などの数万の軍勢で総攻撃を開始/薩摩の御家人・島津長久や比志島時範、松浦党の肥前の御家人・山代栄や船原三郎らが奮戦し活躍

1281年7月18日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県壱岐市|弘安4年7月2日|<弘安の役(元寇)壱岐島の戦い(壱岐国)>肥前の御家人・龍造寺家清ら日本軍は壱岐島の瀬戸浦から上陸開始/瀬戸浦において東路軍と激戦/龍造寺家清率いる龍造寺氏は、一門の龍造寺季時が戦死するなど損害を被りながらも瀬戸浦の戦いにおいて奮戦/結果、東路軍は日本軍の攻勢による苦戦と江南軍が平戸島に到着した知らせに接したことにより壱岐島を放棄して江南軍と合流するため平戸島に向けて移動/日本軍はこの壱岐島の戦いで東路軍を壱岐島から駆逐したものの前の鎮西奉行・少貳資能が負傷し(この時の傷がもとで後に死去)、少貳経資の息子・少貳資時が壱岐島前の海上において戦死するなどの損害

1281年8月12日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県松浦市|弘安4年7月27日|<弘安の役(元寇)鷹島沖海戦(肥前国)>鷹島沖に停泊した元軍艦船隊に対して集結した日本軍の軍船が攻撃を仕掛けて海戦となった/戦闘は日中から夜明けに掛けて長時間続き夜明けとともに日本軍は引き揚げていった

1281年8月15日-09:00|日本/中国/モンゴル|福岡県福岡市|弘安4年7月30日|元軍は博多への侵進を目指したが、夜半よりこの地区を襲った台風は猛烈をきわめ風のため江南軍船の大半は大破沈没し去り、東路軍船も大損害を受けた/14万の大軍の4分の3、10万人以上が戦死

1281年8月20日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県松浦市|弘安4年閏7月5日|<弘安の役(元寇)御厨海上合戦(肥前国)>日本軍は伊万里湾海上の元軍に対して総攻撃を開始/午後6時頃、御厨海上において肥後の御家人・竹崎季長らが元軍の軍船に攻撃を仕掛け、筑後の地頭・香西度景らは元軍の軍船3艘の内の大船1艘を追い掛け乗り移って元兵の首を挙げ、香西度景の舎弟・香西広度は元兵との格闘の末に元兵と共に海中に没した/肥前の御家人で黒尾社大宮司・藤原資門も御厨の千崎において元軍の軍船に乗り移って負傷しながらも元兵一人を生け捕り元兵一人の首を取るなどして奮戦/日本軍はこの御厨海上合戦で元軍の軍船を伊万里湾からほぼ一掃

1281年8月22日-09:00|日本/中国/モンゴル|長崎県松浦市|弘安4年閏7月7日|<弘安の役(元寇)鷹島掃蕩戦(肥前国)>日本軍は鷹島への総攻撃を開始/豊後の御家人・都甲惟親・都甲惟遠父子らの手勢は鷹島の東浜から上陸し東浜で元軍と戦闘状態に入り奮戦/上陸した日本軍と元軍とで鷹島の船原中川原でも戦闘があり肥前の御家人で黒尾社大宮司・藤原資門は戦傷を受けながらも元兵を2人生け捕るなどした/鷹島陸上の戦闘では西牟田永家や薩摩の御家人・島津長久、比志島時範らも奮戦し活躍/海上でも残存する元軍の軍船と日本軍とで戦闘があり肥前の御家人・福田兼重らが元軍の軍船を焼き払った/10余万の元軍は壊滅し日本軍は20,000~30,000人の元の兵士を捕虜とした

1281年8月27日-01:00|ポーランド| |||<就任>ラファツェ公「チェシンのミェシヨ」(~1290年)、「Przemysław」(~13060507死去)

1281年8月30日-09:00|日本| ||弘安4年閏7月15日|<死去>道円法親王(58歳)土御門天皇の皇子

1281年9月10日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク=シュテンダル辺境伯「ヨハ2世」

1281年9月23日-09:00|日本| ||弘安4年8月9日|<死去>筑後国守護「北条宗政」

1281年9月30日-09:00|日本|愛知県稲沢市|弘安4年8月16日|尾張国性海寺の本堂須弥檀・尊勝塔が造られる

1281年12月-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「ユストロム公アントレイ・アレクサンドロヴィチ」(1回目~1283年12月)

1281年12月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ウォーターフォード司教スティーブン・デ・フルバーン」(⇒12860915、チュラム大司教~12880707)

1281年12月24日-01:00|ルクセンブルク/フランス| |||<死去>ルクセンブルク伯「ハインリヒ5世」兼リネ領主「アンリ1世」

1281年12月24日-01:00|フランス| |||<就任>リネ領主「Waleran1世」(~12880605死去)

1281年12月24日-01:00|ルクセンブルク| |||<就任>ルクセンブルク伯「ハインリヒ6世」ハインリヒ5世の息子(~12880605死去)

1282年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>チャガタイ・ウルス・ハン「ブカテムル」

1282年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>チャガタイ・ウルス・ハン「トウア」バラクの子(~1307年死去)

1282年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Farukhzad2世」

1282年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Akhsitan3世」(~1294年死去)

1282年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「マリノ・グラーデニゴ」(2度目~1283年)

1282年-02:00|ギリシャ| |||<就任>ドデカニソ領主「アントレア・モリスコ」(~1308年没)、「ロトウイコ・モリスコ」

1282年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リグア騎士団団長「ゲイルケン・フォン・エンドルフ」(1283年まで摂政~12870326死去)

1282年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||クレタ島でアレクシオス・カレギスの反ヴェネツィア蜂起(~12990428)

1282年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||ビザンチン帝国(東ローマ)がビティニア統治(~1291年)

1282年-01:00|アルバニア/イタリア| |||<就任>アルバニア王国シリアの長官・副将軍「ギレルモ・ベリナルディ」(2度目~1286年)

1300迄 (2243件)

1282年-01:00|フランス| |||<就任>モンベリアル伯「ルノー・ド・ブルゴーニュ」ブルゴーニュ伯ユーグ・ド・シャロンの子、ティエリ3世の曾孫ギユメット・ド・ヌーシャテルの夫 (~1321年死去)

1282年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「フランサースのヨハネ」 (~12911014死去)

1282年-01:00|セルビア| |||<即位>第7代セルビア王「ステファン・ウロシュ2世ミレティン」ステファン・ウロシュ1世の末子、ステファン・ドラグティンの弟 (~13211029死去)

1282年-01:00|北マケドニア/セルビア/コソボ| |||マケドニア、コソボ (~14590620) はセルビアの一部

1282年 00:00|マン島| |||<死去>マン島執行吏「Maurice Okerfair」

1282年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領アーンズー島副守護者「Renaut d' Ashwell」 (~1288年)

1282年1月5日-09:00|日本|山梨県南巨摩郡身延町|弘安4年11月24日|日蓮によって身延山久遠寺創建 (山梨県身延町)<日蓮宗総本山>

1282年2月10日-09:00|日本| ||弘安5年|<任命>長門守護「北条忠時」 (~不詳)

1282年3月-02:00|リトアニア| |||春<死去>リトアニア大公「トライデニス」殺害される

1282年3月-02:00|リトアニア| |||春<即位>リトアニア大公「ダウマンタス」 (~1285年殺害される)

1282年3月12日 00:00|イギリス| |||第2次ウェールズ戦争/イングランド・北ウェールズでルウェリンの反乱が起こる

1282年3月30日-01:00|イタリア| |||シチリアの晩鐘/シチリア島民がフランス・アンジュー家の圧政に反して蜂起シチリア王シャルルはシチリア島を脱出/シチリア王国は半島側のノルマニ王国とに分裂/ナポリ (本土側) はカロ・ダンゾーに残される

1282年4月1日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝第2代国王「アバカ」

1282年6月21日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝第3代国王「アフマト・テケル」アバカの弟 (~12840810死去)

1282年8月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・コセギ・フィア・ベリク・ハダール」 (1回目 ~1286年10月)

1282年8月27日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド王「ボレスワフ・スベワク」

1282年8月27日-01:00|ポーランド| |||<就任>ポーランド王「ボレスワフ1世」 (~13130514死去)、
「カジミェシュ」 (~1284年)

1282年9月4日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「ヒエロニムス1世」アラゴン王ペドロ3世、パレンシア王、パルメーザ伯 (~12851111死去)
マンフレディの娘コスタンツァ・ディ・オーエンスタウンと結婚

1282年11月2日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元19年:大越・紹宝4年10月|元軍がチャンパに侵攻

1282年11月14日-09:00|日本| ||弘安5年10月13日|<死去>日蓮宗の祖「日蓮」池上郷で/61歳 (誕生:承久4 (1222) 0216) 墓所は身延山に

1282年12月11日-02:00|トルコ| |||<死去>コニア帝国皇帝「ミハイル8世パレオロゴス」

1282年12月11日-02:00|トルコ| |||<即位>コニア帝国皇帝「アンドロニコス2世パレオロゴス」ミハイル8世パレオロゴスの長男 (~13280524退位 ~13320213死去)

1282年12月11日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェールズ大公・グウィネッド公「ルウェリン」敗死 (北ウェールズで反乱を起こした)

1282年12月11日 00:00|イギリス| |||<即位>ウェールズ大公・グウィネッド公「デヴィッド・オブ・グリフィス」 (~12830622処刑されウェールズ大公家は滅亡)

1282年12月11日 00:00|イギリス| |||グウィネッド、ホイスはイングランドに併合/デハバースはイギリスによってグウィネッドと併合

1282年12月27日-01:00|オーストリア| |||<譲位>オーストリア公・シュターアマルク公「ルドルフ1世」 (~12910715死去73歳)

1282年12月27日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公・シュターアマルク公「アルブレヒト1世」 (~13080501死去52歳) ローマ王、「ルドルフ2世」 (~12830601退位)

1282年12月27日-09:00|日本|京都府京都市|弘安5年11月26日|京都火災、常盤井殿焼失

1282年12月29日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<死去>シュレースヴィヒ公「マルカレーター」

1282年12月29日-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<即位>シュレースヴィヒ公「ヴァルデマー4世」 (~13120326死去)

1283年-07:00|タイ| |||このころタイに仏教伝来

1283年-07:00|タイ| |||タイ文字が確立される

1283年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラン国王「シタビーン」僭主⇒「ミンティ」 (~1389年)

1283年-04:00|ロシア| |||<即位>初代モスクワ大公「ダニール・アレクサンドロヴィチ」 (~13030304死去)

1283年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ヤコポ・ダント・ロ」 (~1285年)

1283年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「アポル・ペーク」 (~1284年1月)

1283年-02:00|エジプト/スリランカ| |||セイロン王がマムルーク朝に遣使

1283年-01:00|フランス| |||<死去>ピゴール伯「Esquivat」

1283年-01:00|デンマーク/ドイツ| |||<就任>シュレースヴィヒ公「ヴァルデマー4世」 (~1312年死去)

1283年-01:00|フランス| |||<就任>ピゴール伯「Laura」 (~1302年)

1283年-01:00|フランス| |||<就任>モンベリアル伯「ギユメット・ド・ヌーシャテル」 (~1317年死去)、
「ルノー・ド・ブルゴーニュ」ブルゴーニュ伯ユーグ・ド・シャロンの息子、ティエリ3世の曾孫ギユメット・ド・ヌーシャテルの夫 (~1322年死去)

1283年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝アミール「アブド・アル・アジーズ1世」 (~同年) ⇒「アフマト・イブン・マルズーク」 (~1284年)

1283年-01:00|チェコ| |||<即位>ボヘミア王・モラヴィア辺境伯「ウァツラフ2世」オカル2世の息子 (⇒1300年兼ポーランド王 ~13050621死去)

1283年-01:00|ドイツ| |||ドイツ騎士団のヘルマンがプロイセン全土を征服

1283年1月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安5年12月8日|北条時宗、無学祖元を開山として円覚寺創建<臨済宗円覚寺派大本山>

1283年1月19日-09:00|日本| ||弘安5年12月19日|興福寺僧徒の訴えによりて権中納言久我具房・按察使源資平を配流

1283年1月30日-09:00|日本| ||弘安6年|<任命>大隅国守護「千葉宗胤」 (~正応4 (1291) 年)

1283年1月30日-09:00|日本|熊本県熊本市|弘安6年|僧寒巖義尹肥後国に大慈寺を建立

1300迄 (2243件)

1283年1月30日-08:00|中国/モンゴル/ミャンマー| ||元・至元20年|元朝がビルマを征服
1283年1月30日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元20年:大越・紹宝5年1月|元軍がチャンパの首都ヴァンヤを征服、チャンパ王国(占城国)国王インドラヴァルマン6世は元に投降
1283年2月-01:00|アルジェリア| |||<死去>サイヤーン朝スルターン「アブー・ヤフヤー(ヤクムラサン・イブン・ザイヤーン)」
1283年2月-01:00|アルジェリア| |||<即位>サイヤーン朝スルターン「アブー・サイード・ウスマーン1世」(~1304.6死去)
1283年2月4日-09:00|日本|京都府京都市|弘安6年1月6日|延暦寺が四天王寺別当職の人事につき、神輿を奉じて禁中に乱入し、四脚門破壊など乱暴狼藉
1283年5月6日-09:00|日本| ||弘安6年4月8日|<死去>阿仏尼(62歳)歌人、藤原為家の側室
1283年6月 00:00|イギリス| |||イングランド王国がウェールズ公国を併合
1283年6月1日-01:00|オーストリア| |||<退位>オーストリア公「ルドルフ2世」
1283年6月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェールズ大公・グウィネト公「デヴィッド・アプ・グリフィス」処刑されウェールズ大公・グウィネト公「デヴィッド・アプ・グリフィス」(~12830622処刑されウェールズ大公家は滅亡。ウェールズ大公家は滅亡ウェールズの反乱が終結
1283年8月24日-09:00|日本| ||弘安6年8月|僧無住、「沙石集」を著わす
1283年9月26日-09:00|日本| ||弘安6年9月4日|<死去>邦子内親王(安嘉門院)(75歳)皇族、女院
1283年11月4日-09:00|日本|広島県廿日市市|弘安6年10月14日|佐伯親盛厳島神社で白檀の等身大日如来像を供養し、弥山に安置
1283年12月-04:00|ロシア| |||<再位>ウラジミール・スズダリ大公「ヘレスワフ・ザ・レスキー公トミリー・アレクサントフ・イチ」(2回目~1294年死去)
1283年12月15日-02:00|トルコ| |||<死去>テン帝国皇帝「フィリップ1世」
1283年12月15日-02:00|トルコ| |||<即位>テン帝国皇帝「カトリヌ1世」フィリップ1世の娘(~13071011死去)
1284年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Komala 'Abu Said」(~1298年)、「Siale」(~1298年)
1284年-05:30|インド| |||<建国>ファルタン国
1284年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Kulasekara Cinkaiariyan」
1284年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャナ王国国王「Kulotunga Cinkaiariyan」(~1292年)
1284年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>アイユーブ朝ハマー・アミール「アル=マンズール・ムハンマド2世」
1284年-02:00|トルコ| |||<死去>ルム・セルジューク朝スルターン「カイホスロ3世」
1284年-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>フィンランド公「リシエ・ビンガ」司教ベント1世フォルクンガ「スウェーデン王ビルギエル・ヤールの子/スウェーデン王領地を付与(~12910525没)」
1284年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アイユーブ朝ハマー・アミール「アル=マンズール・マフムド」(~1300年死去)
1284年-02:00|トルコ| |||<即位>トレビズント帝国第8代皇帝「テオドラ」(~1285年)
1284年-02:00|トルコ| |||<即位>ラム・サルタン「Giyath al-Din Masud2世」(1期目~1296年)
1284年-02:00|トルコ| |||<即位>ルム・セルジューク朝スルターン「マズード2世」(~1285年)
1284年-02:00|エジプト| |||カイロにマンズール病院が建設
1284年-01:00|フランス| |||<就任>ヴァロア伯「Charles1世」(~13251216死去)
1284年-01:00|イタリア| |||<就任>グラーナ伯「Riccardo Orsini」(~1291年)
1284年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「イヴァン・ヘデル・クシキ」(3度目~同年)
1284年-01:00|ポーランド| |||<就任>ピトム公「Kazimierz」(~13120310死去)
1284年-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<就任>ボンメルン公「バルニム2世」(~12950528死去)、「オットー1世」(⇒12950528ボンメルン=シュテティン公~13441231死去)ボギスラフ4世と共同統治
1284年-01:00|チュニジア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝第7代アミール「ウマル1世」(~1295年)
1284年-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア共和国貨幣「ドゥカート」を発行
1284年 00:00|アイルランド| |||<死去>トモント王(請求者)「ドンチャド・マック・ブライアン・ルアド・オーブリアン」
1284年 00:00|イギリス| |||<就任>2代サラーント伯「ウィリアム・ド・モウア(ウィリアム・サラーント)」(~1307年)
1284年1月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ロランド・ホルサ」(2回目~1285年6月)
1284年1月20日-09:00|日本| ||弘安7年|<任命>出雲国守護「塩冶頼泰」(~1288年)
1284年1月20日-09:00|日本| ||弘安7年|<任命>摂津国守護「北条兼時」(~1293年)
1284年1月20日-09:00|日本| ||弘安7年|<任命>長門守護「北条[金沢]実政」(~1296年)
1284年1月20日-04:00|ロシア/中国/モンゴル| |||元軍が樺太のアイを再び征討
1284年3月19日 00:00|イギリス| |||イングランド王エドワード1世が、ウェールズ地方を征服・併合し、この地方の統治の法令の「リスラン法令」を発布
1284年3月24日-02:00|キプロス/パレスチナ| |||<死去>エルサレム王・キプロス王国国王「ユーク3世」49歳
1284年3月24日-02:00|キプロス/パレスチナ| |||<即位>キプロス王国国王「ジャン1世」兼エルサレム国王「ジャン2世」ユークとイザベラ・デ・イブランの息子(~12850520死去)
1284年4月4日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティーリャ国王「アルフォンソ10世賢王」62歳(誕生12211123)詩人、音楽家
1284年4月4日-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王・カスティーリャ国王「サンチョ4世勇敢王」(~12950425死去)王位継承をめぐる内乱が始まる
1284年4月9日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ウィリアム・フィッツロジャ」(~12850729)
1284年4月15日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元21年3月27日|チャンパ王国(占城国)国王ジャ・シンハヴァルマン3世が元軍を撤兵に追い込む
1284年4月20日-09:00|日本| ||弘安7年4月4日|<死去>「北条時宗」(鎌倉幕府8代執権)[12510515生](享年32)

1300迄 (2243件)

1284年6月15日-09:00|日本| ||弘安7年5月19日|鎌倉幕府が「新御式目」38か条を制定
1284年6月26日-01:00|ドイツ| ||ドイツのハメルンで、子供130人が謎の行方不明になる/「ハメルンの笛吹き男」伝説のもとになる
1284年8月2日-09:00|日本| ||弘安7年6月20日|<解任>六波羅探題南方「北条時国(佐介流)」罷免
1284年8月4日-09:00|日本|茨城県|弘安7年6月22日|幕府が、六波羅探題の北条時国を召還し、常陸へ配流
1284年8月6日-01:00|イタリア| ||メロリア沖の海戦で、ピサがジェノヴァ海軍に大敗
1284年8月10日-03:30|イラン| ||<死去>イル汗朝第3代国王「アフマド・テケル」
1284年8月11日-03:30|イラン| ||<即位>イル汗朝第4代君主「アルゲン」アハカの子(〜12910310死去)
1284年8月16日-01:00|スペイン| ||<即位>ナバラ王「フェリペ1世」フィリップ3世とイザベル・ダラコンの男子(〜13050404退位〜13141129死去46歳)
1284年8月19日-09:00|日本| ||弘安7年7月7日|<就任>9代鎌倉幕府執権:北條貞時-正安3.8.22
1284年8月30日-09:00|日本| ||弘安7年7月18日|<死去>一条実経(62歳/摂政・関白・左大臣)
1284年9月11日-09:00|日本|新潟県佐渡市|弘安7年8月|幕府北条時光を佐渡に流す
1284年9月15日-03:30|イラン| ||<就任>イル汗朝宰相「Buqa」(〜1289.1)
1284年9月17日-09:00|日本|奈良県奈良市|弘安7年8月7日|西大寺観尊多宝塔を造立
1284年11月11日-09:00|日本| ||弘安7年10月3日|<死去>丹波国守護「北条時国」
1284年11月11日-09:00|日本| ||弘安7年10月3日|<死去>北条時国.悪行があったとして常陸に配流され誅殺された(22歳/六波羅探題)
1285年-07:00|ベトナム| ||<即位>チャンパ王「Jaya Simhavarman3世(Che Man)」(〜1307年)
1285年-05:30|インド| ||<即位>チャンドラ朝国王「Bhoja-Varman」(〜1288年)
1285年-04:00|ロシア| ||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「トミリー・アレクサンドロウイチ」(〜1292年)
1285年-02:00|リトアニア| ||<死去>リトアニア大公「ダウマンタス」殺害される
1285年-02:00|ギリシャ/イタリア| ||<就任>ヴェネツィアのカンティエラ公「ピエトロ・ジュステニアニ」(〜1287年)
1285年-02:00|エストニア/デンマーク| ||<就任>デンマーク・エストニア総督「レグスト」(〜同年)
1285年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アカイア公「シャルル2世・ダングジュ(ホーリ王カルロ2世)」(〜1289年)
1285年-02:00|リトアニア| ||<即位>リトアニア大公「フティグ・イェイス」(〜1291年死去)
1285年-02:00|トルコ| ||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイカバード3世」(〜1285年)⇒「マサウド2世」(2回目〜1292年)
1285年-02:00|トルコ| ||<復位>トレビゾント帝国第7代皇帝「ヨハネス2世」(〜12970816死去)
1285年-01:00|イタリア| ||<死去>ウルビーノ伯・モンテフェルトロ伯「グイード・ダ・モンテフェルトロ(老伯)」
1285年-01:00|ドイツ| ||<死去>オルデンブルク伯「クリスチャン3世」
1285年-01:00|フランス| ||<死去>ルル伯「ユーク4世」
1285年-01:00|ドイツ| ||<就任>ヴァイマル=オーラミュンデ伯「オットー4世」(〜1305年)、「ヘルマン4世」(〜1319年)
1285年-01:00|フランス| ||<就任>ルル伯「ジヤヌ」(〜1328年死去)、「ルイ1世」(〜13220722死去)スガール伯、女伯ジヤヌと結婚
1285年-01:00|イタリア/バチカン| ||ウルビーノ伯領が教皇領となる(〜1304年)
1285年-01:00|スペイン| ||マリーン朝がイベリア半島に遠征
1285年 00:00|イギリス| ||<就任>スコットランド大法官「ロンドン助祭トマス・チャトリス」(〜1291年)
1285年 00:00|マリ| ||<即位>マリ帝国マンサ「Sakura」(〜1300年死去)
1285年1月7日-01:00|フランス/アルバニア/イタリア| ||<死去>アルバニア国王・エルサレム国王・アンジュー伯・メヌ伯・プロヴァンス伯・フォルカルキエ伯「シャルル1世」兼シリア王・ホーリ王「カルロ1世」/58歳
1285年1月7日-01:00|フランス| ||<就任>アンジュー伯(共同統治)「マルグリット1世」シャルル2世とマリア・ド・アンゲリアの娘(〜12991231死去26歳)
1285年1月7日-01:00|フランス/イタリア/アルバニア| ||<即位>アルバニア国王「シャルル2世」(〜1301年)兼サルノ公・アカイア公・アンジュー伯・メヌ伯(〜1290年)兼ホーリ王「カルロ2世」・プロヴァンス伯「シャルル2世」(〜13090505死去)/シャルル1世とベアトリス・ド・プロヴァンスの息子
1285年1月8日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安7年12月|日昭,妙法華寺を鎌倉に創す
1285年1月9日-09:00|日本| ||弘安7年12月2日|<任命>六波羅探題南方「北条兼時(得宗家)」(〜弘安10(1287)年8月14日、北方へ)
1285年2月6日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安8年|この年、円覚寺舍利殿できる
1285年2月6日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安8年|北条時宗の妻である覚山志道尼が東慶寺創建<臨済宗円覚寺派>
1285年3月26日-09:00|日本|愛媛県松山市|弘安8年2月19日|太山寺本堂が焼失
1285年3月28日-01:00|バチカン| ||<死去>第189代ローマ教皇「マルティヌス4世」
1285年4月2日-01:00|バチカン| ||<就任>第190代ローマ教皇「ホノリウス4世」(〜12870403死去)
1285年4月24日-09:00|日本|京都府京都市西京区|弘安8年3月18日|松尾社焼失
1285年5月20日-02:00|キプロス/パレスチナ| ||<死去>キプロス王国国王「ジヤン1世」兼エルサレム国王「ジヤン2世」
1285年5月20日-02:00|パレスチナ/キプロス| ||<即位>エルサレム王・キプロス王国国王「アンリ2世」ユークとイザベラ・デ・イランの息子(〜13240831死去53歳)
1285年5月28日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<死去>ポズナニ公「バルニム2世」
1285年5月28日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<領土分割>ポズナニ公「オットー1世」⇒ポズナニ=シュテチン公(〜13441231死去)
1285年5月28日-01:00|ポーランド/ドイツ| ||<領土分割>ポズナニ公「ボグスラフ4世」⇒ポズナニ=ヴオルガスト公(〜13090219死去)

1300迄 (2243件)

1285年6月19日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「イクノ・アムラク」
1285年6月19日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝) 皇帝「ソモン1世」イクノ・アムラクの息子(〜1294年死去)
1285年8月16日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「フィリップ1世」
1285年8月16日-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「アメーネ5世」(〜13231016死去)
1285年8月22日-09:00|日本|滋賀県大津市|弘安8年7月21日|延暦寺講堂を供養
1285年9月-02:00|イスラエル/パレスチナ| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ジャン・ド・グーイレル」(〜12931020没)
1285年9月23日-09:00|日本| ||弘安8年8月23日|<死去>覚子内親王(正親町院)(73歳)土御門天皇の皇女
1285年9月30日-07:00|ベトナム| ||大越・重興1年9月|大越・重興と改元(〜1293年旧3月9日)
1285年10月5日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王(カペー朝)「フィリップ3世豪胆王」40歳(誕生:12450403)
1285年10月5日-01:00|フランス| |||<即位>フランス王(カペー朝)「フィリップ4世端麗王」フィリップ3世の息子(〜13141129死去)
1285年11月11日-01:00|スペイン/イタリア| |||<死去>アラゴン国王・パレンシア王「ペドロ3世大王」兼シチリア王「ピエトロ1世」兼バルセロナ伯「ペラ2世」45歳(誕生1239年)
1285年11月11日-01:00|スペイン| |||<即位>アラゴン国王「アルフォンソ3世自由王」兼バルセロナ伯「アルフォンソ2世」ペドロ3世とコンスタンティナ・シチリアの息子(〜12910618死去27歳)
1285年11月11日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「ジャコモ1世」(〜1296年退位)
1285年11月11日-09:00|日本|宮城県仙台市|弘安8年10月13日|陸前三ノ迫柏木法華堂[大養坊-上行寺]を森に移す
1285年12月14日-09:00|日本| ||弘安8年11月17日|<任命>上野国守護「北条氏(得宗分国)」(〜1333年)
1285年12月14日-09:00|日本| ||弘安8年11月17日|<任命>肥後国守護「北条氏」(〜正応5(1292)年)
1285年12月14日-09:00|日本| ||弘安8年11月17日|<任命>美濃国守護「北条氏」(〜不詳)
1285年12月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安8年11月17日|<霜月騒動>有力御家人安達泰盛や越前守護の足利(吉良)満氏らが、平頼綱に殺される
1286年-08:00|インドネシア| |||カラタガウ王、マユ王国(スマタラ島南部のジャンビにあった王国)を征服
1286年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「コンスタンチン・ボリスヴィチ」(〜1288年)
1286年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク＝グッティンゲン侯「アルブレヒト2世」ブラウンシュヴァイク公アルブレヒト1世の息子(〜13180922死去)
1286年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<退任>ブランデンブルク＝ザルツァーフェデル辺境伯「オットー6世」
1286年-01:00|アルバニア/トルコ| |||アルバニアをビザンチン帝国が占領(1288年からドラツツァ占領〜1296年)
1286年-01:00|フランス| |||パリ大学で最古の図書目録が作成
1286年1月10日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「ヨハネス2世フォン・ウエテン」(〜1294年死去)
1286年1月13日-09:00|日本|京都府京都市南区|弘安8年12月17日|<再建>東寺五重塔
1286年1月26日-09:00|日本| ||弘安9年|<任命>筑後国守護「少貳盛経」(〜正応元(1288)年)
1286年2月1日-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公・カルニオラ辺境伯「マインハルト」(〜12951101死去)
1286年2月18日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元23年1月24日|元軍が大挙して南伐する(安南をうつ)
1286年3月1日-09:00|日本| ||弘安9年2月5日|幕府が、御家人が所領内に悪人を匿うことを禁止
1286年3月2日-09:00|日本| ||弘安9年2月6日|<死去>三条有子(安喜門院)(80歳)後堀河天皇の皇后
1286年3月19日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「アレクサンダー3世栄光王」落馬事故死(誕生1241年)
1286年3月19日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「マーガレット(ノルウェーの乙女)」ノルウェー王エイリク2世とマーガレットの娘、アレクサンダー3世の孫娘(〜12900926死去7歳)
1286年3月20日 00:00|モロッコ| |||<死去>マリン朝スルタン「アブー・ユースフ・ヤクブ」
1286年3月20日 00:00|モロッコ| |||<即位>マリン朝スルタン「アブー・ヤクブ・ユースフ」(〜13070513死去)
1286年3月24日-09:00|日本| ||弘安9年2月28日|僧叡尊、「感身学生記」を著す
1286年3月28日-09:00|日本| ||弘安9年3月2日|幕府が守護人の守るべき条例を追加
1286年4月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ウコリーノ・バラコン」
1286年4月11日-09:00|日本|山梨県甲州市|弘安9年3月16日|大善寺本堂できる
1286年4月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>トリア選帝侯「ハインリヒ2世」
1286年4月26日-01:00|ドイツ| |||<就任>トリア選帝侯「ボエムント1世」(〜12991209死去)
1286年7月23日-09:00|日本|福岡県福岡市|弘安9年7月|幕府が博多に鎮西談議所を設置
1286年8月9日-09:00|日本| ||弘安9年7月18日|幕府が将士の越訴を禁止し、大友、少貳、宇都宮、渋谷の4氏の合議裁決とする
1286年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「マクジヤン・フィア・ビュケン・ネベリ・アパ」(〜1287年7月)
1286年10月3日-09:00|日本| ||弘安9年9月14日|<死去>二条為氏(65歳)権大納言、歌人
1286年10月8日-01:00|フランス| |||<死去>ブルージュ公「ジャン1世赤毛公」
1286年10月8日-01:00|フランス| |||<即位>ブルージュ公「ジャン2世」ジャン1世とブランシュ・ド・サールルの長男(〜13051116死去66歳)
1286年11月22日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「エリク5世」
1286年11月22日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク摂政「ブランデンブルクのアグネス」(〜1293年)
1286年11月22日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「エリク6世」エリク5世とアグネス・フォン・ブランデンブルクの長男(〜13191113死去)
1287年-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝スルタン「ギヤースッディーン・バルバン」
1287年-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝第10代スルタン「ムイズッディーン・カイバート」バルバンの孫(〜12900201死去)
1287年-05:00|ガザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジョチ・ウルス・ハン「トクタ・ブカ(トレ・ブカ)」トクガンの子ダルガの子(〜1291年死去)

1300迄 (2243件)

1287年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<廃位>ジョチ・ウルス・ハン「トグ・モンケ」
1287年-02:00|ギリシャ| |||<死去>アテネ公「キョーム1世」
1287年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アントニア・ダ・モリン」(~1290年)
1287年-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「モイス」(~1288年)
1287年-02:00|ギリシャ| |||<即位>アテネ公「キョーム2世」キョーム1世の息子(~13081005死去)
1287年-02:00|エジプト/レバノン| |||エジプトのスルタン、マムルーク帝カーウンがトリポリを占領
1287年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||スタクはベネチア支配下(~13650712)
1287年-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト＝ベルンブルク侯「Bernhard1世」
1287年-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト＝ベルンブルク侯「John1世」(~12910605死去)、「Bernhard2世」(~1323. 12死去)
1287年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー| |||<就任>ボスニア・パン「プリエダ2世」(~1290年)、「ステファン1世」(~1314年)
1287年-01:00|オランダ/ベルギー| |||「ブレダ」はブラバント公国、ベルゲン・オブ・スームの領主とステン・ベルゲンの共有地に分割
1287年 00:00|セカール| |||<建国>ウーロ国
1287年1月15日-06:30|ミャンマー/中国/モンゴル| ||元・至元24年|<退位>パガン王朝君主「ナラティ・ハパテ」元に降伏し事実上滅亡(~12870701死去)
1287年1月15日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元24年1月|元軍が陸軍を大挙に派遣して安南討伐
1287年1月30日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ペーゲー王「ワレール」建国(~13070114没)
1287年2月14日-09:00|日本|茨城県行方市|弘安10年|この年、常陸西連寺相輪堂できる
1287年2月14日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安10年|この年、建長寺祖元禅師像できる
1287年2月14日-09:00|日本|鳥取県西伯郡大山町|弘安10年|この年、伯耆国六山寺阿弥陀堂できる
1287年3月-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「フリートリヒ・モルティク」(~同年)
1287年4月3日-01:00|パチカン| |||<死去>第190代ローマ教皇「ホノリウス4世」[1210年生~](享年77)
1287年4月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元24年3月|元、至元宝鈔を発行
1287年5月14日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元24年4月|元で東方の宗王ヤンがハイドゥに呼応して起兵
1287年5月31日-01:00|イタリア| |||ジェノヴァが、アッカ沖の海戦でヴェネツィア海軍を撃破
1287年6月8日 00:00|イギリス| |||第3次ウェールズ戦争が起こる
1287年6月22日-01:00|オランダ/ベルギー| |||「ベルゲン・オブ・スーム」の領主はブレダから分離され、名目上のブラバント公国君主下
1287年7月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラチン「イワン・コシエギ・フィア・ヘンリク・ネンペリ・ヘーダー」(2回目~1288年8月)
1287年7月12日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元24年6月|「ケライ」親征/ノヤンを誅す
1287年9月19日-09:00|日本| ||弘安10年8月11日|<就任>関白「二条師忠」(~正応2年4月13日)
1287年9月22日-09:00|日本| ||弘安10年8月14日|<退任>六波羅探題南方「北条兼時(得宗家)」=><任命>六波羅探題北方・山城国守護(~正応5(1293)年1月18日)
1287年11月19日-09:00|日本|宮城県栗原市|弘安10年10月13日|日目陸前一ノ迫柳ノ目に法華堂[妙教寺]を創す
1287年11月27日-09:00|日本| ||弘安10年10月21日|<譲位>91代「後宇多天皇」院政が始まる
1287年11月27日-09:00|日本| ||弘安10年10月21日|<踐祚>92代「伏見天皇」(弘安11年3月15日即位~12980722)
1287年12月6日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元24年;大越・重興3年11月|トゴン率いる元軍が国境を越えて諒山、北江に攻め入った
1287年12月24日-01:00|ポーランド| |||<即位>「ヤグィェイノウ」ロツワ公「レシク2世」,「フシェミス」,「カジミェシュ2世」ジエモシウの息子(~1314年)
1288年-05:30|インド| |||<即位>チャンドラ朝国王「Hammira-Varman」(~1311年)
1288年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティームケ朝スルタン「Yoosuf1世」(~1294年)
1288年-04:00|ロシア| |||<復位>ロスワ公「トミリー・ホリウイ」(~1294年死去)
1288年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Afrasiab1世」(~1296年)
1288年-03:00|サウジアラビア| |||<即位>メッカ・シャリフ「ジャンマス・ブン・シーハイス・アル＝デイン」メデインの首長(~同年)>「アブー・ヌアイム・ハンマド・ブン・アビー・サード・ナジム・アル＝デイン」(~13011006死去)
1288年-03:00|サウジアラビア| |||<廃位>メッカ・シャリフ「アブー・ヌアイム・ハンマド・ブン・アビー・サード・ナジム・アル＝デイン」
1288年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ヨハン・シアランツァール」(~同年)
1288年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リウ・オニア騎士団団長「コンラート・フォン・ハツツイクンシュタイン」(~1289年)
1288年-01:00|イタリア| |||<就任>モデナ侯「オビッツォ2世」フェラーラ侯・エステ辺境伯(=>1289年兼レッジョ侯~12930120死去)
1288年-01:00|ベルギー/オランダ| |||<就任>リンブルフ公「ジャン1世勝利公」ブラバント公(~12940503死去)
1288年-01:00|アルバニア/トルコ| |||「デュラツツ」をビザンチンが占領(~1296年)
1288年 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ガーンジー・島副守護者「Stephen Wallard卿」(1期目~1290年)
1288年1月28日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|弘安10年12月24日|円覚寺が火災で一部を焼失
1288年2月4日-09:00|日本|滋賀県愛知郡愛荘町|弘安11年1月|近江国金剛輪寺本堂できる
1288年2月15日-01:00|ドイツ| |||<死去>マイセン辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「ハインリヒ4世」
1288年2月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>マイセン辺境伯「アルブレヒト2世」ハインリヒ3世の長男(~1292年)
1288年2月15日-01:00|ドイツ| |||<就任>ランツベルク辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「フリートリヒ・トウタ」ハインリヒ4世の孫(~12910816死去)
1288年2月22日-01:00|パチカン| |||<就任>第191代ローマ教皇「ニコラウス4世」(~12920404死去)
1288年2月25日-09:00|日本| ||弘安11年1月22日|山王霊験記絵巻(沼津日枝神社)できる
1288年3月7日-09:00|日本| ||弘安11年2月4日|<任命>六波羅探題南方「北条盛房(佐介流)」(~永仁5(1297)年5月16日)

1300迄 (2243件)

1288年4月2日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元25年:大越・重興4年3月|陳(チャン)朝が白藤江の戦いで元軍を破り、元の攻撃を撃退
1288年5月2日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元25年4月|ハシ余党が、遼東でそむく
1288年5月27日-09:00|日本|京都府京都市|弘安11年4月26日|京都火災/行願寺・誓願寺など焼亡
1288年5月29日-09:00|日本| ||正応1年4月28日|弘安から正応に改元
1288年6月-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「ロランド・ホーリス」(3回目~1293年7月)
1288年6月-01:00|ドイツ| ||<就任>オランダでケルン市民が大司教軍を破り領主権力を排除
1288年6月5日-01:00|フランス| ||<死去>リニエ領主「Waleran1世」
1288年6月5日-01:00|ルクセンブルグ| ||<死去>ルクセンブルグ伯「ハインリヒ6世」
1288年6月5日-01:00|フランス| ||<就任>リニエ領主「アンリ2世」(~1303年死去)Waleran1世の息子
1288年6月5日-01:00|ルクセンブルグ| ||<就任>ルクセンブルグ伯「ハインリヒ7世」ハインリヒ6世の息子(~1310年6月)
1288年6月20日-09:00|日本| ||正応1年5月20日|<死去>上真葛(57歳)雅楽家
1288年7月7日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド判事代行「ダブリン大司教ジョン・デ・サント・フォート」(~12901110)
1288年7月7日-09:00|日本|東京都大田区|正応1年6月8日|僧日持・日浄木造日蓮像(池上本門寺)を造る
1288年7月7日-09:00|日本|東京都大田区|正応1年6月8日|池上本門寺創建<日蓮宗大本山>
1288年8月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「マティヤ・フィラウ・ド・ネペリ・アバ」(1回目~1289年8月)
1288年9月30日-01:00|ポーランド| ||<死去>ポーランド公「レシク2世チヌス」
1288年9月30日-01:00|ポーランド| ||<即位>ポーランド公「ヘンリク4世プロス」ヘンリク2世の孫息子/コンラト1世の女系の孫息子/グロツワ公を兼ねる(~12900623死去)
1288年11月19日-01:00|ドイツ| ||<死去>バーテン＝バーテン辺境伯「ルトルフ1世」
1288年11月19日-01:00|ドイツ| ||<就任>バーテン＝バーテン辺境伯「ヘッソ」(~12970213死去)、「ヘルマン7世」(~12910712死去)、「ルトルフ2世」(~12950214死去)、「ルトルフ3世」(~13320202死去)
1289年-04:00|アルメニア| ||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「レオ2世」
1289年-04:00|アルメニア| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」(1期目~1293年退位)
1289年-02:00|トルコ| ||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「レウオン3世」
1289年-02:00|ギリシャ| ||<死去>テッサリア尊厳公「ヨハネス1世ドゥーカス」
1289年-02:00|ギリシャ| ||<即位>アカイア公「イザベル・ド・ヴァイルアルド・ウアン」(~1307年)、「フロラント・エノ」(~1297年)
1289年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ヴォルィニ公「ムスチスラフ・ド・ニコラ・イチ」(~1292年以降)
1289年-02:00|トルコ| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」(~1293年譲位)
1289年-02:00|ギリシャ| ||<即位>テッサリア尊厳公「コンスタンティノス・ドゥーカス」(~1303年死去)
1289年-01:00|フランス| ||<死去>サン＝ポル伯「ギヨーム3世」
1289年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第49代ドージェ(元首)「ピエトロ・グランドーニョ」(~1311年)
1289年-01:00|フランス| ||<就任>サン＝ポル伯「ユーク6世」(~1292年)
1289年-01:00|ドイツ| ||<就任>バーテン＝ハッパハル辺境伯「ハインリヒ3世」(~1330年)
1289年-01:00|イタリア| ||<就任>レッショ侯「オビッツォ2世」フェラーラ・モナ侯・エスター辺境伯(~12930213死去)
1289年-01:00|イタリア| ||<即位>トレント司教公「Philipp Buonacolsi」(~1303年)
1289年-01:00|イタリア| ||フィレンツェで「農奴解放令」がでる
1289年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| ||<死去>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Philippe l' Eveque卿」
1289年 00:00|イギリス| ||<死去>バーカン伯「アレクザンダー・ガミン」
1289年 00:00|イギリス| ||<就任>アランデル伯「リチャード・フィッツアラン」(~13020309死去)
1289年 00:00|イギリス| ||<就任>バーカン伯「ジョン・ガミン」(~1308年死去没収)
1289年 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島知事「Walter de Huntercumbe」(~1293年死去)
1289年1月-03:30|イラン| ||<就任>イルハン朝行政長官「Sa'ad al-Dawla Abhari」(~12910312)
1289年1月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元26年|契丹の寇により都を江華島に移す
1289年1月23日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元26年1月|元、会運河を開く
1289年3月12日-04:00|ジョージア| ||<死去>グルジア国王「デメトリオス2世」
1289年3月12日-04:00|ジョージア| ||<即位>グルジア国王「ヴァフタンク2世」(~1292年死去)
1289年3月12日-09:00|日本|京都府京都市|正応2年2月19日|綾小路町より六条まで50余町焼亡
1289年4月28日-02:00|エジプト| ||エジプトのマムルーク帝カーウンがトリポリを占領し、キリスト教徒の住民を全部虐殺する/トリポリ伯領が滅亡
1289年5月4日-09:00|日本| ||正応2年4月13日|<就任>関白「近衛家基」(~正応4年5月27日)
1289年5月30日-06:30|ミャンマー| ||<即位>バーガン王朝君主「チョウワー」(~12971217)
1289年8月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「レオルト・フィラ・レオルト・ネペリ・バステリ」(~9月)
1289年8月1日-01:00|ドイツ| ||<死去>スポンハイム・シュタルケンブルグ伯「Henry1世」
1289年8月1日-01:00|ドイツ| ||<就任>スポンハイム・シュタルケンブルグ伯「John2世」(~13240222死去)
1289年9月-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・コセギ・フィラ・ヘンリク・ヘダー」(2回目~12900620)
1289年9月9日-09:00|日本| ||正応2年8月23日|<死去>一遍/51歳(誕生:延応1(1239)0215)/時宗の開祖
1289年9月26日 00:00|イギリス| ||結婚のため、ノルウェーを発ったスコットランド国王マーガレットたちの船は途中大時化にあり、オーケ島にたどり着いたところでマーガレットはわずか7歳で息を引き取った
1289年9月29日-09:00|日本| ||正応2年9月14日|<辞任>鎌倉幕府7代将軍「惟康親王」上洛
1289年10月24日-09:00|日本| ||正応2年10月9日|<就任>鎌倉幕府8代将軍「久明親王」(~13080804)

1300迄 (2243件)

1289年11月6日-01:00|ノルウェー/イギリス| |||イングランド、スコットランド、ノルウェーの間で、スコットランド女王の後見権をエドワード1世とするソールズベリー条約が結ばれる

1290年-05:30|インド| |||<建国>シコット国(パングラールのナガが継承)

1290年-03:30|イラン| |||<即位>オームズ王「Mas'ud」(~1293年)

1290年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アルベルト・ノ・モロシニ」(~1293年)

1290年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴァウ騎士団団長「バルザール・ホル」(~1293年)

1290年-01:00|フランス| |||<死去>オセル伯「Alix」

1290年-01:00|フランス| |||<就任>オセル伯「William6世」(~1304年)

1290年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のパン「ラトスラフ・ハボニッチ」(~1293年)

1290年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Guille de Saint-Remi」(2期目~1291年)

1290年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||<就任>オルタニー島保護者「Raoul Eudes」(~1302年以降)

1290年1月1日-01:00|ポーランド| |||<就任>チェン公「ミェシュコ1世」(~13150627死去)

1290年1月19日-09:00|日本| ||正応2年12月7日|<死去>義子内親王(和徳門院)(56歳)仲恭天皇の皇女

1290年1月24日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正応2年12月12日|円覚寺が再び火災

1290年1月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>スーزنハム・クロイツハ伯「John1世」

1290年1月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>スーزنハム・クロイツハ伯「John2世」(~13400311死去)、「Simon2世」(~1336年死去)

1290年1月30日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Pierre d'Arcis」(~1292年)

1290年2月 00:00|マン島| |||<就任>マン王「the kings of England」(~13130612)

1290年2月1日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝第10代スルタン「ムズッティーン・カイバード」暗殺される

1290年2月1日-05:30|インド| |||<即位>奴隷王朝第11代スルタン「シャムスッティーン・カユマルス」カイバードの子(~6.13死去)

1290年2月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バイエルン公「ハインリヒ3世」

1290年2月3日-01:00|ドイツ| |||<即位>下バイエルン公「ルートヴィヒ3世」ハインリヒ3世の次男(~12961009死去)、「シュテファン1世」ハインリヒ3世の3男(~13101210戦死)、「オットー3世」ハインリヒ3世の長男(~13120909死去)共同統治

1290年2月11日-09:00|日本| ||正応3年|<任命>尾張国守護「中条景長」(~不詳)

1290年3月25日-09:00|日本| ||正応3年2月13日|幕府が、造作、修理、替物用途などを農民に課すことを禁止

1290年4月19日-09:00|日本|京都府京都市|正応3年3月9日|甲斐国の小笠原一族の武士浅原八郎為頼とその子息2人が、内裏の衛門の陣から皇居に乱入し天皇殺害を企てるが、包囲されて自害

1290年5月10日-01:00|オーストリア/ドイツ/スイス| |||<死去>オーストリア公・シュヴァーベン大公「ルドルフ2世」

1290年5月10日-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン大公「ヨハン」(~13121213死去)

1290年6月-01:00|チェコ/ポーランド| |||ボヘミアはポーランドと結合(~13050621)

1290年6月13日-05:30|インド| |||<死去>奴隷王朝第11代スルタン「シャムスッティーン・カユマルス」

1290年6月13日-05:30|インド| |||<即位>ハルジー朝スルタン「ジャラルッティーン・フィールース・シャー」(~12960719死去)

1290年6月20日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ミズセ」(~7.2)

1290年6月23日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド公・ヴロツワフ公「ヘンリク4世」プロフス

1290年6月23日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ブシェミスワ2世」ミェシュコ3世の玄孫/ヘンリク2世の女系の孫息子/ボスナ公、ヴァイエルボルカ公、ボシェ公を兼ねる(~1291年)

1290年7月 00:00|イギリス| |||この月、イングランドのエドワード1世が、ユダヤ人を国外へ追放

1290年7月2日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「アマテ・フィア・ダウイト・ネベリ・アバ」(2回目~1291年2月)

1290年7月10日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王・クロアチア王「ラースロー4世」暗殺される

1290年7月23日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「アンドラーシュ3世(エントレ3世)」イシュトヴァーン5世の従弟(~13010114死去)

1290年8月7日-09:00|日本|奈良県奈良市|正応3年7月|彫工七条昇速・大工白河行円、海竜王寺舍利塔を建立

1290年8月16日-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯「マルグリット1世」シャル2世とマリア・ド・アンゲリアの娘(~12991231死去26歳)、「シャル3世」ヴァロワ伯(~13251216死去55歳)

1290年8月16日-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「マルガリータ」(~12991231死去)、「シャル3世」(~1314年)

1290年9月26日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「マーガレット(ノルウェーの乙女)」7歳

1290年9月26日-09:00|日本| ||正応3年8月22日|<就任>鎌倉幕府執権「北条師時」(~応長1年9月22日)

1290年9月27日 12:00|中国| |||中国・内蒙古、寧城で地震(M6.8)、死者7220人

1290年10月11日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ウィリアム・ド・ウエー」(~12940305)

1290年11月10日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・カラウン」

1290年11月10日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「アシュラフ・ハリル」(~12931214暗殺される)

1290年11月15日-09:00|日本|静岡県富士宮市|正応3年10月12日|日蓮大聖人の法嫡第2祖日興上人によって日蓮正宗総本山大石寺創建

1290年11月18日-09:00|日本| ||正応3年10月15日|<死去>北条時定(不明/肥前守護、鎮西奉行)

1290年12月18日-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「マグヌス3世」50歳

1290年12月18日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ビルギエル」マグヌス3世の息子(~1318.3~13210531死去41歳)

1290年12月21日-01:00|ドイツ| |||<死去>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン=イツェホー伯「ゲルハルト1世」

1290年12月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>シャウエンブルク伯・ホルシュタイン=ピンネベルク伯「アドルフ6世」ゲルハルト1世の3男(~13150513死去)

1300迄 (2243件)

1290年12月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=ブレン伯「ゲルハルト2世盲目伯」ゲルハルト1世の次男(〜13121028死去)
1290年12月21日-01:00|ドイツ| |||<就任>ホルシュタイン=レンズブルク伯「ハインリヒ1世」ゲルハルト1世の4男(〜13040805死去)
1291年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ジヨチ・ウルス・ハン「トクラ・ブカ(トレ・ブカ)」
1291年-05:00|カザフスタン/キルギス/タジキスタン/ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ジヨチ・ウルス・ハン「トクタ」モンケ・テムルの子(〜1312年死去)
1291年-03:00|タンザニア| |||東アフリカでバテ島のスルタンが沿岸部を支配
1291年-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア大公「フティグ・イェイス」
1291年-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「フトゥ・イェーダス」フティグ・イェイスの兄弟(〜1295年死去)
1291年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||シチリア王国「ホーリ」がヒエロニムス統治(〜1307年)
1291年-01:00|ドイツ| |||<就任>ケッティンゲン侯「アルブレヒト2世」(〜13180922死去)
1291年-01:00|フランス| |||<就任>バル伯「アンリ3世」(〜1302.9死去)
1291年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク=ヴオルフェンビュッテル侯「ウイヘルム1世」(〜12920930死去)
1291年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク=ゲルベンハーゲン侯・ゲルベンハーゲン侯「ハインリヒ1世」アルブレヒト1世の息子(〜13220907死去)
1291年-01:00|ドイツ| |||<就任>マゼン辺境伯「フリートリヒ1世」アルブレヒト2世の長男(〜13231116死去)
1291年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ヴャツワフ2世」ボヘミア王/フシェスワ2世の娘と結婚/マゾフスカ公を兼ねる(⇒13000725ポーランド王)
1291年-01:00|スイス| |||ウーリ、シュヴィツ、ウンター・ガルテンの三つの州の代表者たちは集まって自治独立を維持するための永久盟約を結んだ/スイス連邦の原型である「原初同盟」(盟約者団)の結成
1291年-01:00|パチン/サンマリノ| |||サンマリノが教皇ニコラス4世によって独立を認められる
1291年-01:00|イタリア| |||トリエステはアキレイア総主教区の一部(〜1368年)
1291年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領「ノーザン」島副守護者「Stephen Wallard卿」(2期目〜1293年)
1291年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ケイス・ニコラス・セント・エドモント」
1291年1月19日-01:00|フランス| |||<死去>シャルトル伯・ブワ伯「Joan」
1291年1月19日-01:00|フランス| |||<就任>ブワ伯「ヒュー2世」(〜1307年死去)
1291年2月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ミクロシュ・コセギ・フィア・ヘンリク・ネペリ・ヘター」(3回目〜11月)
1291年2月1日-09:00|日本| ||正応4年|<任命>紀伊国守護「北条時兼」(〜不詳、以後北条氏〜1333年)
1291年2月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・至元28年|高麗・忠烈王、都を開城に戻す
1291年2月1日-09:00|日本|京都府京都市左京区|正応4年|亀山法皇が東福寺3世無関普門を開山に迎え離宮禅林寺殿を禅寺に改め竜安山禅林禅寺と号した/臨済宗南禅寺派大本山>
1291年2月19日-01:00|フランス/イタリア/パチン| |||フランス王フィリップ4世、ローマ教皇ニコラス4世、ホーリ王カルロ2世、アラゴン王「アルフォンソ3世」、との間で、フランス南部の教皇領アヴィニョンとアルルの中間にあるラスコンで、「シチリア晩禱戦争」と「アラゴン十字軍」の終結を目的とした「ラスコン条約」が調印される
1291年3月4日-09:00|日本|愛知県名古屋市中熱田区|正応4年2月2日|熱田社焼失
1291年4月5日-02:00|エジプト/パレスチナ| |||エジプト・スルタンがアッコ攻撃を開始
1291年5月16日-09:00|日本|京都府京都市東山区|正応4年4月17日|八坂の塔(法観寺塔)焼亡
1291年5月18日-02:00|エジプト/パレスチナ| |||マムルーク帝アル・アシュラフ・カーリルによってアッコが占領され、エルサレム王国が滅亡
1291年5月21日-02:00|キプロス/イスラエル/パレスチナ| |||エカー(アッコ)がイスラム軍により陥落⇒聖ヨハネ騎士団本部をキプロスのリマール(レミス)に移転
1291年5月25日-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<死去>フィンランド公「リンシェーピング」司教ベント1世「フォルクンガ」
1291年6月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ベルブルク侯「John1世」
1291年6月18日-01:00|スペイン| |||<死去>アラゴン国王「アルフォンソ3世自由王」兼バルセロナ伯「アルフォンソ2世」27歳
1291年6月18日-01:00|スペイン| |||<即位>アラゴン国王「ハイメ2世公正王」兼バルセロナ伯「ジャウメ2世」ペドロ3世とコンスタンサ・デ・シチリアの息子(〜13271102死去60歳)
1291年6月24日-09:00|日本| ||正応4年5月27日|<就任>関白「九条忠教」(〜正応6年2月25日)
1291年7月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン=バーテン辺境伯「ヘルマン7世」
1291年7月12日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン=バーテン辺境伯「フリートリヒ2世」(〜13330622死去)、「ヘルマン8世」(〜1300年死去)、「ルドルフ4世」(〜13480625死去)
1291年7月14日-02:00|パチン/イスラエル| |||十字軍エルサレム王国がシドン再取得
1291年7月15日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/スイス| |||<死去>ドイツ王・イタリア王・ブルグント王「ハプスブルク伯ルドルフ1世」73歳(誕生12180501)
1291年7月15日-01:00|ドイツ/イタリア/フランス/オーストリア| |||<即位>神聖ローマ帝国宰相「マインツ大司教ゲルハルト・フォン・エッブシュタイン」(1回目〜12920505)
1291年7月23日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝君主「ゲイハトゥ」アルクンの弟(〜12950324死去)
1291年7月30日-02:00|イスラエル| |||十字軍エルサレム王国がヤッファ取得
1291年7月31日-02:00|パチン/イスラエル| |||十字軍エルサレム王国がパイルト再取得
1291年8月1日-01:00|スイス| |||ウーリ、シュヴィツ、ウンター・ガルテンのスイスの3原初州(原初3邦)が、「永久同盟」を結ぶ
1291年8月16日-01:00|ドイツ| |||<死去>下ラウジッツ辺境伯「フリートリヒ・トクタ」
1291年8月16日-01:00|ドイツ| |||<就任>ランツブルク辺境伯・下ラウジッツ辺境伯「デュートリヒ4世(デューツマン)」ハインリヒ4世の孫(〜1303年退任)
1291年9月9日-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァのルネ・タノ・デル・ポネ・ロ「バルデッロネ・ポナコリ」(〜12990702)
1291年10月14日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「フランダーズのヨハネ」

1300迄 (2243件)

1291年10月30日-09:00|日本|群馬県前橋市|正応4年10月7日|日興上野大胡に本応寺を創す
 1291年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ミハイ・ネペリ・セン・マコチ」(~1293年)
 1291年11月 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「ジョン・ベ・イリヤル」中身の無い外套王」(12960710退位)
 1292年-07:00|タイ| |||<即位>ランナー王国マンラーイ朝国王「マンラーイ」ゴエン・ヤン王(~1311年死去)
 1292年-05:30|インド| |||<建国>ナリシフル国
 1292年-05:30|スリランカ| |||<即位>ジャファナ王国国王「Vickrama Cinkaiariyan」(~1302年)
 1292年-05:30|インド| |||<即位>ホイヤラ朝国王「ハッラー3世」(~1343年死去)
 1292年-04:00|ロシア| |||<再任>ノヴゴロド共和国ノヴゴロド公「アント・レイ・アレクサンド・ロウイチ」(~1304年)
 1292年-04:00|ジョージア| |||<死去>グルジア国王「ヴァフタンク2世」
 1292年-04:00|ジョージア| |||<即位>グルジア国王「ダビデ8世」(~1302年)
 1292年-02:00|トルコ| |||<再位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイハート3世」(2回目~1293年)
 1292年-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「スマイルツ(スマイルク)」(~1298年11月死去)
 1292年-02:00|トルコ| |||<即位>アルタウ朝スルタン「ダウード・シャムス」(~1294年)
 1292年-02:00|トルコ| |||<即位>イスファンデ・イリス 君主「ヤマン・カンダル」(~?)
 1292年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウーロニ公「レフ・ロマノウイチ」(~1301年)
 1292年-02:00|トルコ| |||<即位>コバン朝ヘイ「Gobanoglu Mahmud Bey」(~1309年)
 1292年-01:00|イタリア| |||<就任>ペテラ・テンペスタ伯「Peter Tempesta」(~1315年)
 1292年-01:00|フランス| |||<就任>サンボール伯「ギョー4世」(~13170406死去)
 1292年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランシュヴァイク＝ウエルフェンビュッテル侯「アルブレヒト2世」(~13180922死去)
 1292年-01:00|ドイツ| |||<就任>ランツベルク辺境伯「ディートリヒ4世(ディーツマン)」ハインリヒ4世の孫(~1303年、ラウジッツ辺境伯領(オストマルク)はアスカニア家のブランデンブルク辺境伯のものとなった)
 1292年 00:00|イギリス| |||<死去>3代キャリック伯「マージョリー」
 1292年 00:00|イギリス| |||<就任>4代キャリック伯「ロバート・ブルース」先代の長男(1306年よりスコットランド王ロバート1世~1314年)
 1292年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「ウィリアム・デ・タンフリース」⇒「アラン・デ・タンフリース」
 1292年1月6日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<即位>ハンガリー王・クロアチア王「カルロ・マルテロ」(~12950819没)
 1292年1月21日-09:00|日本| ||正応5年|<任命>駿河・伊豆国守護「北条貞時」(~応長元(1311)年10月26日死去、次に高時が就任~1333年)
 1292年1月21日-09:00|日本| ||正応5年|<任命>肥後国守護「金沢政顕」(~不詳)
 1292年1月21日-09:00|日本| ||正応5年|<任命>武蔵国守護「北条貞時」(~1310年、次に高時が就任~1333年)
 1292年1月21日-08:00|中国/インド/モンゴル| ||元・至元29年|モンゴル軍とインドのハルジー朝が赦宥金の支払いで和約
 1292年2月6日-01:00|イタリア| |||<就任>モンフェッラート侯「ジョヴァンニ1世」グリエルモ7世の子(~1305. 1)
 1292年3月2日-08:00|中国/インド/ネパール/モンゴル| ||元・至元29年2月12日|元軍が爪哇(ジャワ/シンガリ朝)をせめる(~30年4月24日)
 1292年3月20日-09:00|日本|沖縄県|正応5年3月|元楊祥が琉球来襲
 1292年3月26日-09:00|日本|福岡県福岡市|正応5年3月7日|鎌倉幕府、鎮西探題を博多に設置
 1292年4月4日-09:00|日本|福井県福井市|正応5年3月16日|京都宝林寺九重石塔できる
 1292年4月4日-01:00|バチカン| |||<死去>第191代ローマ教皇「コラウス4世」[1227年09月30日生~](享年64)
 1292年5月-08:00|インド/ネパール| |||<死去>シンガリ王国国王「クルカガ・ラケ・イリ朝の子孫と称するジャヤカトワに攻められ総理大臣と共に殺される
 1292年5月-08:00|インド/ネパール| |||<即位>シンガリ王国国王「ジャヤカトワ」(~1293年死去)
 1292年5月1日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正応5年4月13日|鎌倉で大地震が発生し、建長寺などが焼失し、死者が2万3000人に及ぶ
 1292年5月5日-01:00|ドイツ/フランス/スイス| |||<即位>ドイツ王・ブルグント王「アドルフ」(~12980623廃位)
 1292年9月14日-09:00|日本| ||正応5年8月2日|<死去>少弐経資(68歳/御家人、鎮西奉行)
 1292年9月30日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランシュヴァイク＝ウエルフェンビュッテル侯「ヴィルヘルム1世」
 1292年9月30日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランシュヴァイク＝ウエルフェンビュッテル侯「アルブレヒト2世」ゲッティンゲン侯(~13180922死去)
 1292年10月20日-09:00|日本| ||正応5年9月9日|<死去>西園寺きつ子(大宮院)(68歳)御嵯峨天皇の中宮
 1292年10月24日-09:00|日本|埼玉県久喜市|正応5年9月13日|執権北条貞時は、武蔵国大田庄の鷲宮神社本殿を再興
 1292年11月17日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「ジョン・ベ・イリヤル」(~12960710~13141125死去)スコットランドに出兵していたイングランド王エドワード1世がスコットランドに対主権を認めさせる
 1292年11月18日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝行政長官「Sadr al-Din Ahmad Khaledi Zanjani」(1期目~12950324)
 1293年-08:00|インド/ネパール| |||<死去>シンガリ王国国王「ジャヤカトワ」
 1293年-04:00|ロシア| |||<即位>第3代ペーローゼロ公「フォートル・ミハイロウイチ」(~1314年死去)
 1293年-04:00|ジョージア| |||<即位>イメレティ王「コンスタンティヌス1世」(~1327年)
 1293年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「トロス3世」(~1298年)
 1293年-04:00|ロシア| |||<即位>ペーレスラウ・リザ・レスキー公「アント・レイ・アレクサンド・ロウイチ」⇒「フォートル・ロスラウイチ」(~1294年)
 1293年-04:00|アルメニア| |||<退位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」
 1293年-03:30|イラン| |||<即位>オームス王「Mir Bahdin Ayaz Seyfin」(~1311年)

1300迄 (2243件)

1293年-02:00|トルコ| |||<再位>ルーム・セルジューク朝スルタン「マスウート2世」(3回目~1300年)
1293年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「エルモラ・ジュント」(~1294年)
1293年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「トロス3世」(~12980723死去)
1293年-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「ヘンリク3世」(~13091203死去)
1293年-01:00|クワチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ヘンリク・ヘーデル・クシエ」(1度目)、「ミクロシュ・ヘーデル・クシエ」(2度目~1294年)
1293年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「アマデ・フィア・ダ・ヴァイト・ネンペリ・アバ」(3回目~11月)
1293年-01:00|フランス/イギリス| |||フィリップ4世がエドワード1世を破り、アキテーヌを奪う
1293年 00:00|マン島| |||<死去>マン島知事「Walter de Huntercumbe」
1293年 00:00|ポルトガル| |||北欧と取引をする商人のために海上保険制度が設けられた
1293年1月20日-01:00|イタリア| |||<死去>フェラー・モナ・レツジョ侯・エステ辺境伯「ピッツォ2世」
1293年1月20日-01:00|イタリア| |||<就任>エステ辺境伯「フランチェスコ1世」(~13120823)
1293年1月20日-01:00|イタリア| |||<就任>フェラー・レツジョ侯「アッソ8世」(⇒1306年フェラー侯~13080131死去)
1293年1月20日-01:00|イタリア| |||<就任>モナ侯「アルド・フランデール2世」(~13260726死去)
1293年2月8日-09:00|日本| ||正応6年|<任命>安芸国守護「名越宗長」(~不詳)
1293年2月8日-09:00|日本| ||正応6年|<任命>丹後国守護「長井貞秀」(~不詳)
1293年2月8日-09:00|日本|長崎県壱岐市|正応6年|唐津岸岳城主の波多宗無、亀丘城[郷/浦町]を築城
1293年3月10日-09:00|日本|静岡県富士宮市|正応6年2月|<創建>北山本門寺(重須本門寺、法華本門寺根源)日興
1293年3月18日-09:00|日本| ||正応6年2月9日|長薩・長章の竹崎五郎絵詞(蒙古襲来絵詞)できる
1293年4月3日-09:00|日本| ||正応6年2月25日|<就任>関白「近衛家基」(~永仁4年6月19日)
1293年4月8日-09:00|日本|茨城県水戸市|正応6年3月|波木井実氏母妙徳のために妙徳寺を常陸加倉井に創す
1293年4月14日-09:00|日本| ||正応6年3月7日|<任命>鎮西探題「北条兼時」「北条[名越]時家」(~永仁3(1295)年4月23日辞任)
1293年4月14日-09:00|日本| ||正応6年3月7日|<任命>肥前国守護「鎮西探題兼任」(~1333年)
1293年4月16日-07:00|ベトナム| ||大越・興隆1年3月9日|<譲位>陳朝(大越)皇帝「仁宗」
1293年4月16日-07:00|ベトナム| ||大越・興隆1年3月9日|<即位>陳朝(大越)皇帝「英宗」(~13140403(興隆22年3月18日)譲位)興隆と改元(-1314年旧3月18日)
1293年4月30日-09:00|日本| ||正応6年3月23日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条久時(極楽寺流赤橋氏)」(~永仁5(1297)年6月18日)
1293年5月19日-05:00|日本|神奈川県鎌倉市|正応6年4月12日|<正応6年鎌倉地震>寅の刻(午前4時ごろ)、幕府の首都・鎌倉を中心とした関東一円大地震/鎌倉は山くずれ、人家多く転倒/死者その数を知らず/大慈寺丈六堂以下埋没/寿福寺転倒/巨福山(建長寺)転倒即ち炎上/死人2万3024人
1293年5月29日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|正応6年4月22日|<平禅門の乱>執権北条貞時が内管令の平頼綱父子を襲い、頼綱は自殺し、一族100人が討たれる
1293年8月4日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元30年7月|元、通惠河完成
1293年8月19日-08:00|中国/モンゴル/ベトナム| ||元・至元30年7月16日|元軍が交趾をせめる
1293年9月6日-09:00|日本| ||永仁1年8月5日|正応から永仁に改元
1293年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラティン「ミクロシュ・コセグ・フィア・ヘンリク・ネンペリ・ヘーダー」(4回目~1295年11月)
1293年11月10日-08:00|インドネシア| |||<即位>マジャパヒト王国国王「ウイジャヤ」(~1309年死去)
1293年11月10日-08:00|インドネシア/中国/モンゴル| |||クタラジャサ王(ラテン・ウイジャヤ)は元軍にジャカトワンを倒させ、今度は計略を用いてモンゴル軍を追い出し「マジャパヒト王国」(1293~1520)を開いた
1293年11月10日 00:00|イギリス| |||<死去>デウオン伯「Isabel de Redvers」
1293年12月14日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<死去>ハフリー・マムルーク朝スルタン「アシュラフ・ハリル」暗殺される
1293年12月14日-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>ハフリー・マムルーク朝スルタン「ナシール・ムハンマド」(1期目~1294.12廃位)
1293年12月16日-09:00|日本|奈良県奈良市|永仁1年11月17日|奈良興福寺一乗院の僧徒らが大乘院僧徒と交戦
1294年-05:00|モルデイグ| |||<即位>ティームゲ朝スルタン「Salis」(~1302年)
1294年-04:00|ロシア| |||<死去>ウラジミール・スズダリ大公「ヘレヤスラフ・ザ・レスキー公ト・ミトリー・アレクサント・ロウイチ」
1294年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Akhsitan3世」
1294年-04:00|ロシア| |||<死去>ヘレヤスラフ・ザ・レスキー公「ト・ミトリー・アレクサント・ロウイチ」
1294年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン大公「フォートル1世ロマノウイチ」
1294年-04:00|ロシア| |||<死去>ロストフ公「ト・ミトリー・ホリツウイチ」
1294年-04:00|ロシア| |||<即位>ウラジミール・スズダリ大公「コストロマ公アント・レイ・アレクサント・ロウイチ」(2回目~13040727死去)
1294年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Keykavus1世」(~1317年死去)
1294年-04:00|ロシア| |||<即位>フロンスク公「コンスタンチン・ロマノウイチ」(~1299年)
1294年-04:00|ロシア| |||<即位>ヘレヤスラフ・ザ・レスキー公「ウァン・ト・ミトリエウイチ」(~1302年死去、モスク大公国に併合)
1294年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン大公「ヤロスラフ2世ロマノウイチ」(~1299年死去)
1294年-04:00|ロシア| |||<即位>ロストフ公「コンスタンチン・ホリツウイチ」(~1307年)
1294年-03:30|イラン| |||イル・ハン国で紙幣が発行
1294年-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ソモン1世」
1294年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「ヤンファ・アルト4世」ソモン1世の息子(~1295年)
1294年-02:00|ギリシャ/イタリア| |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「アントニア・ダント・ロ」(~1298年)

1300迄 (2243件)

1294年-02:00|トルコ| |||<即位>アイユーブ朝(ヒスン・カイファ)アミール「Kamīl Ahmad1世」(~1325年)
1294年-02:00|トルコ| |||<即位>アルトゥク朝スルタン「カースィー2世」(~1312年)
1294年-02:00|トルコ| |||<即位>ニカイア帝国皇帝「ミカエル9世パレオロゴス」共同皇帝. アントノコス2世パレオロゴスの子(~13201012死去)
1294年-01:00|イタリア| |||<就任>ゲラニア伯「Johno」(~13360405死去)
1294年-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリンゲン方伯「アドルフ」ドイツ王(~1298年)
1294年-01:00|アルバニア| |||<即位>アルバニア王国領主「Philip」(~13311226死去)
1294年-01:00|フランス/イギリス| |||スコットランド国王ジョン・ベイルヤルはフランスへの兵員動員を拒否し、フランス王フィリップ4世と同盟(いわゆる古い同盟)を結んだ
1294年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領グーンズー島副守護者「Henri de Bonvillars」(1期目~同年)
1294年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「トマス・デ・ハンジホー」(~1295年)
1294年 00:00|イギリス| |||<即位>ウェールズ公「マトック・アプ・ルウェリン」(~1295年)
1294年1月-01:00|イタリア| |||<即位>ミラノのシニョール「マッテオ1世・ヴィスコンティ」(~1302年)
1294年1月8日-09:00|日本| ||永仁1年12月11日<死去>一条家経(46歳/摂政、左大臣)
1294年1月28日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|永仁2年|この年、僧忍性四天王寺別当となり、悲田・敬田二院を興す
1294年2月2日-01:00|ドイツ| |||<就任>ライン宮中伯「ルドルフ1世」(~1317年廃位)
1294年2月2日-01:00|ドイツ| |||<即位>上バリエル公「ルドルフ1世」ルートヴィヒ2世の長男(~1317年廃位)、「ルートヴィヒ4世」ルートヴィヒ2世の次男(⇒13401220バリエル公~13471011死去)
1294年2月7日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島副守護者「Guillaume de Grandison卿」+「Henri, prieur de Wenlock」(~6.18)
1294年2月10日-09:00|日本|京都府京都市|永仁2年1月14日|京都大火/四条坊門高倉、二条京極まで焼亡
1294年2月18日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元31年1月22日<死去>元初代皇帝「世祖クビライ」/80歳(誕生1215年)
1294年3月5日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ウィリアム・デ・ラ・ヘイ卿」(~6.4)
1294年5月3日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<死去>ブラバント公・リンブルフ公「ジャン1世勝利公」
1294年5月3日-01:00|ベルギー/オランダ| |||<就任>ブラバント公・リンブルフ公「ジャン2世」(~13121027死去)
1294年5月10日-08:00|中国/モンゴル| ||元・至元31年4月14日<即位>元第2代皇帝「成宗テムル」(~大徳11年1月8日1307年2月10日)クビライの次男チギス(裕宗)の三男
1294年5月19日-01:00|フランス/イギリス| |||フランス王フィリップ4世が、エドワードのフランス内の所領の没収を宣告/ギエヌ戦争が始まる
1294年6月4日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「ウィリアム・フィッツロジャール・キルメイナム」(~10.19)
1294年6月11日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスのスコト哲学者「ロジャー・ベークン」/80歳(誕生1214年)/近世自然科学の祖
1294年6月18日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島副守護者「Henri de Cobham卿」(~1297年)
1294年6月23日-01:00|ポーランド| |||<即位>マゾフシェ公「ボレスワフ2世」(~13130420死去)
1294年6月24日-01:00|ポーランド| |||<死去>チェルスク公「コンラト2世」
1294年7月5日-01:00|バチカン| |||<就任>第192代ローマ教皇「クレステニス5世」(~12.13辞任)
1294年8月24日-01:00|ドイツ/イギリス| |||皇帝アドルフが、イングランド王と対フランス同盟を結ぶ
1294年8月30日-09:00|日本| ||永仁2年8月8日<死去>鷹司兼平(67歳/摂政・関白、太政大臣)
1294年9月-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ボント・パン」(~12960317没)
1294年9月30日 00:00|イギリス| |||第4次ウェールズ戦争が始まる
1294年10月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「デズモンド卿トマス・フィッツジェラルド」(1回目~12月)
1294年12月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「アーデイル・キツバガー」(~12961207)
1294年12月-02:00|エジプト/シリア・アラブ| |||<廃位>バフリー・マムルーク朝スルタン「ナシール・ムハンマド」
1294年12月 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ウィリアム・ト・オグ・インゲセス卿」(~12950419没)
1294年12月13日-01:00|バチカン| |||<辞任>第192代ローマ教皇「クレステニス5世」ライバルのガエターニ枢機卿の威して
1294年12月13日-09:00|日本| ||永仁2年11月25日<死去>樺子内親王(五条院)(33歳)後嵯峨天皇の皇女
1294年12月24日-01:00|バチカン| |||<就任>第193代ローマ教皇「ボニファティウス8世」(~13031011死去)
1294年12月29日-01:00|ポーランド| |||<死去>ボヘレン公「ムチシュ2世」
1295年-07:00|カンボジア| |||<即位>クメール王朝国王「イントラウアルマン3世(シュリントラウアルマン)」(~1308年)
1295年-07:00|カンボジア| |||<退位>クメール王朝国王「ジャヤヴァルマン8世(チェイヴァルマン8世)」
1295年-05:30|インド| |||<即位>ホイサラ朝国王(カンナヌール王統)「ヴィシュヴァナタ」(~1300年)
1295年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>カト朝マリク「Fakhr-uddin ibn Rukn-uddin」(~1308年)
1295年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」(2期目~1296年)
1295年-03:30|イラン| |||<即位>クルト朝マリク「ファルッティーン・イブン・ルクヌッティーン」(~1308年)
1295年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝)皇帝「ハスハ・アスカット」ソモソ1世の息子(~1296年)
1295年-03:00|イエメン| |||<即位>ハスル朝スルタン「アシュラフ・ウマル2世」(~12961122死去)
1295年-02:00|リトアニア| |||<死去>リトアニア大公「パトウイタス」
1295年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リヴォニア騎士団団長「ヒンリッヒ・フォン・デ・インケラゲ」(~12961028死去)
1295年-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ヴァイテニス」パトウイタスの子(~1316年死去)

1300迄 (2243件)

1295年-02:00|トルコ| |||<復位>キリキア・アルメニア王国国王「ハム2世」(~1296年)
1295年-01:00|イタリア| |||<就任>カラブリア公(ホーリ王の推定相続人の称号)「ロベルト」(~1309年)
1295年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「イヴァン・ヘデル・クシェ」(4度目~同年)
1295年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「ヒュー・オブ・シャロン」(~1301年)
1295年-01:00|チュニシア/アルジェリア| |||<即位>ハフス朝第8代アミール「ムハンマド1世アル・ムスタシル」(~1309年)
1295年-01:00|ポーランド| |||<復位>ポーランド王「フシェミス2世」ポズナン公、ヴァエルポルスカ公、ポモージェ公を兼ねる(~12960208死去)
1295年 00:00|イギリス| |||<就任>スコットランド大法官「アレクサンダー・ケネディ」(~1296年)
1295年 00:00|マリ/ニジェール| |||<即位>ソンガイ王国国王「ビシ・パロ」(~1325年)
1295年1月17日-09:00|日本| ||永仁3年<任命>大隅国守護「北条時直」(~1317年)
1295年1月17日-09:00|日本| ||永仁3年<任命>筑後国守護「宇都宮通房」(~不詳)
1295年1月17日-09:00|日本|京都府京都市上京区|永仁3年|日像上人が妙法蓮華寺として五条西洞院に創建<妙蓮寺>
1295年1月17日-09:00|日本|京都府京都市左京区|永仁3年|この年、南禅寺雲堂できる
1295年1月17日-08:00|中国/モンゴル| ||元・元貞1年|フアンシホ会修道士のジョアンニが北京に大聖堂を建立
1295年1月17日-09:00|日本|福岡県|永仁3年1月<死去>北条朝房(不明/豊前守護)
1295年1月17日-08:00|中国/モンゴル| ||元・元貞1年1月1日|元の世宗が元貞(-1297年)と改元
1295年2月14日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハーデーン=ハーデーン辺境伯「ルト2世」
1295年3月-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ4世、神聖ローマ皇帝支配下の「ブルゴニュー伯領」を獲得
1295年3月24日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝君主「ケイハトゥ」
1295年3月24日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Jamal al-Din Ali Dastjerdani」(1期目~同年)
1295年3月24日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝第6代君主「バクトゥ」フレグの五男・タグイの子(~10.4死去)
1295年4月18日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「ヨハネス3世ゲラフ・フォン・シュヴェーリオン」(~1300年死去)
1295年4月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<死去>アイルランド判事「ウィリアム・ド・ステインゲルズ卿」
1295年4月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事代行「デズモンド卿トマス・フィッツジェラルド」(2回目~12.2)
1295年4月25日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン国王・カスティーリャ国王「サンチョ4世勇敢王」
1295年4月25日-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王・カスティーリャ国王「フェルナンド4世召集王」(~13120907死去)
1295年6月7日-01:00|イタリア/スペイン| |||フランス王フィリップ4世、「タラスコン条約」(1291年)に代わる「アナーニ条約」で「アラゴン王国」と和平を結ぶ/アラゴン王ジャコメ2世、シリアを放棄
1295年6月7日-09:00|日本| ||永仁3年4月23日<辞任>鎮西探題「北条兼時」「北条[名越]時家」
1295年8月8日-01:00|イタリア| |||<死去>ミラノ・シニョーレ「オットーネ・ダ・イスコンティ」
1295年8月8日-01:00|イタリア| |||<就任>ミラノ・シニョーレ「マッテオ1世・ダ・イスコンティ」(~13020624死去)
1295年8月19日-01:00|ハンガリー/クロアチア| |||<死去>ハンガリー王・クロアチア王「カルロ・マルテロ」
1295年9月8日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルヘル司教ギム・ド・モンカダ」(~13081103)
1295年9月29日-09:00|日本|佐賀県|永仁3年8月19日<死去>北条定宗(28歳/肥前守護)
1295年10月4日-03:30|イラン| |||<死去>イルハン朝第6代君主「バクトゥ」
1295年10月5日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Amir Nawruz」(~同年)
1295年10月10日-09:00|日本| ||永仁3年9月|この月、六条有房の野守鏡できる
1295年10月27日-09:00|日本| ||永仁3年9月18日<死去>北条兼時(32歳/六波羅探題、鎮西探題、評定衆)
1295年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイン・アマテ・フィア・ダ・グイト・ネベリ・アバ」(4回目~1296年11月)
1295年11月1日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<死去>ケルテン公・カルニオラ辺境伯「マインハルト・チロル伯「Meinhard2世」
1295年11月1日-01:00|イタリア| |||<就任>チロル伯「Albert」(~1292年)、「Louis」(~1305年)
1295年11月1日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<即位>ケルテン公「ハインリヒ6世」兼チロル伯「ハインリヒ2世」兼カルニオラ辺境伯「ハインリヒ」(~13350402死去)、ケルテン公「ルイ」(~1305年)、ケルテン公「オットー3世」兼チロル伯「オットー」(~13100525死去)兄弟で共同統治
1295年11月3日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Sharaf al-Din Mohammad Biabanaki Semnani」(~12960907)
1295年11月3日-03:30|イラン| |||<即位>イルハン朝第7代君主「ガザン」アルクンの子(~13040517死去)
1295年11月7日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|永仁3年9月29日|凶徒の放火で醍醐寺釈迦堂・金堂などが焼失
1295年11月20日-09:00|日本| ||永仁3年10月12日|本願寺宗昭(覚如)、「親鸞伝絵詞」を撰す
1295年12月2日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド判事「ジョン・ド・ウォーガン卿」(1回目~13080930)
1295年12月12日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|永仁3年11月5日|勝長寿院が焼失
1296年-05:30|インド| |||<即位>カカティヤ朝国王「プラターハルト2世」ルドラマ・デーヴァーの孫(~1326年)
1296年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「スハート」(~1298年)
1296年-03:30|イラン| |||<即位>ハザーラス朝君主「Nusrat al-Din Ahmad」(~1330年)
1296年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモン朝)皇帝「キトマ・アスカット」ソモン1世の息子(~1297年)
1296年-02:00|ギリシャ| |||<就任>エペロス摂政「アンナ・パラポゾナ」(~1313年)
1296年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ニルス・アケセルン」(~同年)
1296年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「スハート」(~1298年)
1296年-02:00|ウクライナ/イタリア| |||カファはベネチアが占領(~1307年)
1296年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サルツァ侯「トナーゾ1世」

1300迄 (2243件)

1296年-01:00|イタリア| |||<就任>ウルビーノ伯・モンフェルトロ伯「フェデリコ1世・ダ・モンフェルトロ」(~1322年死去)
1296年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サルツォ侯「マンフレート4世」(~1330年死去)
1296年-01:00|イタリア| |||<即位>カラブリア公「ロベルト」(~13090505)
1296年-01:00|イタリア/フランス| |||<即位>サルツォ侯(デル・ヴァスタ家)マンフレート4世(~1330年)
1296年-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝ラウエンブルク公「ヨハン2世、アルブレヒト3世、エーリヒ1世」(~1303年)兄弟で共同統治
1296年-01:00|アルバニア/セルビア| |||アルバニア、デュラツォはセルビアの一部(~13041009)
1296年-01:00|ポーランド| |||ポメラニヤ公国はポーランド王国領となった
1296年 00:00|イギリス| |||<死去>5代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウァー」
1296年 00:00|イギリス| |||<就任>6代オックスフォード伯「ロバート・ド・ウァー」先代の子(~13310417死去)
1296年 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Anthony Beck」(~13070929)
1296年1月15日-01:00|イタリア| |||<即位>シチリア王「フェデリコ2世」(~13370625死去)
1296年1月15日-01:00|イタリア| |||<退位>シチリア王「ジャコモ1世」
1296年2月5日-09:00|日本| ||永仁4年|<任命>美濃国守護「北条時村」(~1300年、次に政高が就任~1333年)
1296年2月5日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|永仁4年|北条貞時、鎌倉覚園寺建立
1296年2月5日-08:00|中国| ||元・元貞2年|この年、中国江南に綿紡織技術が伝わった
1296年2月8日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド王・ポズナニ公・ヴァルコ・ルスカ公・ボヘミア公「フシェスワ2世」殺される
1296年2月8日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド大公「ヴァツワ2世」ボヘミア王オtoka2世の息子、フシェスワ2世の娘と結婚(1300年王~13050621死去33歳)ボヘミア王マツェルスカ公を兼ねる
1296年2月22日-01:00|ポーランド| |||<死去>レグニツァ公「ハンリ5世」
1296年2月22日-01:00|ポーランド| |||<就任>レグニツァ公「ボレスワフ3世寛大公」(~1311年)、「ハンリ6世良公」(~1311年)、「ワデイスワフ」(~1312年)
1296年2月24日-01:00|バチカン| |||教皇ボニファティウス8世が俗権による聖職者への課税を禁止する教皇勅書「クレキス・ラクス」を発する
1296年3月 00:00|イギリス| |||イングランド・スコットランド戦争が始まる
1296年3月8日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|永仁4年2月3日|鶴岡八幡宮が焼失
1296年3月17日-02:00|キプロス| |||<死去>聖ヨハネ騎士団マスター「ボント・パン」
1296年3月26日-02:00|キプロス| |||<就任>聖ヨハネ騎士団マスター「ギヨーム・ド・ウァレ」(~1305年没)
1296年4月 00:00|イギリス| |||スコットランド国王ジョン・バ・イザベルはイングランドへの臣従の拒否を宣言し、イングランド北部へ侵攻/エドワード1世にダンバークで大敗
1296年4月11日-09:00|日本| 静岡県熱海市|永仁4年3月8日|伊豆国走湯山及び三島社焼失
1296年4月27日 00:00|イギリス| |||イングランドのエドワード1世が、スコットランド軍を破る
1296年5月18日 00:00|イギリス| |||<死去>ペンブルック伯「ウィリアム・ド・ヴァラン」
1296年5月19日-01:00|バチカン| |||<死去>前(192代)ローマ教皇「クレステニス5世」
1296年6月-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ラズロー・ハーン」(~1315年8月)
1296年6月5日 00:00|イギリス| |||<死去>初代レスター伯・初代ランカスター伯・ダービー伯「エドマント(クワチバツカ)」
1296年6月27日-01:00|オランダ| |||<死去>ゼーラント伯・ホラント伯「フロリス5世」
1296年6月27日-01:00|オランダ| |||<就任>ホラント伯「ヤン(ヨハン)1世」ゼーラント伯(~12991110死去)
1296年7月10日 00:00|イギリス| |||<廃位>スコットランド王「ジョン・バ・イザベル」中身の無い外套王”イングランドのエドワード1世がスコットランドから王位の象徴の戴冠石(スクーンの石)を奪う
1296年7月10日 00:00|イギリス| |||スコットランドをイングランドが占領(~12970911)
1296年7月19日-05:30|インド| |||<死去>ハルジー朝スルターン「ジャラルッディーン・フィールズ・シャー」
1296年7月20日-05:30|インド| |||<即位>ハルジー朝スルターン「ルクステーン・イブラヒム」ジャラルッディーン・ハルジーの子(~同年廃位)⇒「アラウッディーン・ムハンマド・シャー」ジャラルッディーン・ハルジーの甥(~13160102死去)
1296年7月20日-09:00|日本| ||永仁4年6月19日|<死去>近衛家基(36歳/関白、右大臣)
1296年8月16日-01:00|クロアチア| |||ラガザは火災で町のほぼ全域が破壊される
1296年8月18日-01:00|フランス| |||フランスのフィリップ4世美王がフランスから教皇庁への金銀の輸出を禁止
1296年8月24日-09:00|日本| ||永仁4年7月24日|<就任>関白「鷹司兼忠」(~永仁6(1298)年7月22日)
1296年8月30日-09:00|日本| ||永仁4年8月以降|<任命>鎮西探題「北条[金沢]実政」(~正安3(1301)年9月出家、子の政顕が継ぐ)
1296年9月7日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Jamal al-Din Ali Dastjerdani」(2期目~10.5)
1296年9月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘルル伯「アドルフ8世」
1296年9月28日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘルル伯「ヴァイルム1世」(~13080416死去)
1296年10月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>下バイエルン公「ルートヴィヒ3世」
1296年10月11日-09:00|日本| 京都府京都市|永仁4年9月13日|奈良春日社神人、上洛して狼藉を働く
1296年10月28日-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リガニア騎士団団長「フルノ」摂政(~12980601死去)
1296年10月30日-03:30|イラン| |||<就任>イルハン朝宰相「Sadr al-Din Ahmad Khaledi Zanjani」(2期目~12980430)
1296年10月30日-09:00|日本| 奈良県奈良市|永仁4年10月3日|天狗草紙絵巻できる
1296年11月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「マテ・フィア・ピーター・ネペリ・サーク」(1回目~1297年10月)
1296年11月22日-03:00|イェメン| |||<死去>ラース朝スルタン「ムサファル・ユセフ1世」
1296年11月22日-03:00|イェメン| |||<即位>ラース朝スルタン「ムアヤト・ダウド」(~1322年)
1296年12月7日-02:00|エジプト/シリア/アラブ| |||<即位>バフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・ラーゼーン」(~12990116暗殺される)
1296年12月16日-09:00|日本| ||永仁4年11月20日|吉見義世謀反幕府之を誅しその与党僧良基を陸奥に流す

1300迄 (2243件)

1297年-08:00|インドネシア| |||<即位>サト・ラ・パ・サイ王国第2代スルタン「マリクル・タヒル(ムハンマド1世)」(~1326年)
1297年-08:00|インドネシア| |||<即位>スンダ・ガラ王国マハラジャ「Rakeyan Saunggalah/Prabu Ragasuci」(~1303年)
1297年-08:00|中国/インド/モンゴル| |||ハルジーン朝アラーウディーンがモンゴル軍を撃退
1297年-06:30|ミャンマー| |||<即位>ミンサイン王「アシンハヤ/ヤザ・ティンヤン/ティハトウ」建国(~13100413)
1297年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「アレクサンドル・グレボヴイチ」(~1313年)
1297年-03:00|ペラルーシ| |||<即位>グ・イェフ・スク公「ヤロスラフ・ウ・アシリウイチ」(~1320年)
1297年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝) 皇帝「ジ・ン・アスカット」ソモソ1世の息子(~1298年)
1297年-02:00|ギリシャ| |||<死去>エ・ロズ専制公「ニコフォロス1世コムネノストウ・ウ・カス」
1297年-02:00|ギリシャ| |||<即位>エ・ロズ専制公「トマス1世コムネノストウ・ウ・カス」(~1318年死去)
1297年-02:00|ブルンジ| |||ブルンジでこのころ牧畜民の移住第1波(~1400頃)
1297年-01:00|フランス| |||<就任>シャルトル伯「シャルル2世」(~13460826死去)
1297年-01:00|イタリヤ| |||<即位>サルデーニャ国王「ハイメ2世」パドロー3世とコンスタンティン・シリアの息子(~13271105死去60歳)
1297年-01:00|イタリヤ/スペイン| |||アラゴン王ジヤコメ2世、コルカを領有
1297年-01:00|イタリヤ| |||イタリヤの画家ジョットが「聖フランチェスコの生涯」を制作
1297年-01:00|イタリヤ| |||ヴェネチアで評議会が停止、少数貴族による支配が確立
1297年 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島守護者「Sir Nicolas de Cheney」(2期目~12980413)
1297年 00:00|アイルランド| |||<設立>アイルランド議会
1297年 00:00|ポルトガル/スペイン| |||ポルトガル王ディニスはカスティリアとの間でアルカニェス条約を結び、両国の国境を画定
1297年1月7日 00:00|イギリス/フランス| |||イングランド王エドワード1世、「フランドル伯」ギイと「同盟」を結ぶ
1297年1月8日-01:00|モナコ| |||<就任>モナコ領主「ラニエロ・グマリナルディ(=レーニエ1世)」(~13010504)
1297年1月8日-01:00|モナコ| |||ジェノヴァのフアンソ・グマリナルディがモナコの岩を武力で占有/フアンソの従兄弟カーニョ領主、レーニエ1世が統治~13010410
1297年2月13日-01:00|ドイツ| |||<死去>バーテン・バーテン辺境伯「ヘッリ」
1297年2月13日-01:00|ドイツ| |||<就任>バーテン・バーテン辺境伯「ルドルフ・ヘッリ」(~13350817死去)
1297年3月21日-09:00|日本| 神奈川県横浜市金沢区| 永仁5年2月27日| 神奈川称名寺の愛染明王銅像(藤原秀吉)でできる
1297年3月21日-08:00|中国/モンゴル| |||元・大徳1年2月27日| 元の成宗テムルが大徳(~1307年大晦日)に改元
1297年3月30日-09:00|日本| |||永仁5年3月6日| 幕府が、御家人の所領は無償で返せ、という永仁の徳政令を発布
1297年4月17日-09:00|日本| 福井県吉田郡永平寺町| 永仁5年3月24日| 吉田郡永平寺が、山門・方丈を残して全焼
1297年5月 00:00|イギリス| |||イングランド兵とのトラブルに巻き込まれたスコットランド国ウィリアム・ウォリスは、イングランド人の州長官を殺害/民衆は、彼を支持して、大反乱となった
1297年5月10日-09:00|日本| 京都府京都市| 永仁5年4月18日| 富小路内裏焼失
1297年7月13日-09:00|日本| |||永仁5年6月23日|<任命>六波羅探題北方・山城国守護「北条宗方(得宗家義時流)」(~正安2(1300)年11月25日)
1297年7月29日-09:00|日本| |||永仁5年7月9日|<死去>六波羅探題南方「北条盛房」(56歳/評定衆・引付衆)
1297年7月30日-09:00|日本| |||永仁5年7月10日|<任命>六波羅探題南方「北条宗宣(大仏流)」(~正安4(1302)年1月17日→評定衆→連署→執権)
1297年8月14日-01:00|ドイツ| |||<死去>ニルンベルク城伯「フリートリヒ3世」
1297年8月14日-01:00|ドイツ| |||<就任>ニルンベルク城伯「ヨハン1世」(~1300年死去)
1297年8月16日-02:00|トルコ| |||<死去>トレビザント帝国第7代皇帝「ヨハネス2世」
1297年8月16日-02:00|トルコ| |||<即位>トレビザント帝国第9代皇帝アレクシオス2世(~1330年)
1297年8月20日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<死去>ユリヒ伯「ヴァルム」
1297年8月20日-01:00|ドイツ/オランダ| |||<就任>ユリヒ伯「ゲルハルト5世」(7世)」(~13280729死去)
1297年8月26日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ4世、ベルギー西部の「フルヌの戦い」で、「フランドル伯」ギイを破る
1297年8月28日-09:00|日本| 大阪府大阪市天王寺区| 永仁5年8月9日|<創建>忍性「四天王寺真言院」
1297年9月11日 00:00|イギリス| |||イングランド軍が、スターリング・ブリッジでスコットランド国ウィリアム・ウォリス軍に敗れる
1297年9月13日-09:00|韓国/朝鮮| |||高麗・大徳1年8月26日| 高麗、元からの通知により大徳と改元
1297年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「アマテ・フィア・ダウイト・ネベリ・アバ」(5回目~1298年10月)
1297年10月9日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ4世、ウィルサン・バウオンで、「フランドル伯」ギイと休戦
1297年12月19日-09:00|日本| 香川県小豆郡土庄町| 永仁5年11月4日| 石清水社領備前国肥土荘の領家・預所、別宮八幡宮の遷宮を行う
1298年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Bakuku」 「Kalabata」(~1304年)
1298年-08:00|フィリピン| |||和族がフィリピン諸島の南部へ進出(~1500)
1298年-07:00|タイ| |||<死去>スコタイ王朝国王「ラムカムヘン」
1298年-07:00|タイ| |||<即位>スコタイ王朝国王「フー・サイソクク・ラムカムヘン」の息子(~1323年死去)
1298年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス1世」(~1299年)
1298年-03:30|イラン| |||<死去>ハバント朝太守「Yazdagird」
1298年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝) 皇帝「サハ・アスカット」ソモソ1世の息子(~1299年)
1298年-03:00|ソマリア| |||<即位>ワルサリ初代スルタン「Garaad Dhidhin」(~1311年)
1298年-02:00|ギリシャ/イタリヤ| |||<就任>ヴェネチアのカンティエラ公「ヤコポ・ティエロ」(~1299年)
1298年-02:00|エストニア/デンマーク| |||<就任>デンマーク・エストニア総督「ニコラス・ウーソン」(~同年)

1300迄 (2243件)

1298年-02:00|ラトヴィア/エストニア/ドイツ| |||<就任>リガ・オー騎士団団長「ゴットフリート・ロッケ」(~1307年11月)
1298年-02:00|トルコ| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「コスタンディン3世」(~1299年)
1298年-02:00|トルコ| |||<即位>ラム・サルタン「Ala al-Din Kayqubad3世」(~1302年死去)
1298年-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク=ザルツヴァーデル辺境伯「オット5世」
1298年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア全土のバン「ヤコフ・コパス」(~1299年)
1298年-01:00|ドイツ| |||<就任>テュリンゲン方伯「アルブレヒト1世」ドイツ王(~1307年)、「デューツマン」ラウジッツ辺境伯(~1307/12/10死去)、「フリートリヒ1世」マイン辺境伯(~1323/11/6死去)
1298年-01:00|ドイツ| |||<就任>フェルデント伯「Walter」(~1327年)
1298年-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランデンブルク=ザルツヴァーデル辺境伯「ヘルマン」オット5世の息子. 共同統治(~1308/02/01死去)
1298年 00:00|イギリス| |||<死去>ウリック伯「ウィリアム・ド・ビーチャム」
1298年 00:00|イギリス| |||<就任>ウリック伯「ガイ・ド・ビーチャム」先代の子(~1315/08/12死去)
1298年 00:00|イギリス| |||<就任>エックス伯「ハンプリー・ド・ブーン」(~1322/03/16死去)
1298年2月12日-08:00|中国/モンゴル| ||元・大徳2年|元朝が江南での門攤税銭を廃止
1298年2月13日-09:00|日本| ||永仁6年|<任命>長門探題「北条時仲」(~1299年)
1298年2月13日-09:00|日本|兵庫県姫路市|永仁6年|この年、北野天神縁起絵巻(播磨国津田天満宮)ができる
1298年3月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・大徳2年1月19日|<即位>高麗王「忠宣王」(~9.13退位)
1298年3月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・大徳2年1月19日|<退位>第25代高麗王「忠烈王」
1298年3月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト=ツェルプスト候「Siegfried1世」
1298年3月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト=ツェルプスト候「Albert1世」(~1316/08/17死去)
1298年4月10日-09:00|日本| ||永仁6年2月28日|幕府、永仁の徳政令を廃止
1298年4月13日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー=島副守護者「Henri, prieur de Wenlock」(~1299年)
1298年4月28日-09:00|日本|新潟県佐渡市|永仁6年3月16日|前権中納言京極為兼を佐渡に流す
1298年4月30日-03:30|イラン| |||<就任>イル汗朝宰相「Rashid-al-Din Fazlollah Hamadani」(~1316年)、「Sa'd-al-Din in Mohammad Avaji」(~1312年)
1298年5月8日 00:00|ポルトガル| |||<就任>パルティス公「Joao Afonso Telo」(~1304.5死去)
1298年5月12日-08:00|中国/モンゴル| ||元・大徳2年4月|元の郭守敬、渾天漏儀を作成
1298年6月10日-09:00|日本| ||永仁6年5月1日|<死去>宇都宮景綱(64歳)御家人、歌人
1298年6月23日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルムタキ・アルムター・ヒン・ヤーヤ・ビン・アルムタタ」
1298年6月23日-01:00|ドイツ/フランス/スイス| |||<廃位>ドイツ王・ブルグント王「アドルフ」マインツ選帝侯会議で
1298年6月24日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス/イタリア| |||<即位>神聖ローマ帝国宰相「マインツ大司教ゲルハルト・フォン・エップシュタイン」(2回目~7.27)
1298年7月2日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||オーストリア公アルブレヒトが、ゲルハルトの戦いでアドルフを敗死させる
1298年7月22日 00:00|イギリス| |||インランドのEdward 1世が、ウォルカークでスコットランド国ウィリアム・ウォレス軍を破る
1298年7月23日-02:00|トルコ| |||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「トロス3世」
1298年7月27日-01:00|ドイツ/イタリア| |||<即位>ドイツ王・イタリア王「アルブレヒト1世」ルドルフ1世の息子(~1308/05/01没)
1298年8月25日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=ウイッテンベルク公「アルブレヒト2世」
1298年8月25日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=ウイッテンベルク公「ルドルフ1世」(~1356/03/12死去)
1298年8月30日-09:00|日本| ||永仁6年7月22日|<就任>摂政「鷹司兼忠」(~同年12月20日)
1298年8月30日-09:00|日本| ||永仁6年7月22日|<譲位>92代「伏見天皇」上皇となる
1298年8月30日-09:00|日本| ||永仁6年7月22日|<踐祚>93代「後伏見天皇」(10.13即位~1301/01/22)
1298年9月8日-01:00|イタリア| |||ヴェネツィア、クルソーラ海戦でジェノヴァに敗れる。マルコ・ポーロ捕虜となる
1298年9月8日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ランカスター伯・2代レスター伯「トマス」先代の息子(~1322/03/22パラクリッジの戦いに敗れて処刑)
1298年9月13日-09:00|朝鮮| ||高麗・大徳2年8月7日|<退位>高麗王「忠宣王」
1298年9月13日-09:00|朝鮮| ||高麗・大徳2年8月7日|<復位>高麗王「忠烈王」(~1308/07/30(大元年7月13日)死去)
1298年10月-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「アポル・フィア・マーク・ネンペリ・パチ」、「ロラント・フィア・レスタク・ネンペリ・ラート」(~1299年8月)
1298年10月25日-09:00|日本|滋賀県大津市|永仁6年9月19日|延暦寺戒壇・講堂など焼失
1298年11月-02:00|ブルガリア| |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「スマイルツ(スマルク)」
1298年11月-02:00|ブルガリア| |||<就任>第二次ブルガリア帝国摂政「スミルツェナ・パライオキーナ」(~1299年)
1298年11月-02:00|ブルガリア| |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「イヴァン2世」(~1299年11月)
1298年11月21日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア公・シュター=マルク公「ルドルフ3世」ボヘミア王ルドルフ1世(~1307/07/03死去26歳)アルブレヒト1世と共同統治
1299年-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「ソニツ」(~1312年死去)
1299年-05:30|インド| |||ハルジ=朝のアラ=ウッティーンがガーク=朝を滅ぼす
1299年-04:00|ロシア| |||<死去>リャザン大公「ヤロスラフ2世ロマノヴィチ」
1299年-04:00|アルメニア| |||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」(3期目~1303年)
1299年-04:00|ジョージア| |||<即位>グルジア国王「ジョージ5世」(~1302年)
1299年-04:00|ロシア| |||<即位>プロンスク公「イヴァン・ヤロスラヴィチ」(~1308年)
1299年-04:00|ロシア| |||<即位>リャザン公「コンスタンチン・ロマノヴィチ」(~1301年退位~1305年死去)

1300迄 (2243件)

1299年-03:30|イラン/シリア・アラブ | |||イル・ハン国がシリアへ遠征し、マムルーク軍を破る
1299年-03:00|エチオピア | |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝) 皇帝「ウエデム・アラト」(~1314年死去)
1299年-02:00|ギリシャ | |||<死去>テッサリア君主「Theodore Angelos」
1299年-02:00|ギリシャ/イタリア | |||<就任>ヴェネツィアのカンデリア公「ウイタレ・ミエリ」(~1301年)
1299年-02:00|トルコ | |||<復位>キリキア・アルメニア王国国王「ハトゥム2世」トロス3世と共同統治(~1303年譲位~13071117死去)
1299年-01:00|ドイツ | |||<就任>アーレンベルク伯「エンゲルベルト2世」(~13280718死去)
1299年-01:00|ベルギー | |||<就任>シー伯「Arnold3世」(~1310年)
1299年-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/ハンガリー | |||<就任>ボスニア・ハン「ホルム1世」シュビッチ・オヴ・ブリベル」(~13120501死去)
1299年-01:00|バチカン | |||教皇ボニファティウス8世が遺体切断禁止の勅書
1299年-01:00|イタリア | |||マルコ・ポーロの「東方見聞録」が発行
1299年 00:00|チャンネル諸島/イギリス | |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Henri de Bonvillars」(2期目~同年)
⇒「Guillaume de Cosington」(~1302年)
1299年 00:00|チャンネル諸島/イギリス | |||<就任>イギリス王領ジャージー-島副守護者「Denis de Tilbury」
1299年1月16日-02:00|エジプト/シリア・アラブ | |||<死去>パフリー・マムルーク朝スルタン「マンスール・ラーゼーン」暗殺される
1299年1月16日-02:00|エジプト/シリア・アラブ | |||<復位>パフリー・マムルーク朝スルタン「ナシール・ムハンマド」(2期目~1309. 3)
1299年1月23日-09:00|日本 | |||永仁6年12月20日<就任>摂政「二条兼基」(~正安2(1300)年12月16日)
1299年2月28日-09:00|日本|福岡県福岡市|永仁7年1月27日|幕府鎮西評定衆を設置し少弐継資ら四人を任命
1299年4月4日-01:00|イタリア | |||ヴェネツィア、カンデリア反乱を指導したアレツォ・カルギと和睦
1299年4月20日-09:00|日本 | |||永仁7年3月19日<死去>津守国助(58歳) 神職、歌人
1299年5月10日-09:00|日本|福岡県福岡市|永仁7年4月10日|幕府鎮西引付衆を設置
1299年5月17日-04:00|ロシア | |||<死去>フスコフ公「ダウマン」
1299年5月17日-04:00|ロシア | |||<即位>フスコフ公「ダウイト」(~同年)
1299年5月25日-01:00|イタリア | |||ヴェネツィア、ジェノバとの和平
1299年5月25日-09:00|日本 | |||正安1年4月25日|永仁から正安に改元
1299年5月25日-09:00|日本 | |||正安1年4月25日|畿内地方で地震。死者一万余、南禅寺金堂倒れる
1299年6月4日-09:00|日本 | |||正安1年5月5日<死去>二条為道(29歳) 左近衛権中將、歌人
1299年6月19日-01:00|フランス/イギリス | |||フランス王フィリップ4世、パリ郊外東部のモントルイで結ばれた「モントルイ条約」でイングランド王エドワード1世と休戦/フランスがフランス領になる/フランス南西部のギョニヌがイングランド領に帰属
1299年6月23日-01:00|イタリア | |||ヴェネツィアで警察署長に関する法令改正
1299年7月2日-01:00|イタリア | |||<就任>マントヴァのlabel「ターノ・デル・ポネーロ」グイード・ボナコリ」(~13090121)
1299年7月13日-01:00|ノルウェー | |||<死去>ノルウェー王「エリク2世」マグヌソン司祭嫌い王」
1299年7月13日-01:00|ノルウェー | |||<即位>ノルウェー王代行「ヤール・ヨルト」(~8. 10)
1299年7月27日-02:00|トルコ | |||<即位>オスマン帝国ベイ「オスマン1世」独立建国(~13260729)
1299年8月-01:00|ハンガリー | |||<就任>ハンガリー王国label「アマデ・フィア・ダウイト・ネンペリ・アバ」(6回目~1301年)
1299年8月10日-01:00|ノルウェー | |||<即位>ノルウェー王「ホーコン5世」マグヌソン足長王」(~13190508没)
1299年8月31日-09:00|日本|沖縄県|元・大徳3年8月5日<死去>琉球国王「英祖」
1299年8月31日-09:00|日本|沖縄県|元・大徳3年8月5日<即位>琉球国王「大成」(~13090119(至大元年12月8日)死去)
1299年9月5日-01:00|フランス/ドイツ | |||フィリップ4世が、ストラズブルの和約でアルブレヒト1世と同盟し、教皇に対抗
1299年9月18日-09:00|日本|京都府京都市山科区|正安1年8月23日|歓喜光寺の一遍上人絵伝(僧聖戒・円尹ら)で
きる
1299年9月29日 00:00|アイルランド/イギリス | |||<就任>アイルランド 判事代行「アルスター伯リチャード・ド・バーク」(~13000113)
1299年11月-02:00|ブルガリア | |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「チャカ」(~1300年死去)
1299年11月10日-01:00|オランダ | |||<死去>ゼーラント伯・ホルント伯「ヤン(ヨハ)1世」
1299年12月9日-01:00|ドイツ | |||<死去>トリア選帝侯「ボエムント1世」
1299年12月22日-02:00|エジプト/イラン | |||ベルジャの合贊汗(ガザン・ハン)がホムスでマムルーク軍を破る
1299年12月31日-01:00|フランス | |||<死去>アンジュー伯「マルグリット1世」兼メーヌ伯「マルカリータ」26歳
1300年-12:00|ニュージーランド | |||マオリ族がニュージーランドへ移住(第2波?)
1300年-05:30|インド | |||<国名変更>アンハ-国(~1727年11月)
1300年-03:30|イラン | |||<即位>ハバント 朝太守「Shahriyar5世」(~1310年死去)
1300年-03:30|イラン | |||サフィーがサファビ-教団を主催
1300年-03:30|イラン | |||セルジューク朝が末枝を含め完全に消滅
1300年-02:00|ブルガリア | |||<死去>第二次ブルガリア帝国皇帝「チャカ」
1300年-02:00|シリア・アラブ | |||<死去>アイユーブ 朝ハマー・アミール「アル・マンズール・マフムド」
1300年-02:00|トルコ | |||<死去>カラマニ朝ベイ「Güneri Bey」
1300年-02:00|ブルガリア | |||<即位>第二次ブルガリア帝国皇帝「セオドア・スヴェトスラフ」共同統治者(~1322年8月死去)
1300年-02:00|トルコ | |||<即位>カラマニ朝ベイ「Bedreddin Mahmut Bey」(~1308年)
1300年-02:00|トルコ | |||<復位>ルーム・セルジューク朝スルタン「カイハート3世」(3回目~1302年)
1300年-01:00|ドイツ | |||<死去>ニルンベルク城伯「ヨハン1世」
1300年-01:00|ドイツ | |||<死去>ハーデーン=ハーデーン辺境伯「ヘルマン8世」
1300年-01:00|クアチア | |||<就任>スラヴォニア全土のlabel「ラティスラフ・オト・フレルム・ラトル」(~同年)
1300年-01:00|ドイツ | |||<就任>トリア選帝侯「ティーター」(~13071123死去)

1300迄 (2243件)

1300年-01:00|ドイツ| |||<就任>トリ-ア選帝侯「ハインリヒ2世 (対立司教)」(~1306年)
1300年-01:00|ドイツ| |||<就任>ニュルンベルク城伯「フリードリヒ4世」(~13320519死去)
1300年 00:00|マリ| |||<死去>マリ帝国マンサ「Sakura」
1300年 00:00|マリ| |||<即位>マリ帝国マンサ「Gao」(~1305年)
1300年 05:00|ペルー| |||インカ帝国がチチカ湖周辺を征圧
1300年 06:00|アメリカ| |||プエブロインディア人がサンタフェに住みはじめ、岩絵をのこす
1300年 07:00|メキシコ| |||このころアステカ族がメキシコ中央高地に侵入
1300年1月23日-09:00|日本| ||正安2年|<任命>長門探題「北条時村」(~嘉元3(1305)年4月23日殺害される)
1300年1月23日-09:00|日本| ||正安2年|この年、土佐吉光の法然上人絵伝できる
1300年2月-03:30|イラン/シリア・アラブ| |||イル・ハン国のガースー・ハンがシリアから帰兵
1300年3月28日-09:00|日本|香川県三豊市|正安2年3月7日|本山寺(現、豊中町)本堂(国宝), 造営
1300年3月30日-09:00|日本|京都府京都市|正安2年3月9日|常盤井殿焼亡、玄輝門院御所焼亡
1300年5月22日-09:00|日本| ||正安2年5月3日|<死去>暉子内親王(室町院)(73歳)後堀河天皇の皇女
1300年6月25日-01:00|イタリヤ| |||ベネチアとアイルランド大司教との協定
1300年7月11日-09:00|日本|福岡県福岡市|正安2年6月24日|鎮西に刑事裁判を司どる検断職設置
1300年7月21日-09:00|日本| ||正安2年7月5日|幕府が所領の入質売買を禁止し、同時に以前の売却地を故主に返却させる
1300年7月25日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ウァツワフ2世」兼ポーミア王・マウホフスカ公・モウイェン境界伯⇒ポーランド王(~13050621死去33歳)
1300年11月20日-09:00|日本| ||正安2年10月9日|幕府:越訴を停止
1300年12月4日-01:00|ドイツ/ポーランド| |||<死去>ブランデンブルク=ザルツヴェーデル境界伯「アルブレヒト3世」
1300年12月19日-02:00|ラトヴィア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「イサル・モーラーネ」(~13020411)